人間福祉学概論					単位数	2単位
授業コード	50015	科目ナンバリング	310A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	濱崎　絵梨、杉山　博昭、崎川　修、中井　俊雄					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

各概論の授業は，人間生活学科の多彩で幅広い学問領域の基礎を学ぶとともに，学問習得に向けた動機付けを行うことを目的とする。
人間福祉学概論では，本学独自の福祉学である「人間福祉学」について学ぶ。「人間福祉学」は人間学を中心に構築された福祉学である。福祉のいかなる制度や技術も，まず人間への深い理解がなければ活かされることはない。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
１	人が人を大切にする。それが人間福祉の原点である。この原点に立ち返る眼を養い，日常生活において自他を尊重することができる。	思考・判断・表現力／主体性
２	物質的豊かさにとどまらない人間性に満ちた人間生活について，多角的に捉えて述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
３	人間の尊厳を実現・維持していくための人間福祉の営みについて考察し記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
４		
５		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
１	授業への取り組み　20%	1／2／3
２	筆記試験　80%	1／2／3
３		
４		
５		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

子ども，障害者，高齢者，貧困，地域福祉の実践現場に携わっている・携わってきた教員および外部講師による講義を通して，人間学に基づいた人間福祉について，理論を踏まえたうえで実践と結びつけながら考察させることができる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　人間福祉とは何か（崎川）
２　人間の尊厳とは何か（崎川）
３　ケアと生活世界（崎川）
４　ケアの倫理と実践（特別講義講師）
５　子どもの権利とウェルビーイング（特別講義講師 八重樫）
６　児童虐待とウェルビーイング（特別講義講師 八重樫）
７　女性と人権（特別講義講師）
８　見えない貧困と現代（杉山）
９　生活上のリスクをどう乗り越えるか（杉山）
10　生活困窮者支援の実際（特別講義講師 新名）
11　地域福祉と住民主体（中井）
12　支え合いのまちづくり（中井）
13　精神障害者と歩む日々（特別講義講師 多田）
14　高齢社会とわたしたちの暮らし（濱崎）
15　認知症とともに豊かに生きる（濱崎）

定期試験

16週目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folioに解答のポイントを掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を読んだうえで授業にのぞむこと（1時間程度）
（復習）テーマに関連する話題について調べて理解を深めること（1時間程度）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『ケアを生きる私たち』，ノートルダム清心女子大学人間生活学科編，大学教育出版，2016年
※一回目の授業時に販売する

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは各担当教員が授業時に伝える。

連絡先

濱﨑絵梨（hamasaki@m.ndsu.ac.jp）

留意事項

成績は2年次に実施するコース・ゼミ分けの資料となる。

経営経済学概論					単位数	2単位
授業コード	50020	科目ナンバリング	310A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	大東　正虎、清水　純一、豊田　尚吾、深谷　信介、葉口　英子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では、経営経済学コースの教員によるミクロ・マクロ経済、マーケティング、情報処理といった経営経済に関連した研究領域の基礎を学ぶ。
現代の企業活動や消費行動について、生活者の視点から分析し、将来的にビジネスに活用できる知識と考える力を身につけることを目標とする。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	経営経済に関する研究領域の基礎知識を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	現代の企業活動や消費行動について生活者の視点から分析できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	経営経済に関する研究領域に関心を持ち、その関心に基づき主体的に考え、記述することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー（50%）	1／2／3
2	事前事後課題・小テスト・レポート（50%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第1週　第1回：経済学概論（現代社会と経済学、資料やグラフの見方）　豊田
第2週　第2回：経済学を理解するための統計学（平均、分散から多変量解析まで）　豊田
第3週　第3回：マクロ経済学の基本（景気、お金、労働）　豊田
第4週　第1回：ミクロ経済学の前提 清水
第5週　第2回：需要と供給 清水
第6週　第3回：価格弾力性 清水
第7週　第1回：経営学概論（経営学とは？経済と経営とマーケティングの連関性と歴史）深谷
第8週　第2回：経営学の基本（企業組織・戦略・技術）　深谷
第9週　第3回：マーケティングの基本（マーケティングとは？ 基本フレーム）深谷
第10週　第1回：情報処理概論（コンピュータはどのように利用されてきたのか）　大東
第11週　第2回：情報処理基礎（コンピュータの構成と演算方法）大東
第12週　第3回：情報処理の応用例（企業活動における意思決定：選択行動における情報の役割）大東
第13週　第1回：メディアと消費者（企業と消費者のコミュニケーション）　葉口
第14週　第2回：マーケティング活動とプロモーション（多メディア時代のプロモーション戦略 葉口
第15週　第3回：SNSマーケティング（SNSを活用したプロモーションとその効果）　葉口

定期試験

なし

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・担当教員の指示に従い、事前事後の課題に取り組む。（約１時間）
・普段から経営経済に関連するニュースや情報を収集し、関心や問題意識を高めておく。（時間はとくにもうけない）

必携書（教科書販売）

使用しない。

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
　資料等を配付する。

＜参考書等＞
　担当教員が授業時に紹介する。

オフィスアワー

担当教員が授業時に伝える。

連絡先

daito@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・人間生活学科の必修授業である。
・成績はコース・ゼミ分けの参考資料とする場合がある。

生活環境学概論					単位数	2単位
授業コード	50025	科目ナンバリング	310A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	成清　仁士、中川　敦子、立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

生活環境学概論では，人間生活学科の多彩で幅広い学問領域の基礎を学ぶとともに，学問習得に向けた動機付けを行うことを目的とする。特に，人間生活を取り巻く諸問題やその背景などについて，衣食住の視点から考察することによって，意識しないままに過ごしている日々の生活の重要さに気付き，その質の向上を目指して主体的に関わろうとする姿勢を身に付けていく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間生活を取り巻く諸問題を多角的に捉えて述べることができる。	知識・技能
2	生活上の諸問題の背景を考察し説明することができる。	思考・判断・表現力
3	人間生活の変化に関心を持ち，生活の質の向上について記述することができる。	主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー 20%	1／2
2	課題レポートまたはテスト 80%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

まちづくり分野で地域資源の発掘・発信や活性化事業の企画立案・発掘・調整業務に携わった経験から、住まいづくりやまちづくりに関わる様々な要素を評価する視点を多角的に取り上げ、これからの住まいのあり方について学生に主体的に考え判断することを促す。（成清）

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. ガイダンス：生活環境について考える（成清）

【住環境と生活】
2. 暮らしと住まいについて考える（成清）
3. 住まいの計画（成清）
4. 住環境のデザイン（成清）
5. 住環境と生活、まとめ（成清）

【衣服と生活】
6. 日本における衣服（中川）
7. 体温調節と衣服（中川）
8. 衣服の着心地（1）（中川）
9. 衣服の着心地（2）（中川）
10. 快適な衣服、まとめ（中川）

【食と生活】
11. 食と健康、食事調査の方法（立石）
12. 食事調査の評価と改善（立石）
13. 食事の管理（立石）
14. 食事の役割、種類、様式（立石）
15. 食の問題、まとめ（立石）

定期試験
課題レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
各担当教員の授業時やmanaba folioを活用して解説やコメントをする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各回の講義内容に関連する図書や資料に積極的に触れることで人間生活に関する関心を高め，課題意識を持って生活を分析的に見るようにしてください。 ・次回授業予定のテーマに関して関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく（３０分）。 ・授業を振り返り、学習内容をもとに課題意識をもって生活を分析的に見る（１時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 資料等を配付する。 ＜参考書等＞ 各担当者が授業時に紹介する。
オフィスアワー
各担当教員が授業時に伝える。
連絡先
narikiyo@m.ndsu.ac.jp（成清） nakagawa@m.ndsu.ac.jp（中川） s4041@m.ndsu.ac.jp（立石）
留意事項
人間生活学科の必修授業である。 成績は2年次に実施する研究室分けの資料ともなる。

人間生活学基礎研究Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	50032	科目ナンバリング	310A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	大東　正虎、崎川　修、清水　純一、杉山　博昭、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、中川　敦子、成清　仁士、葉口　英子、濱崎　絵梨、立石　麻美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	複数／オムニバス／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業は,人間生活学科の各担当教員による少人数制の演習形式で行う。本授業の目的は次の通りである。
・大学での学修として中心的な授業形式であるゼミ単位での演習に慣れる。
・大学での学修・研究に必要なアカデミック・スキルを理解し身につける。
・所定の文献を講読し,読解力を身につける。
・発表と質疑応答などを通じて演習形式のグループ学習に慣れる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	大学での学修・研究に必要なアカデミック・スキルを実行できる。	知識・技能／主体性
2	研究に必要な文献・資料を検索・収集し、それらの情報を適切に取り扱うことができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	レポートの作成によりアカデミック・スキルを定着できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	プレゼンテーションにより自分の考えをわかりやすく他者に表現する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み　30%	1／2／4
2	事前事後課題　20%	1
3	ブックレポートの作成　　20%	1／2／3／4
4	期末課題レポート　　30%	1／2／3／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

授業は以下の予定で進め、各クラスの担当教員が詳細を指示する。
1　オリエンテーション（授業の概要・到達目標・具体的な授業の進め方について）
2　大学での学び（研究テーマ、問い、アカデミックスキルズとは）
3　新入生図書館オリエンテーション
4　全体会（レクリエーション等）
5　個別面談
6　個別面談
7　パソコンの活用
8　ノートの取り方
9　情報収集の基礎
10　読解
11　情報の整理
12　統計資料の読み方
13　レポートの書き方
14　全体会（キャリアガイダンス）
15　　個別面談

定期試験

期末レポート

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説を行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

大学生活の基盤となるアカデミック・スキルを学ぶ授業である。各自の積極的な取り組みによって，スキルの定着を図ってほしい。
事前学習として必ず次週に予定されている内容に関してテキストの該当部分を熟読し，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（1時間）。
毎回の授業の内容を復習し、知識を蓄積し、深めていくこと（1時間）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書（授業時に販売する）＞
『よくわかる大学生のための研究スキル』2023年,ノートルダム清心女子大学人間生活学科編,大学教育出版

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当教員が授業時に伝える。

連絡先

・クラス担当教員（アドバイザー）メールアドレスは入学時オリエンテーション資料に掲載。
・manabaにて基礎研究クラス毎のマイコースにて担当教員（アドバイザー）との連絡も可能。

留意事項

人間生活学科の必修授業である。

人間生活学基礎研究II				単位数	2単位
授業コード	50034	科目ナンバリング	310A0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	大東　正虎、崎川　修、清水　純一、杉山　博昭、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、中川　敦子、成清　仁士、葉口　英子、濱崎　絵梨、立石　麻美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	複数／クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業は,人間生活学科の各担当教員による少人数制の演習形式で行う。本授業の目的は次の通りである。
・大学での学修として中心的な授業形式であるゼミ単位での演習に慣れる。
・大学での学修・研究に必要なアカデミック・スキルを理解し身につける。
・所定の文献を講読し,読解力を身につける。
・発表などを通じて演習形式のグループ学習に慣れる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	大学での学修・研究に必要なアカデミック・スキルを実行できる。	知識・技能／主体性
2	研究に必要な文献・資料を検索・収集し、それらの情報を適切に取り扱うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	テーマを設定し，テーマに沿った文献・資料を収集し、整理できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	発表・レポート作成を繰り返すことで，アカデミック・スキルを定着させる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	他者の発表に対し質問や意見を積極的に述べることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	夏季休暇期間自由課題レポートと発表　20%	1／2／3／4
2	ブックレポート作成と発表・レジュメ　30%	1／2／3／4
3	ディスカッションに対する取り組みや参加　20%	1／2／5
4	期末課題レポート　30%	1／2／3／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション（授業の概要・到達目標・具体的な授業の進め方について）
2～3　夏季休暇期間課題のフィードバック（プレゼンテーション）
4　キャリアガイダンス
5～6　個別面談/図書館を活用した情報検索・資料収集オリエンテーション（順次クラス毎）
7　　プレゼンテーション（口頭発表・レジュメの作成含む）
8　ディスカッション
9　卒論に向けて
10～15　ブックレポートの発表とディスカッション

定期試験

期末レポート

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説を行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

大学生活の基盤となるアカデミック・スキルを学ぶ授業である。各自の積極的な取り組みによって，スキルの定着を図ってほしい。
事前学習として必ず次週に予定されている内容に関してテキストの該当部分を熟読し，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（1時間）。
毎回の授業の内容を復習し、知識を蓄積し、深めていくこと（1時間）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『よくわかる大学生のための研究スキル』2023年,ノートルダム清心女子大学人間生活学科編,大学教育出版

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当教員が授業時に伝える。

連絡先

・クラス担当教員（アドバイザー）メールアドレスは入学時オリエンテーション資料に掲載。
・manabaにて基礎研究クラス毎のマイコースにて担当教員（アドバイザー）との連絡も可能。

留意事項

人間生活学科の必修授業である。

人間生活学演習ＩＡ					単位数	2単位
授業コード	50040	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	濱崎　絵梨、崎川　修、清水　純一、杉山　博昭、大東　正虎、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、中川　敦子、成清　仁士、葉口　英子、立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は，テーマに基づくグループ研究を中心に行う。
授業の目的は次の通りである。１）人間生活学科における幅広い多様な学びを理解するとともに，それらの関連性について分野横断的に考察する力を養う。２）テーマに基づく情報収集・整理，ディスカッション，レポート作成といった一連のアカデミック・スキルの定着を図る。３）ティスカッションを通じて，論理的思考力を養うとともに，対話力や共感力を涵養する。４）自らの興味・関心を深めることでゼミ選択につなげる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
１	人間生活学科における幅広い多様な学びを理解するとともに，それらの関連性について分野横断的に考察して記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
２	テーマに基づく情報収集・整理，ディスカッション，レポート作成の一連のアカデミック・スキルを実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
３	論理的・説得的な意見を述べるとともに，他者の意見を共感的に理解し建設的なディスカッション・グループ研究ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
４		
５		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
１	課題レポート　50%	1／2／3
２	ディスカッション、グループ研究への取り組み　50%	1／2／3
３		
４		
５		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　　オリエンテーション・個別面談
２～５　　第１クール（コース・ゼミ紹介、テーマに基づくグループ研究）
６～９　　第２クール（コース・ゼミ紹介、テーマに基づくグループ研究）
１０　　個別面談
１１～１４　第３クール（コース・ゼミ紹介、テーマに基づくグループ研究）
１５　　コース・ゼミ選抜

定期試験

課題レポート

試験のフィードバックの方法

個別指導によるフィードバック

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習：グループ研究のテーマに関する資料等をしっかりと読み込み事前準備をしてから臨むこと（１時間程度）。
復習：グループ研究を通じて，テーマに関する理解を深め，課題レポートを作成する（２時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
『大学生のための研究ハンドブック-よくわかるレポート・論文の書き方-』ノートルダム清心女子大学人間生活学科編，大学教育出版，2011年
『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門-（第2版）』佐藤望他編，慶應義塾大学出版会，2012年
※いずれも「人間生活学基礎研究Ⅰ」で入手済み
その他の参考書・資料等は担当教員が授業時に伝える。

オフィスアワー

担当教員が授業時に伝える。

連絡先

濱﨑絵梨（hamasaki@m.ndsu.ac.jp）

留意事項

人間生活学演習ＩＢ					単位数	2単位
授業コード	50050	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	濱崎　絵梨、崎川　修、杉山　博昭、大東　正虎、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、中川　敦子、成清　仁士、葉口　英子、立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は，人間生活学科における人間福祉，経営経済、生活環境の３つの研究分野から，自分の問題意識と関心に沿った領域について，各研究室・ゼミに分かれ，研究活動を進めることを目的とする。これまでに習得したアカデミック・スキルを活用し，資料収集・調査・分析・討議・発表等，一連のスキルの深化をはかる。その成果を3年次から始まる「人間生活学演習Ⅱ」へと繋げる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間生活に関わる様々な課題について，情報を収集・分析・統合させ，多角的な視点から考察して，説明・記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	人間生活学科の研究領域の中から，自分の問題意識や関心に基づき，研究テーマを設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	意欲的に他者に働きかけ，メンバーと協働しながらコース・ゼミ運営ができる。	主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	ディスカッション，資料収集などを通じた研究への取り組み　40%	1／2／3
2	課題（レポート、発表等）　60%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

＜一例＞
コース・ゼミに分かれて、以下のように研究を進める。
１～３　研究テーマの決定
４～６　研究内容の検討・展開・協議
７～９　研究資料・調査・文献等の収集・分析・報告
10～15　研究方針の取りまとめ・発表

※上記の予定は一例である。
予定と内容は各研究室・ゼミによって異なるため、担当教員によるオリエンテーションで説明される指示に従うこと。

定期試験
課題レポート
試験のフィードバックの方法
個別指導によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各担当教員の指示に従うこと。 ゼミの前後に研究テーマに関する指導に基づき、予習（準備）と復習を1-2時間程度行うこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書等〉 テキスト、資料等は担当教員が指示する。
オフィスアワー
担当教員が授業時に伝える。
連絡先
担当教員が授業時に伝える。
留意事項

人間生活学演習ＩＩ					単位数	4単位
授業コード	50060	科目ナンバリング	310B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	中川　敦子、崎川　修、杉山　博昭、大東　正虎、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、成清　仁士、葉口　英子、濱崎　絵梨、立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では、人間生活学科における人間関係、社会福祉、経営経済、生活環境、生活文化に関連したこれまでの多様な学びと豊富な知識を踏まえ、ゼミでの学習を通じて、個々の問題意識を深め、各自のテーマを絞り、研究に取り組むことを目的とする。まず、各自の研究テーマの設定・検討・資料収集・調査・考察に取り組む。次に、これまでに習得した知識と体得したスキルをもとに、卒業論文作成に関する一連の作業（実践活動を含む）に取り組み、完成に向けた研究活動を遂行する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間生活学科において習得した豊富な知識を自分の研究に応用できる。	知識・技能
2	人間生活を取り巻く諸問題に対する問題意識に基づき、自分の研究テーマの設定や調査・考察を遂行できる。	思考・判断・表現力
3	これまでに体得した研究スキルをもとに、卒業論文作成に関する一連の作業に取り組み、順調に進めることができる。	主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	演習時の発表内容　30%	1／2
2	研究への取り組み姿勢　20%	2／3
3	課題の到達レベル（レポート等）　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学外機関（企業、行政、NPO、地域など）との連携を積極的に推進する場合がある(ゼミによって異なる)。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

（一例）
第1期
1～3.　研究テーマの決定
4～6.　研究内容の検討・展開・協議
7～9.　研究資料・調査・文献等の収集・報告
10～15.研究方針の取りまとめ・発表

第2期
1～3.　卒業論文の構成について
4～6.　卒業論文の進め方
7～9.　研究資料の収集・調査等の実施、文献等の分析・評価
10～15.卒業論文作成に向けての取りまとめ

＊上記の予定は一例であり、各ゼミの内容および進行は各担当教員が指示する。

定期試験

（一例）
第1期末：課題レポートを提出する。
　　リサーチクエッションの明確化、事実認識、既存研究のレビュー、仮説設定など、論文の基本的な骨組みの明確化を行い、それについて述べる。

第2期末：課題レポートを提出する。
　　引き続き、リサーチクエッションの明確化、事実認識、既存研究のレビュー、仮説設定など、論文の基本的な骨組みの明確化を行い、それについて述べる。
　　上記に加え、仮説の検証、分析・考察、提案などを述べる。
　　また、論文の完成に向けたプロトタイプを作成して提出する。

試験のフィードバックの方法

個別指導によるフィードバック

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

各担当教員の指示に従って、予習（準備）、復習を各１時間程度行い、下調べや研究発表の準備をしておくこと。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
　テキスト・資料等は担当教員が指示する。

＜参考書等＞
　資料等は担当教員が指示する。

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当教員が授業中に伝える。

連絡先

・担当教員（アドバイザー）のメールアドレスはオリエンテーション資料に掲載している。
・manabaのマイコースにて担当教員（アドバイザー）との連絡も可能である。

留意事項

人間生活学科の必修授業である。
各研究室・ゼミによって指導方法、課題、成績評価は異なるため、各ゼミの担当教員の指示に従うこと。

人間生活学演習IIA					単位数	2単位
授業コード	50100	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中川　敦子、崎川　修、杉山　博昭、大東　正虎、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、成清　仁士、葉口　英子、濱崎　絵梨、立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では、人間生活学科における人間関係、社会福祉、経営経済、生活環境、生活文化に関連したこれまでの多様な学びと豊富な知識を踏まえ、ゼミでの学習を通じて、個々の問題意識を深め、各自のテーマを絞り、研究に取り組むことを目的とする。まず、各自の研究テーマの設定・検討・資料収集・調査・考察に取り組む。次に、これまでに習得した知識と体得したスキルをもとに、卒業論文作成に関する一連の作業（実践活動を含む）に取り組み、完成に向けた研究活動を遂行する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間生活学科において習得した豊富な知識を自分の研究に応用できる。	知識・技能
2	人間生活を取り巻く諸問題に対する問題意識に基づき、自分の研究テーマの設定や調査・考察を遂行できる。	思考・判断・表現力
3	これまでに体得した研究スキルをもとに、卒業論文作成に関する一連の作業に取り組み、順調に進めることができる。	主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	演習時の発表内容　30%	1／2
2	研究への取り組み姿勢　20%	2／3
3	課題の到達レベル（レポート等）　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学外機関（企業、行政、NPO、地域など）との連携を積極的に推進する場合がある(ゼミによって異なる)。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

（一例）
1～3.　研究テーマの決定
4～6.　研究内容の検討・展開・協議
7～9.　研究資料・調査・文献等の収集・報告
10～15.研究方針の取りまとめ・発表

＊上記の予定は一例であり、各ゼミの内容および進行は各担当教員が指示する。

定期試験

（一例）
課題レポートを提出する。
　リサーチクエッションの明確化、事実認識、既存研究のレビュー、仮説設定など、論文の基本的な骨組みの明確化を行い、それについて述べる。

試験のフィードバックの方法

個別指導によるフィードバック

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

各担当教員の指示に従って、予習（準備）、復習を各１時間程度行い、下調べや研究発表の準備をしておくこと。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
　テキスト・資料等は担当教員が指示する。

＜参考書等＞
　資料等は担当教員が指示する。

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当教員が授業中に伝える。

連絡先

・担当教員（アドバイザー）のメールアドレスはオリエンテーション資料に掲載している。
・manabaのマイコースにて担当教員（アドバイザー）との連絡も可能である。

留意事項

人間生活学科の必修授業である。
各研究室・ゼミによって指導方法、課題、成績評価は異なるため、各ゼミの担当教員の指示に従うこと。

人間生活学演習ⅡB				単位数	2単位
授業コード	50200	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	中川　敦子、崎川　修、杉山　博昭、大東　正虎、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、成清　仁士、葉口　英子、濱崎　絵梨、立石　麻美子				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では、人間生活学科における人間関係、社会福祉、経営経済、生活環境、生活文化に関連したこれまでの多様な学びと豊富な知識を踏まえ、ゼミでの学習を通じて、個々の問題意識を深め、各自のテーマを絞り、研究に取り組むことを目的とする。まず、各自の研究テーマの設定・検討・資料収集・調査・考察に取り組む。次に、これまでに習得した知識と体得したスキルをもとに、卒業論文作成に関する一連の作業（実践活動を含む）に取り組み、完成に向けた研究活動を遂行する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人間生活学科において習得した豊富な知識を自分の研究に応用できる。	知識・技能
2	人間生活を取り巻く諸問題に対する問題意識に基づき、自分の研究テーマの設定や調査・考察を遂行できる。	思考・判断・表現力
3	これまでに体得した研究スキルをもとに、卒業論文作成に関する一連の作業に取り組み、順調に進めることができる。	主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	演習時の発表内容　30%	1／2
2	研究への取り組み姿勢　20%	2／3
3	課題の到達レベル（レポート等）　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

学外機関（企業、行政、NPO、地域など）との連携を積極的に推進する場合がある(ゼミによって異なる)。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

（一例）
1～3.　卒業論文の構成について
4～6.　卒業論文の進め方
7～9.　研究資料の収集・調査等の実施、文献等の分析・評価
10～15.卒業論文作成に向けての取りまとめ

＊上記の予定は一例であり、各ゼミの内容および進行は各担当教員が指示する。

定期試験

（一例）
課題レポートを提出する。
　リサーチクエッションの明確化、事実認識、既存研究のレビュー、仮説設定など、論文の基本的な骨組みの明確化を行い、それについて述べる。
　上記に加え、仮説の検証、分析・考察、提案などを述べる。
　また、論文の完成に向けたプロトタイプを作成して提出する。

試験のフィードバックの方法

個別指導によるフィードバック

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

各担当教員の指示に従って、予習（準備）、復習を各１時間程度行い、下調べや研究発表の準備をしておくこと。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
　テキスト・資料等は担当教員が指示する。

＜参考書等＞
　資料等は担当教員が指示する。

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当教員が授業中に伝える。

連絡先

・担当教員（アドバイザー）のメールアドレスはオリエンテーション資料に掲載している。
・manabaのマイコースにて担当教員（アドバイザー）との連絡も可能である。

留意事項

人間生活学科の必修授業である。
各研究室・ゼミによって指導方法、課題、成績評価は異なるため、各ゼミの担当教員の指示に従うこと。

人間関係学Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	51000	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	崎川　修					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「ケアとしての人間関係」
他者とのかかわりは、人間の生（いのち＝くらし）の成立に不可欠な条件である。この授業では、他者との交流の本質を「ケア」の営みのうちに捉えて、そのあるべき姿を考察する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ケアの概念に基づいた健全な人間関係の形成のプロセスについて理解し、愛や友情などにおける具体的事例を挙げて、それらを説明することができる。	知識・技能
2	自らの生活における人間関係の具体的問題について、ケアの概念についての理解を踏まえて考察し、それらに向き合っていく方法について意見を述べることができる。	思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度、リアクションペーパー：50%	1／2
2	期末レポート：50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．　導入：人間関係を学ぶ
２．「かかわり」の風景
３．『星の王子さま』に学ぶ①サン=テグジュペリの世界
４．『星の王子さま』に学ぶ②バラとの出会いと別れ
５．　愛することの意味①（エロスとフィリア）
６．　愛することの意味①（アガペーからケアへ）
７．　ケアとしての人間関係
８．　ケアの概念分析
９．　ケアの発生論
10. ケアの「場」を考える
11.『星の王子さま』に学ぶ③絆を結ぶこと
12.『星の王子さま』に学ぶ④目に見えないもの
13. 苦悩の人間学
14. スピリチュアルケアの本質
15. まとめ

定期試験
期末レポートを提出してもらう。詳しい内容は授業内で指示する。

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業内で指示するテキストの該当部分に目を通しておく。（30分）
（復習）リアクションで提出した内容を振り返り、考察を深める。（30分）

必携書（教科書販売）
『星の王子さま』サン=テグジュペリ/内藤濯訳,岩波文庫,2017 ISBN9784003751312
『他者と沈默˜ウィトゲンシュタインからケアの哲学へ』崎川　修,晃洋書房,2020 ISBN9784771033054

必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞
『ケアの本質』メイヤロフ, ゆみる出版,1987年
ほか授業内で随時紹介する。
適宜プリント資料を配布する。

オフィスアワー
授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。

連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項
・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、「不可」となる場合がある。
・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、「不可」となるので注意すること。
・『星の王子さま』は内藤濯訳（岩波書店）を用いる。他の出版社の訳を持っている場合は必ず岩波書店版を準備すること。

女性学ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	51030	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中谷　文美					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業の狙いは、日本をはじめ、世界のさまざまな社会を対象とし、女性や男性の生活にまつわる問題をジェンダーの視点で考えることにある。とくに文化人類学のアプローチを重視することで、異文化理解が日本に生きる私たちの現状をみつめ直すうえでどのように役立つのかを理解することをめざす。視聴覚教材や新聞記事、統計資料などを多用する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ジェンダー概念の理論的背景が説明できる。	知識・技能
2	ジェンダーをめぐる諸問題を世界のさまざまな社会の生活実態に即して考えられる。	思考・判断・表現力
3	ジェンダーにかかわるさまざまな問題を、現代日本社会における自分自身の課題とも関連付けることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業後の課題提出（指定した動画、新聞記事などへのコメントを含む）　50%	2／3
2	期末レポート　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. ジェンダーとは何か（1）：ジェンダー概念の理論的背景
2. ジェンダーとは何か（2）：ジェンダー概念の理論的背景
3. 女性の生き方をめぐって　：世界のさまざまな社会の生活実態
4. はたらく(1) 性別分業：ジェンダーをめぐる諸問題
5. はたらく(2) 家事は仕事か：ジェンダーをめぐる諸問題
6. 結婚する（1）映像視聴とグループ討論：ジェンダーをめぐる諸問題
7. 結婚する（2）夫婦別姓　：現代日本社会における自分自身の問題との関連付け
8. 産む（1）映像視聴とグループ討論：ジェンダーをめぐる諸問題
9. 産む（2）出産をめぐる文化と社会　：ジェンダーをめぐる諸問題
10. 育てる　親子のつながりとは　：ジェンダーをめぐる諸問題
11. 女になる、男になる　成人式：現代日本社会における自分自身の問題との関連付け
12. 性をゆさぶる（1）トランスジェンダー/ノンバイナリー：ジェンダーをめぐる諸問題
13. 性をゆさぶる（2）グループ討論：現代日本社会における自分自身の問題との関連付け
14. ファッションとジェンダー：ジェンダーをめぐる諸問題
15. まとめの講義とグループ討論：現代日本社会における自分自身の問題との関連付け

定期試験
期末レポートを提出する。授業中に取り上げた素材を用いながら、理解できた内容や与えられた問いに対する自分の考えを明確に述べることが求められます。
試験のフィードバックの方法
提出されたレポートの評価のポイントや受講生に共有すべき内容をmanabafolioに掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業のあとに、終わった授業内容に関連する課題と次回の授業内容にかかわる課題を指示するので、期日までに必ずManabafolioを通じて提出してください（必要1時間程度）。また、授業に関連する新聞記事・統計などの各種資料や指定された動画に目を通す必要があります（30分程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜、授業中に提示する
オフィスアワー
学外講師であるため、オフィスアワーはありませんが、問い合わせなどにはメールでお答えします。授業終了後の質問も受け付けます。
連絡先
nakatani[@]okayama-u.ac.jp
留意事項
本授業では、グループ討論を含め、授業全体を通じて積極的な参加を求めます。

女性学					単位数	2単位
授業コード	51035	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中谷　文美					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業の狙いは、日本をはじめ、世界のさまざまな社会を対象とし、女性や男性の生活にまつわる問題をジェンダーの視点で考えることにある。とくに文化人類学のアプローチを重視することで、異文化理解が日本に生きる私たちの現状をみつめ直すうえでどのように役立つのかを理解することをめざす。視聴覚教材や新聞記事、統計資料などを多用する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ジェンダー概念の理論的背景が説明できる。	知識・技能
2	ジェンダーをめぐる諸問題を世界のさまざまな社会の生活実態に即して考えられる。	思考・判断・表現力
3	ジェンダーにかかわるさまざまな問題を、現代日本社会における自分自身の課題とも関連付けることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業後の課題提出（指定した動画、新聞記事などへのコメントを含む）　50%	2／3
2	期末レポート　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. ジェンダーとは何か（1）：ジェンダー概念の理論的背景
2. ジェンダーとは何か（2）：ジェンダー概念の理論的背景
3. 女性の生き方をめぐって　：世界のさまざまな社会の生活実態
4. はたらく(1) 性別分業：ジェンダーをめぐる諸問題
5. はたらく(2) 家事は仕事か：ジェンダーをめぐる諸問題
6. 結婚する（1）映像視聴とグループ討論：ジェンダーをめぐる諸問題
7. 結婚する（2）夫婦別姓　：現代日本社会における自分自身の問題との関連付け
8. 産む（1）映像視聴とグループ討論：ジェンダーをめぐる諸問題
9. 産む（2）出産をめぐる文化と社会　：ジェンダーをめぐる諸問題
10. 育てる　親子のつながりとは　：ジェンダーをめぐる諸問題
11. 女になる、男になる　成人式：現代日本社会における自分自身の問題との関連付け
12. 性をゆさぶる（1）トランスジェンダー/ノンバイナリー：ジェンダーをめぐる諸問題
13. 性をゆさぶる（2）グループ討論：現代日本社会における自分自身の問題との関連付け
14. ファッションとジェンダー：ジェンダーをめぐる諸問題
15. まとめの講義とグループ討論：現代日本社会における自分自身の問題との関連付け

定期試験
期末レポートを提出する。授業中に取り上げた素材を用いながら、理解できた内容や与えられた問いに対する自分の考えを明確に述べることが求められます。
試験のフィードバックの方法
提出されたレポートの評価のポイントや受講生に共有すべき内容をmanabafolioに掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業のあとに、終わった授業内容に関連する課題と次回の授業内容にかかわる課題を指示するので、期日までに必ずManabafolioを通じて提出してください（必要1時間程度）。また、授業に関連する新聞記事・統計などの各種資料や指定された動画に目を通す必要があります（30分程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
適宜、授業中に提示する
オフィスアワー
学外講師であるため、オフィスアワーはありませんが、問い合わせなどにはメールでお答えします。授業終了後の質問も受け付けます。
連絡先
nakatani[@]okayama-u.ac.jp
留意事項
本授業では、グループ討論を含め、授業全体を通じて積極的な参加を求めます。

社会倫理学Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	51040	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	崎川　修					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代社会における「いのち」についての様々な問題を、倫理学的な視点から検討する。またカトリック教会における生命倫理についての考え方にも触れる。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代における生命倫理問題についての基本知識を備え、その問題点を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	倫理学的な問題意識から、生と死の問題を考察することができるようになる。	思考・判断・表現力／主体性
3	「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度、リアクションペーパー：40%	2／3
2	期末レポート：60%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 導入:「いのち」の現在形
2. 死生観とその系譜①古典的死生観
3. 死生観とその系譜②近代的死生観
4. 生命倫理学の誕生
5. 「誕生」をめぐる倫理
6. バース・コントロールの問題
7. 人工生殖技術① 人工授精と体外受精
8. 人工生殖技術②代理母・代理出産
9. 高度人体改造医療と人間
10. 「死」をめぐる倫理問題
11. 安楽死と尊厳死①安楽死とは何か
12. 安楽死と尊厳死②治療中止の倫理問題
13. 終生期ケアの意義
14. カトリック教会と生命倫理
15. まとめ

定期試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書の該当部分を読んでおく。（30分）
（復習）授業内容に関連するニュースや文献を調べ、問題の理解を深める。（30分）

必携書（教科書販売）

『いのちの法と倫理』［新版］葛生栄二郎・河見誠・伊佐智子,法律文化社,2023年,ISBN978-4-589-04251-4

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
『いのちへのまなざし【増補新版】』, 日本カトリック司教団著, カトリック中央協議会, 2017年
『終の選択』,田中美穂・児玉聡,勁草書房,2017年
その他参考書は授業内で随時紹介する。

オフィスアワー

授業内にて指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。

連絡先

sakikawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、「不可」となる場合がある。
・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、「不可」となるので注意すること。
・教科書は2023年に改訂された新版を用いる。旧版は内容が古くなっているため、教科書販売にて新版を購入すること。

社会倫理学					単位数	2単位
授業コード	51042	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	崎川　修					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代社会における「いのち」についての様々な問題を、倫理学的な視点から検討する。またカトリック教会における生命倫理についての考え方にも触れる。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代における生命倫理問題についての基本知識を備え、その問題点を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	倫理学的な問題意識から、生と死の問題を考察することができるようになる。	思考・判断・表現力／主体性
3	「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。	主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	受講態度、リアクションペーパー：40%	2／3
2	期末レポート：60%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 導入:「いのち」の現在形
2. 死生観とその系譜①古典的死生観
3. 死生観とその系譜②近代的死生観
4. 生命倫理学の誕生
5. 「誕生」をめぐる倫理
6. バース・コントロールの問題
7. 人工生殖技術① 人工授精と体外受精
8. 人工生殖技術②代理母・代理出産
9. 高度人体改造医療と人間
10. 「死」をめぐる倫理問題
11. 安楽死と尊厳死①安楽死とは何か
12. 安楽死と尊厳死②治療中止の倫理問題
13. 終生期ケアの意義
14. カトリック教会と生命倫理
15. まとめ

定期試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書の該当部分を読んでおく。（30分）
（復習）授業内容に関連するニュースや文献を調べ、問題の理解を深める。（30分）

必携書（教科書販売）

『いのちの法と倫理』［新版］葛生栄二郎・河見誠・伊佐智子,法律文化社,2023年,ISBN978-4-589-04251-4

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
『いのちへのまなざし【増補新版】』, 日本カトリック司教団著, カトリック中央協議会, 2017年
『終の選択』,田中美穂・児玉聡,勁草書房,2017年
その他参考書は授業内で随時紹介する。

オフィスアワー

授業内にて指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。

連絡先

sakikawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、「不可」となる場合がある。
・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、「不可」となるので注意すること。
・教科書は2023年に改訂された新版を用いる。旧版は内容が古くなっているため、教科書販売にて新版を購入すること。

家族社会学					単位数	2単位
授業コード	51120	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	山下　美紀					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義では，家族変動を読み解く基本的な理論と方法論を提示し，現代の家族に迫る。歴史の中で変転を遂げてきた家族の姿を追い，現代家族の抱える問題を析出する。家族および人と人のつながりを考えていく手がかりを提示する。講義中心であるが，グループ討議や発表の機会を持つ。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	家族研究の基礎的理論・学説および基本的用語を説明することができる。	知識・技能
2	家族変動を社会学的な分析視点から説明することができる。	思考・判断・表現力
3	家族にかかわる現代的諸問題を，自分の生き方と関連付けながら考察・分析・表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	中間試験：２回実施６０％	1／2
2	課題レポート：１０％	3
3	期末レポート：３０％	2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．家族研究への招待
２．家族研究の紹介・アンケート
３．社会と家族と個人
４．家族イメージの変容
５．社会の変化と家族の変容・グループディスカッション
６．近代家族と「子どもの誕生」
７．近代家族の特徴
８．近代家族の揺らぎ・中間試験
９．日本型近代家族と「家」
１０．日本社会の家族変動
１１．現代の子ども事情
１２．恋愛と結婚
１３．日本の婚姻動向と婚姻観
１４．家族の変化と現代的課題・中間試験
１５．まとめ・家族の現代的意味を問う

定期試験

課題レポート：家族生活に関するグループ討議を踏まえての感想レポート，中間試験２回実施：授業の理解度・習得度を測る試験，期末レポート：「私の考える家族論」

試験のフィードバックの方法

中間試験実施後、返却し、解答例・採点基準について説明する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）授業の前日までに，授業中に提示した文献や資料を読んでくるようにしてもらいたい（各回1時間程度）。
（復習）授業で取り上げたトピックスについて，各自で資料や統計などを探して，理解を深めてもらいたい（各回2時間程度）。
（全体）家族にかかわる話題（ニュース・ドラマ・映画・講演会・シンポジウム）に積極的に触れ，参加し，自分なりの家族論を論じられるようになって欲しい。とくに関わりのある映画やニュースを紹介するので、各自掘り下げて理解を深めて欲しい。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
『現代家族を読み解く12章』，日本家政学会編，丸善出版.

オフィスアワー

オフィスアワー　水曜日　２時限
随時、電子メールで質問を受け付ける。

連絡先

miki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

※受講生が家族に対してどのような意識をもっているかについて，アンケート調査を行う。

地域社会学					単位数	2単位
授業コード	51130	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	二階堂　裕子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義の目的は、現代における地域社会の諸問題への関心と理解を深めること、そして、新たな社会システムの構築に向けて、今後、私たちが取り組むべき課題とは何かを考察することにある。まず、私たちが日常生活を営む地域社会というものの捉え方やその成り立ちを学ぶ。そのうえで、戦後の高度経済成長期に日本の都市化がどのように進み、地域社会における人々の関係がどのように変容したのかを理解する。さらに、少子高齢化の進行、地方都市における衰退、安全・安心をめぐる危機の深刻化、グローバル化の進展などの社会変動が、今日の地域社会にどのような問題を生み出しているのかについて検討する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	地域コミュニティの変容を促したメカニズムや、今日の社会が直面している諸問題を説明できる。	知識・技能
2	現代の地域社会をとりまく諸問題の解決のために必要な条件を論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	自らと地域社会の関係を批判的に再考し、その成果を記述することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	より望ましい地域社会のありようについて考え、その実現に向けて自分が行動すべきことを広い視野から具体的に論じることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回の小課題（授業で学んだことや意見）：30%	1／2／3
2	期末レポート：70%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 地域社会とコミュニティ
2. コミュニティ問題の登場
3. 都市化と地域社会における変容
4. 町内会とコミュニティ形成
5. コミュニティ活動における自治体・住民・NPOの関係
6. コミュニティ・センター
7. コミュニティ活動
8. 子育てと地域社会
9. 高齢化と地域社会
10. 中山間地域における過疎化
11. 地方都市の衰退と再生
12. インナーシティ問題の発生
13. 安全・安心な生活と地域社会
14. グローバル化と地域社会
15. 多民族・多文化化とコミュニティ形成

定期試験

第15回の授業終了後、期日までにmanaba folioにてレポートを提出する。

試験のフィードバックの方法

manaba folioに模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
講義中に適宜資料を提示するほか，参考書なども紹介する。

オフィスアワー

質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。

連絡先

nikaidoy@m.ndsu.ac.jp

留意事項

自分をとりまく地域社会の動向や諸問題に関心をもつこと。

社会学と社会システム					単位数	2単位
授業コード	51135	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　社会とは何かなどの基礎知識を獲得する。社会構造をなしている諸課題についてその概要を把握し、今後の動向を検討する。市民社会における公共性の問題を議論し、差別などの具体的な問題を考える。健康や労働など生きていく上で直面する問題について、社会学の視点から検討する。自己と他者、社会化などについての理解を深める、

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
１	現代社会で起きている事象について、その構造を説明することができる。	知識・技能／主体性
２	現代における人間と社会の関係について分析し、解説することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
３	社会問題について、その原因や背景、対策について分析することができる。	思考・判断・表現力／主体性
４	社会的格差や差別・偏見などについて考え、議論することができる。	思考・判断・表現力／主体性
５		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
１	授業時の課題　２０％	1／2
２	レポート　　２０％	2／3
３	定期試験　　６０％	1／2／3
４		
５		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別養護老人ホームの介護や、障害者作業所での障害者支援に携わっていた経験から、社会福祉の課題を福祉現場の現実を踏まえて提起していくことで、学生が理念にとどまらず人々の生活実態から実践的に問題を捉えていくことを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　社会学の歴史と対象
２　社会システム
３　組織と集団
４　人口の変動
５　グローバリゼーションと社会変動
６　地域の変貌と環境
７　社会的格差
８　社会政策と社会問題
９　差別と偏見
１０　災害と復興
１１　家族とジェンダー
１２　健康と社会
１３　労働と社会
１４　世代について
１５　自己と他者および社会化

定期試験
16週目に定期試験を行う。
試験のフィードバックの方法
2年次2期以降の社会福祉士関係の授業で取り上げる。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業予定の課題について関連文献を読んだり、個々の課題の現状を理解する。これには1～2時間要する。
必携書（教科書販売）
『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成校座3　社会学と社会システム』. 2021年, 978-4-8058-8233-, 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編, 中央法規出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業時にプリントを配布することがある。
オフィスアワー
オフィスアワー　水曜1時限 初回授業時にメールアドレスを提示する。
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
新聞などを通じ現代社会で起きている諸課題について、広く理解を深めること。

心理学と心理的支援					単位数	2単位
授業コード	51137	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	日下　紀子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　心理学の視点と心を探求する方法の発展を知ることによって、人の心の仕組みと働きについて理解をすすめる。さらに環境との相互作用の中で生じる心理的反応を、日常生活における自分の体験を振り返りながら考えることによって、
日常生活と心の健康との関係について説明ができるように理解する。また、心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法を一部実際に体験する。そして、心理的アセスメントに基づいた心理的支援の基本と、多職種連携についても事例を通して理解をすすめる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	日常生活と心の健康との関係について理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と心理的支援について理解し、それをどのように計画し実行するのかを説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み態度・リアクションシート　30%	1／2／3／4
2	小テスト　10%	1／2／3
3	定期試験　60%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

公認心理師・臨床心理士として医療機関や民間の心理相談専門機関にて心理療法ならびに心理アセスメントに携わっている経験から事例を取り上げて説明し、生涯にわたる発達課題と心の健康や心の不適応について多角的、多面的な理解を促す。
それとともに家族、地域、専門機関や多職種との連携についても、事例を通して具体的・実践的に理解し、自ら考え、支援を計画し実行できるための心理学的な基盤の構築を促す授業を展開する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．授業オリエンテーション・心理学の歴史と対象
２．人の心の基本的な仕組みと働き–心の生物学的基盤：知覚・認知
３．心の働き–感情・動機付け・欲求・学習・行動
４．パーソナリティ
５．社会の中での心理
６．心の働き–無意識と意識
７．心の発達
８．ライフサイクルと発達課題
９．日常生活とこころの健康
10.　ストレスからの回復とこころの成長
11. 心的外傷とPTSD
12. 心理アセスメントの方法と実際
13. 心理的支援の基本と介入技法の概要
14. 制度利用と心理的ケア
15.　多職種連携とその実際

定期試験

定期試験あるいは期末課題レポート

試験のフィードバックの方法

定期試験終了後に解説・まとめをマナバにてフィードバックする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習：
次週に予定されてい授業内容に関して教科書を読み、その時点で生じた疑問や考えをまとめて授業に臨む。毎日のニュースや新聞記事などにも主体的・積極的に関心を持ち、実際に読み、考える時間を持つこと。
そして自分の考えや感想をできるだけ言葉にすること。

（各1時間　総計15時間以上）
復習
授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、さらに生じた感想や考え、疑問点を言語化し明らかにするように努める。さらに問題意識を持って、自分の生活に引き付け考えるとともに、
関心や疑問点について新たに文献を調べて読み、わからない点何かを明らかにするように努めること。（各1時間、総計15時間以上）

必携書（教科書販売）

心理学と心理的支援　最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座２
著者　一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集
ISBN 978-4-8058-8232-0
中央法規出版　2021年

必携書・参考書（教科書販売以外）

適宜授業中に紹介し、プリント等を授業中に配布する。

オフィスアワー

オフィスアワーは水曜日５限目。そのほかに希望があれば直接教員に申し込んでください。

連絡先

noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp

留意事項

この科目は、社会福祉士資格受験取得の必修科目であり、医療や福祉現場に対人援助職として働くことを目指す履修者にとっては、切実な問題に触れ、考える授業ともいえる。
また、資格取得を目指さない学生にとっても、現代社会において他者と協働して生きるための心の健康は重要なテーマである。主体的に関心を持って心の問題に取り組み、
何事においても積極的に感じ、考え、問いを持って授業に臨んでください。

社会福祉学Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	51140	科目ナンバリング	310B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。福祉の原理をめぐる理論と哲学を理解する。福祉制度の発達過程を学び、福祉の歴史的性格を把握する。福祉政策のニーズと資源について考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会福祉についての理念、歴史、制度について理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	利用者の権利を実現するために何が必要か考え、提言することができる。	知識・技能／主体性
3	利用者に必要な制度を検討し、具体的に提示することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	少子高齢化、人口減少などのなかでの社会福祉のあり方を提言することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の課題　20%	1
2	レポート　20%	2／3／4
3	定期試験　60%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別養護老人ホームの介護や、障害者作業所での障害者支援に携わっていた経験から、社会福祉の課題を福祉現場の現実を踏まえて提起していくことで、学生が理念にとどまらず人々の生活実態から実践的に問題を捉えていくことを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会福祉の概念と理念
2　少子高齢化と福祉
3　社会福祉を学ぶ視点
4　福祉の歴史−慈善事業の形成
5　福祉の歴史−近代社会と福祉
6　福祉の歴史−現代社会と福祉
7　社会福祉の思想と理論
8　社会福祉の論点　国家と公私関係
9　社会福祉の論点　保護と自立
10　現代における社会問題　貧困　失業　孤立
11　現代における社会問題　依存　虐待
12　現代における社会問題　偏見・差別　社会的排除
13　社会問題の構造的背景
14　福祉政策の動向　地域包括ケアシステム
15　福祉政策の動向　多文化共生

定期試験

16週目に定期試験（筆記試験）を行う。

試験のフィードバックの方法

社会福祉学Ⅱの授業内で振り返りを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業時で取り上げる課題について、文献等を読んでおく。取り上げた課題について、法律や制度を確認する。これら事前・事後の学習を各1時間程度行うこと。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『社会福祉の原理を学ぶ』, 2021年,987-4-7888-0748,杉山博昭著, 時潮社,

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
『社会福祉小六法　2023』ミネルヴァ書房

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日　2時限
質問は随時電子メールで受け付ける（アドレスは初回授業時に提示）。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

少子高齢化など、福祉をめぐるさまざまな動きに常に関心をもつこと。
制度について、法律を参照するなど正確に理解するよう努めること。

社会福祉学ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	51150	科目ナンバリング	310B0-1200-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	杉山　博昭、崎川　修					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会福祉学Ｉを踏まえて，福祉政策の構成要素について理解する。福祉政策と関連政策の関係について把握し、みずから福祉政策の立案や福祉計画の発言できる主体的な姿勢を身につける。ケア論を軸とした相談援助活動と福祉政策との関係について理解し、そのなかで職業倫理についても考えて、倫理を踏まえた教育実践・社会福祉実践を行っていく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会福祉学が対象とする問題領域についての説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	利用者の立場から福祉供給について議論していくことができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	福祉計画のあり方を考え、発言していくことができる。	知識・技能／主体性
4	職業倫理を踏まえた専門職者として、教育や福祉の実践に携わることができる。	知識・技能／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	定期試験　　60%	1／2／3
2	レポート　　25%	1／3／4
3	福祉政策や福祉計画に関連した課題　15%	2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

杉山は特別養護老人ホームの介護や、障害者作業所での障害者支援に携わっていた経験から、社会福祉の課題を福祉現場の現実を踏まえて提起していくことで、学生が理念にとどまらず人々の生活実態から実践的に問題を捉えていくことを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：ニーズと社会資源（担当：杉山）
　　−ニーズと需要、フォーマルな資源とインフォーマルな資源−
第２回：福祉政策における政府の役割（担当：杉山）
　　−法・政策・財源をめぐって−
第３回：福祉政策における市場の役割（担当：杉山）
　　−一般の市場と福祉市場の違い−
第４回：福祉政策における国民の役割（担当：杉山）
　　−政策決定過程への民主的プロセス−
第５回：福祉政策の手法・政策決定過程評価（担当：杉山）
　　−政策をどう決定し、実行するか−
第６回：福祉供給における公的部門（担当：杉山）
　　−国と自治体−
第７回：福祉供給における民間部門（担当：杉山）
　　−民間非営利・民間営利・インフォーマル−
第８回：福祉援助とケアの関係性（担当：崎川）
　　−専門援助におけるケアの役割−
第９回：福祉供給過程（担当：崎川）
　　−援助者をどう支えるか−
第10回：福祉利用過程（担当：崎川）
　　−グリーフケアなど終末期を視野に入れて−
第11回：福祉政策と教育政策（担当：杉山）
　　−学校での福祉教育をめぐって−
第12回：福祉政策と住宅政策（担当：杉山）
　　−居住福祉を中心に−
第13回：相談援助活動と福祉政策（担当：崎川）
　　−マクロ政策と個々人への支援をどうつなぐか−
第14回：専門職と職業倫理（担当：崎川）
　　−ケア倫理と職業倫理−
第15回：これからの福祉と当事者支援（担当：崎川）
　　−当事者主体の援助を考える−

定期試験

16週目に定期試験を行う。

試験のフィードバックの方法

社会保障論などの授業で関連して触れていく。また、終了後のメールでの質問を歓迎する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

抽象的な内容が多いので、授業では具体的な事例に触れる機会が少なくなる。授業で示した内容、たとえば政府の役割について、参考文献、新聞記事などを用いて、身近な課題として考える取り組みを、授業時間外にも行うこと。毎週1～2時間程度要する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『社会福祉の原理を学ぶ』, 2021年,987-4-7888-0748,杉山博昭著, 時潮社（社会福祉学Ⅰと同じ）

＜参考書等＞
『社会福祉小六法　2023』, ミネルヴァ書房

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日2限
質問は随時電子メールで受け付ける。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

「社会福祉学Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。

高齢者福祉論Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	51160	科目ナンバリング	310B0-1200-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	濱崎　絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

高齢者の生活と取り巻く社会環境について全体像を学ぶ。高齢者福祉に関する法律や制度について発展過程を踏まえて学習する。高齢者の生活課題への社会福祉士としての支援を理解する。高齢社会における誰もが豊かに暮らせる地域社会のあり方を考察する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	高齢者の生活実態，取り巻く社会環境，福祉・介護需要について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	高齢者福祉に関する法律や制度，専門職について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	充実した高齢期の生活のために必要なことについて関心をもって考察し，意見を述べることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	地域社会の一員として，高齢社会における誰もが豊かに暮らせる地域社会づくりについて考察し，具体例を示しながら記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み　10%	1／2／3
2	ワークショップ　20%	3／4
3	レポート　20%	1／3
4	期末試験　50%	1／2／3／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉施設において介護・生活相談業務に携わっていた経験から，具体例を示しながら現場の実態に即した内容について講義し、実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　高齢者の定義と特性
2　少子高齢社会の進展
3　高齢者の生活実態
4　高齢者を取り巻く社会環境
5　高齢者の生活史と人生における高齢期
6　高齢者福祉の発展過程
7　高齢者福祉の理念
8　高齢者保健福祉の法体系
9　高齢者虐待と権利擁護
10　介護保険制度の概要
11　介護保険制度のサービス
12　関係機関と専門職の役割（特別講義）
13　ソーシャルワーカーによる支援の実際（特別講義）
14　認知症サポーター養成講座（特別講義）
15　ワークショップ

定期試験

16回目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書の該当ページを読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（１時間程度）。
（復習）授業内容に関する参考図書や参考URL等を紹介するので，それらを読んで理解を深めること（１時間程度）。

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座2 高齢者福祉』，2021，ISBN 978-4-8058-8245-0，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

高齢者福祉論					単位数	2単位
授業コード	51162	科目ナンバリング	310B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	濱崎　絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

高齢者の生活と取り巻く社会環境について全体像を学ぶ。高齢者福祉に関する法律や制度について発展過程を踏まえて学習する。高齢者の生活課題への社会福祉士としての支援を理解する。高齢社会における誰もが豊かに暮らせる地域社会のあり方を考察する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	高齢者の生活実態，取り巻く社会環境，福祉・介護需要について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	高齢者福祉に関する法律や制度，専門職について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	充実した高齢期の生活のために必要なことについて関心をもって考察し，意見を述べることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	地域社会の一員として，高齢社会における誰もが豊かに暮らせる地域社会づくりについて考察し，具体例を示しながら記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み　10%	1／2／3
2	ワークショップ　20%	3／4
3	レポート　20%	1／3
4	期末試験　50%	1／2／3／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉施設において介護・生活相談業務に携わっていた経験から，具体例を示しながら現場の実態に即した内容について講義し、実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　高齢者の定義と特性
2　少子高齢社会の進展
3　高齢者の生活実態
4　高齢者を取り巻く社会環境
5　高齢者の生活史と人生における高齢期
6　高齢者福祉の発展過程
7　高齢者福祉の理念
8　高齢者保健福祉の法体系
9　高齢者虐待と権利擁護
10　介護保険制度の概要
11　介護保険制度のサービス
12　関係機関と専門職の役割（特別講義）
13　ソーシャルワーカーによる支援の実際（特別講義）
14　認知症サポーター養成講座（特別講義）
15　ワークショップ

定期試験

16回目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書の該当ページを読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（１時間程度）。
（復習）授業内容に関する参考図書や参考URL等を紹介するので，それらを読んで理解を深めること（１時間程度）。

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座2 高齢者福祉』，2021，ISBN 978-4-8058-8245-0，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

高齢者福祉論II					単位数	2単位
授業コード	51170	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	濱崎　絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

高齢者福祉の諸制度やサービスについて，内容，実施機関，専門職を理解する。介護を必要とする高齢者と高齢者介護，終末期ケアについて学習する。高齢社会の一員として，高齢者がより豊かに暮らせる地域社会を構築していくために必要なことや，自分たちにできることについて具体的に考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	介護保険制度の仕組みやサービス内容について説明・記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	要介護高齢者の尊厳ある生活のために必要なことについて考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	高齢者がより豊かに暮らせる地域社会づくりについて考察し，具体例を示しながら記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み　20%	1／2
2	課題レポート　30%	2／3
3	定期試験　50%	1／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉施設において介護・生活相談業務に携わっていた経験から，現場の実態に即した内容について具体例を示しながら講義し、実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　介護保険制度の概要
2　介護保険制度における組織及び団体の役割
3　要介護認定の仕組みとプロセス
4　居宅サービスの種類
5　施設サービスの種類
6　高齢者を支援する組織と役割
7　地域包括支援センター
8　高齢者を支援する専門職の役割と実際（特別講義）
9　介護保険におけるケアマネジメント（特別講義）
10　高齢者介護の概念と対象
11　高齢者介護の実際
12　家族等への支援
13　地域包括ケアシステムにおける認知症高齢者支援
14　終末期ケアの実際
15　まとめ

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

manaba folioに模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書の該当ページを読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（１時間程度）
（復習）授業内容に関する参考図書・URL等を紹介するので，それらを読んで理解を深めること（１時間程度）

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座２ 高齢者福祉』，2021，ISBN 978-4-8058-8245-0，日本ソーシャルワーク教育学校連盟，中央法規出版
※高齢者福祉論Ⅰの受講者は入手済。

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

児童福祉論					単位数	2単位
授業コード	51180	科目ナンバリング	310B0-1200-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	小川　知晶					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

高齢化、少子化が進行する中、これからの子ども家庭福祉は子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子育ち・子育て支援の展開が求められている。
本講義では、子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズ、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、そして子ども家庭福祉の動向と展望など子ども家庭福祉の基本的な知識について理解することを目的とする。講義前・講義後は必ずテキストを読み、特に指示を出した箇所は事前に予習を行う。毎回、配布するリアクションペーパーに授業で学んだことの振り返りを行うなどの自主学習を行う。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズについて説明できる。	知識・技能／主体性
2	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明できる。	知識・技能／主体性
3	子どもの権利保障・子ども家庭福祉の制度について説明することができる。	知識・技能／主体性
4	子ども家庭福祉の現状や動向を理解し、記述することができる.。	思考・判断・表現力／主体性
5	子ども家庭福祉の課題と、今後の展望について自分の意見をまとめ、レポートに記述または発表することができる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー：20%	1／2／3／4／5
2	定期試験：80%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　現代社会と子ども家庭福祉
2　子ども家庭福祉の理念と概念
3　子ども家庭福祉の歴史的変遷
4　子どもの権利保障
5　子ども家庭福祉の制度と法体系
6　子ども家庭福祉の実施機関(児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室)
7　子ども家庭福祉の専門職
8　子ども家庭福祉にかかわる施設の種類と類型
9　子ども家庭福祉の現状と課題①乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
10　子ども家庭福祉の現状と課題②児童自立支援施設・自立援助ホーム
11　子ども家庭福祉の現状と課題③保育所・こども園
12　子ども家庭福祉の現状と課題④里親・養子縁組
13　子ども家庭福祉の現状と課題⑤子ども家庭福祉実施機関の職員
14　子ども家庭福祉の現状と課題⑥児童家庭支援センター・保健所・要保護児童対策地域協議会
15　子ども家庭福祉の動向と展望

定期試験
16 定期試験
試験のフィードバックの方法
最終講義で全体に対するフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
＜予習＞必ずテキストを読み、特に指示を出した箇所は事前に予習を行い授業に臨むこと。（所要時間1～2時間） ＜復習＞講義で配布するリアクションペーパーに授業で学んだことを振り返り、気づいたこと等などを記入し提出する。（所要時間1～2時間） 日ごろから、子どもや子育て家庭にかかわる問題（子どもの貧困、児童虐待、障害児、子育て不安など）について掲載されている新聞記事や本を積極的に読んでください。
必携書（教科書販売）
子ども家庭福祉論, 2020年発行, ISBN 978-4-86015-476-9, 千葉茂明編, みらい
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 毎回、レジュメとリアクションペーパーを配布する。 必要に応じて資料プリントを配布する。 参考書は適宜紹介する。
オフィスアワー
講義終了後、教室で質問等を受け付けます。 また、メールでも質問を受け付けます。s4036@m.ndsu.ac.jp
連絡先
留意事項

児童家庭福祉論					単位数	2単位
授業コード	51182	科目ナンバリング	310B0-1200-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	小川　知晶					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

高齢化、少子化が進行する中、これからの子ども家庭福祉は子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子育ち・子育て支援の展開が求められている。
本講義では、子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズ、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、そして子ども家庭福祉の動向と展望など子ども家庭福祉の基本的な知識について理解することを目的とする。講義前・講義後は必ずテキストを読み、特に指示を出した箇所は事前に予習を行う。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズについて説明できる。	知識・技能／主体性
2	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明できる。	知識・技能／主体性
3	子どもの権利保障・子ども家庭福祉の制度について説明することができる。	知識・技能／主体性
4	子ども家庭福祉の現状や動向を理解し、記述することができる.。	思考・判断・表現力／主体性
5	子ども家庭福祉の課題と、今後の展望について自分の意見をまとめ、レポートに記述または発表することができる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー：20%	1／2／3／4／5
2	定期試験：80%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　現代社会と子ども家庭福祉
2　子ども家庭福祉の理念と概念
3　子ども家庭福祉の歴史的変遷
4　子どもの権利保障
5　子ども家庭福祉の制度と法体系
6　子ども家庭福祉の実施機関(児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室)
7　子ども家庭福祉の専門職
8　子ども家庭福祉にかかわる施設の種類と類型
9　子ども家庭福祉の現状と課題①乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
10　子ども家庭福祉の現状と課題②児童自立支援施設・自立援助ホーム
11　子ども家庭福祉の現状と課題③保育所・こども園
12　子ども家庭福祉の現状と課題④里親・養子縁組
13　子ども家庭福祉の現状と課題⑤子ども家庭福祉実施機関の職員
14　子ども家庭福祉の現状と課題⑥児童家庭支援センター・保健所・要保護児童対策地域協議会
15　子ども家庭福祉の動向と展望

定期試験
16 定期試験
試験のフィードバックの方法
最終講義で全体に対するフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
＜予習＞必ずテキストを読み、特に指示を出した箇所は事前に予習を行い授業に臨むこと。（所要時間1～2時間） ＜復習＞講義で配布するリアクションペーパーに授業で学んだことを振り返り、気づいたこと等などを記入し提出する。（所要時間1～2時間） 日ごろから、子どもや子育て家庭にかかわる問題（子どもの貧困、児童虐待、障害児、子育て不安など）について掲載されている新聞記事や本を積極的に読んでください。
必携書（教科書販売）
子ども家庭福祉論, 2020年発行, ISBN 978-4-86015-476-9, 千葉茂明編, みらい
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 毎回、レジュメとリアクションペーパーを配布する。 必要に応じて資料プリントを配布する。 参考書は適宜紹介する。
オフィスアワー
講義終了後、教室で質問等を受け付けます。 また、メールでも質問を受け付けます。
連絡先
s4036@m.ndsu.ac.jp
留意事項

児童の生活と福祉					単位数	2単位
授業コード	51190	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小川　知晶					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

児童家庭福祉や保育の最新動向を知り、実際の支援的言動について考え、主体的に行動できる力を培う。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明することができる。	知識・技能／主体性
2	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について説明することができる。	知識・技能／主体性
3	子育て家庭に対する支援の体制について説明することができる。	知識・技能
4	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	子育て支援の場で、実際の支援を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小テスト　　30%	1
2	期末テスト　70%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．子どもや子育て家庭にかかわる諸問題を子どもの権利
２．子ども家庭支援の意義と必要性
３．保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
４．専門職(保育士等)に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
５．家庭の状況に応じた支援
６．地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
７．子育て家庭に対する支援の体制
８．子育て家庭の福祉を図るための社会資源
９．子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
１０．多様な支援の展開と関係機関との連携
１１．子ども家庭支援の内容と対象
１２．児童福祉施設(保育所も含む)を利用する子どもの家庭への支援
１３．地域の子育て家庭への支援
１４．要保護児童等及びその家庭に対する支援
１５．子どもの貧困に対する支援

定期試験
期末試験
試験のフィードバックの方法
授業時とmanabaで解説
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
復習：振り返り課題への解答（30分~1時間程度）
必携書（教科書販売）
ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データーブック2023, 2022, 978-4805887929, 全国保育士養成協議会, 中央法規出版 子ども家庭支援論-子どもを中心とした家庭支援-, 2022, 978-4-909378-36-1, 七木田敦・上村眞生・岡花祈一郎編, 教育情報出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付けます。また、メールでも質問を受け付けます。
連絡先
s4036@m.ndsu.ac.jp
留意事項

障害者福祉論					単位数	2単位
授業コード	51200	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中井　俊雄					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

現在の障害のある人を取り巻く諸課題を全体的構造的に理解し、制度、関連機関、職種などを知ることをとおして、その生活支援のあり方について学習する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	障害のある人の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要(地域移行や就労の実態を含む。)について理解し、他者に説明できるようになる。	知識・技能／主体性
2	障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解し、他者に説明できるようになる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への貢献度や積極性　　20%	1／2
2	課題レポート　20%	1／2
3	定期試験　60%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

総社市障がい者基幹相談支援センター、総社市地域活動支援センターⅠ型、総社市障がい者千人雇用センターの各センター長として実務の経験がある。
また、岡山県障害者権利擁護センター、岡山県障害者差別解消相談センターの運営委員長等を務めた経験などを基に、障害のある人の自立と福祉に関して、実践を踏まえた経験を基に適切に指導、教育できる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．障害者を取り巻く社会情勢
2．障害者の生活実態（１）生活　家族
3．障害者の生活実態（２）就労　所得
4．障害者にかかわる法体系
5．障害者自立支援制度　利用手続き
6．障害者自立支援制度　障害程度区分認定
7．障害者自立支援制度　自立支援給付
8．組織・機関の役割
9．他職種連携・ネットワーキング
10. 障害福祉の関連法制度（１）雇用
11. 障害福祉の関連法制度（２）教育
12. 障害福祉の関連法制度（３）医療
13. 組織・機関の役割
14. 障害者問題の倫理
15. 障害者福祉の今後の課題

定期試験

定期試験（筆記試験）

試験のフィードバックの方法

manaba folioに模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）この授業は、テキストを中心に進めていきます。
（復習）参考図書やホームページなどを紹介しますので、関心をもって、理解を深めてください。障害者福祉サービスが利用できるように、詳細な正しい情報を収集して活用してください。
これらの事前，事後の学習に各１時間程度要する。

必携書（教科書販売）

『シリーズ社会福祉のすすめ　最新　障害者福祉のすすめ』2021，和田光一他編著，学文社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
・『＜最新 社会福祉士養成講座 共通科目８＞障害者福祉』2021，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集，中央法規出版
・参考文献は随時紹介する。

オフィスアワー

オフィスアワー　木曜日３．４時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

nakai◎m.ndsu.ac.jp
（◎を@に変更してください。）

留意事項

この授業は、人間生活学科の必須科目です。

社会保障論Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	51220	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会保障とは何か、なぜ社会保障が必要なのかを把握するとともに、社会保障が発展する歴史的なプロセスを考える。医療保険制度の概要や制度が抱えている課題を学習する。介護保険制度が必要とされた高齢社会の現状を学ぶとともに、制度の概要や課題について議論する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会保障とは何か、社会保障がなぜ必要かについて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会保障をとりまく課題に対して、政策を提言することができる。。	思考・判断・表現力／主体性
3	医療保障制度を活用して、傷病者を支援することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	介護保険制度を活用して、要介護高齢者を支援することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5		

成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業中の課題	20%	1／2
2	レポート	20%	3／4
3	定期試験	80%	1／2／3／4
4			
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別養護老人ホームの介護や、障害者作業所での障害者支援に携わっていた経験から、医療保険や介護保険の課題について福祉現場の現実を踏まえて提起していくことで、学生が人々の生活実態から実践的に社会保障を捉えていくことを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　現代社会と社会保障
2　社会保障の概念
3　社会保障の財政
4　社会保険・社会扶助・民間保険の関係
5　医療保障をめぐる動き
6　医療保険制度の歴史
7　協会けんぽ・組合健保
8　国民健康保険・高齢者の医療保険
9　医療保険による給付
10 医療保障をめぐる課題
11 介護保険制度の背景
12 介護保険制度の概要
13 介護保険制度によるサービスの利用手続き
14 介護保険制度によるサービスの給付
15 介護保険制度の課題

定期試験

16週目に定期試験（筆記試験）を行う。

試験のフィードバックの方法

社会保障論Ⅱの授業時に触れていく。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

制度の概要について、あらかじめ文献や厚生労働省ホームページ等で調べて、理解したうえで出席する。授業後も同様に確認する。これら学習には1～2時間程度要する。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座7　社会保障』, 2021年, 978-4-8058-8237-5,日本ソーシャルワーク学校連盟編, 中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
　授業時にプリントを配付

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日　2限
質問は随時、電子メールで受け付ける.

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

新聞、専門誌、厚生労働省のホームページなどで、常に新たな情報を把握しておくこと。

社会保障論ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	51230	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「社会保障論Ｉ」での社会保障への理解を踏まえ、年金保険を中心とした所得保障制度、雇用保険制度、労働者災害補償保険制度を学ぶ。さらに、公的な制度を補完するものとして企業年金についても考えていく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	年金制度の概要を理解し、わかりやすく説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	年金制度の本質を踏まえ、制度改正について提案することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	雇用保険制度の概要を理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	労災保険制度の概要を理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	企業年金の特質を理解し、生活保障の手段として活用することができる。	知識・技能／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業中の課題　20%	1／4／5
2	レポート　20%	3／5
3	定期試験　60%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別養護老人ホームの介護や、障害者作業所での障害者支援に携わっていた経験から、年金や労働保険の課題について福祉現場の現実を踏まえて提起していくことで、学生が人々の生活実態から実践的に社会保障を捉えていくことを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　年金保険の意義と歴史
2　年金制度の意義
3　年金制度の概要
4　老齢年金
5　障害年金
6　遺族年金
7　年金制度の課題
8　企業年金
9　雇用保険制度の意義
10 雇用保険制度の概要
11 育児休業給付など
12 雇用保険制度の課題
13 労働者災害補償保険の概要
14 労働者災害補償保険の課題
15 社会保障の今後の動向

定期試験

16週目に定期試験（筆記試験）を行う。

試験のフィードバックの方法

授業終了後も、メール等での質問を受け付ける。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

制度の概要について、あらかじめ文献や厚生労働省ホームページ等で調べて、理解したうえで出席する。授業後も同様に確認する。これら学習には1～2時間程度要する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成校座7　社会保障』, 2021年, 978-4-8058-8237-5,日本ソーシャルワーク学校連盟編, 中央法規出版(社会保障論Ⅰと同じ)

＜参考書等＞
　授業時にプリントを配付

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日 2限
質問は随時電子メールで受け付ける。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

新聞、専門誌、厚生労働省のホームページなどで、常に新たな情報を把握しておくこと。
年金についての報道を他人事と考えず、自らの課題として捉えること。

公的扶助論					単位数	2単位
授業コード	51240	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

公的扶助は、健康で文化的な生活を保障する制度として、社会福祉制度の基礎となるものである。公的扶助の歴史、制度の概要、低所得者支援の課題などを把握することで、生存権について理解を深める。また、子どもの貧困などの現実にも着目するほか、生活困窮者自立支援やホームレス支援について考える。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	貧困・低所得者問題について、その原因や解決策について分析・提案できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	社会の発展のなかでの貧困の意味について説明できる。	知識・技能／主体性
3	貧困の自己責任論に対して、貧困の社会的性格について説得的に反論できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	生活保護制度について説明できる。	知識・技能／主体性
5	低所得者に対して相談に応じ、利用できる制度について提案できる。また、生活困窮者への支援計画を立案できる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業での取り組み　20%	1／2／3／5
2	レポート　20%	1／4／5
3	定期試験　60%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別養護老人ホームの介護や、障害者作業所での障害者支援に携わっていた経験から、貧困・低所得の課題を福祉現場の現実を踏まえて提起していくことで、学生が理念にとどまらず人々の生活実態から実践的に貧困・低所得問題を捉えていくことを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　公的扶助の概念
2　貧困・低所得者と社会的排除
3　公的扶助の歴史　海外
4　公的扶助の歴史　日本
5　生活保護の目的、基本原理、基本原則
6　生活保護の種類と内容
7　被保護者の権利と義務
8　不服申し立てと行政訴訟
9　生活保護基準
10　生活保護の動向
11　生活保護以外の低所得者対策
12　生活保護の運営実施体制
13　子どもの貧困法と生活困窮者自立支援法
14　低所得者への自立支援
15　公的扶助の今後の課題

定期試験

16週目に定期試験(筆記試験) を行う。

試験のフィードバックの方法

試験終了後の質問等を受けつける。次年度の社会福祉系の科目で取り上げる。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

貧困・低所得問題や制度の概要について、あらかじめ文献や厚生労働省ホームページ等で調べて、理解したうえで出席する。授業後も同様に確認する。これら学習には1～2時間程度要する。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック１３　貧困に対する支援』, 2021年, 978-4-623-09209-3,岩田正美・杉村宏編, ミネルヴァ書房

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
　プリント等を配付

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日　2限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

低所得者問題に関するニュース等に関心をもって情報収集すること。ただし、ネット等で生活保護への不正確で否定的な書き込みが見られるが、惑わされないこと。

地域福祉論Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	51250	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中井　俊雄					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義では、地域福祉の考え方、展開、動向、理論や方法等について学ぶ。
また、地域生活課題の解決や防止に取り組むソーシャルワーカーの視点やその方法について理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解し、他者に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解し、他者に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解し、他者に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業への取組・発表等　30%	1／2／3
2	・課題レポート　30%	1／2／3
3	定期試験　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

福祉の現場（市町村社会福祉協議会）において、27年間ソーシャルワーカーとして実践してきた。
本科目において、実戦力のある教育を行い、地域福祉の全体像について理解を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：オリエンテーション
　　地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題① 地域社会の概念と理論
第２回：地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題② 地域社会の変化、多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ
第３回：地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題③ 地域福祉と社会的孤立
第４回：地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制① 地域包括ケアシステム
第５回：地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制② 生活困窮者自立支援の考え方
第６回：地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制③ 包括的支援体制とは、地域共生社会の構築とは
第７回：地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制④ 地域共生社会の実現に向けた各種施策
第８回：地域福祉ガバナンスと多機関協働① 地域福祉ガバナンス
第９回：地域福祉ガバナンスと多機関協働② 多機関協働を促進する仕組み
第１０回：地域福祉ガバナンスと多機関協働③ 多職種連携、福祉以外の分野との機関協働の実際
第１１回：地域福祉の基本的な考え方① 地域福祉の概念と理論
第１２回：地域福祉の基本的な考え方② 地域福祉の歴史・地域福祉の動向
第１３回：地域福祉の基本的な考え方③ 地域福祉の推進主体
第１４回：地域福祉の基本的な考え方④ 地域福祉の主体と福祉教育
第１５回：総括・まとめ

定期試験
16週目に筆記試験を行う。授業で取り上げた内容を中心に出題する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業前には、指定テキストの該当する単元を読んでおくこと。授業後には、関連する話題（社会問題）をニュース等から選択するなどしてレポートにまとめておくこと。（約1.5時間）
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座６ 地域福祉と包括的支援体制』，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集，中央法規出版，2021年，978-4-8058-8236-8
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考文献は随時紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー　木曜日３．４時限 質問は随時manaba、電子メールで受け付ける。
連絡先
nakai◎m.ndsu.ac.jp （◎を@に変更してください。）
留意事項

地域福祉論ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	51260	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中井　俊雄					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義では、地域福祉における主体と対象、住民の主体系形成について学ぶとともに、福祉行財政、福祉計画について理解する。
また、地域生活課題の解決や防止に取り組むソーシャルワーカーの視点やその方法について理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念について理解し、他者に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開について理解し、他者に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解し、他者に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業への取組・発表等　30%	1／2／3
2	・課題レポート　30%	1／2／3
3	・定期試験　70%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

福祉の現場（市町村社会福祉協議会）において、27年間ソーシャルワーカーとして実践してきた。
本科目において、実戦力のある教育を行い、地域福祉の全体像について理解を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：オリエンテーション
　　地域を基盤としたソーシャルワークの展開① 地域を基盤としたソーシャルワークの方法
第２回：地域を基盤としたソーシャルワークの展開② 住民の主体形成に向けたアプローチ
第３回：地域を基盤としたソーシャルワークの展開③ 具体的な展開
第４回：災害時における総合的かつ包括的な支援体制① 非常時や災害時における法制度
第５回：災害時における総合的かつ包括的な支援体制② 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援
第６回：福祉計画の意義と種類、策定と運用① 福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開
第７回：福祉計画の意義と種類、策定と運用② 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容
第８回：福祉計画の意義と種類、策定と運用③ 福祉計画の策定過程と方法
第９回：福祉計画の意義と種類、策定と運用④ 福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術
第１０回：福祉計画の意義と種類、策定と運用⑤ 福祉計画における評価
第１１回：福祉行財政システム① 国の役割、都道府県の役割、市町村の役割
第１２回：福祉行財政システム② 国と地方の関係
第１３回：福祉行財政システム③ 福祉行政の組織および専門職の役割
第１４回：福祉行財政システム④ 福祉における財源
第１５回：総括・まとめ

定期試験

16週目に筆記試験を行う。授業で取り上げた内容を中心に出題する。

試験のフィードバックの方法

試験終了後に解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業の前には指定テキストの該当する単元を読んでおくこと。授業後は、関連する話題をニュース等から選択するなどしてレポートにまとめておくこと。（約1.5時間）

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座６ 地域福祉と包括的支援体制』，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集，中央法規出版，2021年，978-4-8058-8236-8

必携書・参考書（教科書販売以外）

オフィスアワー

オフィスアワー　木曜日１．４時限
質問は随時manaba、電子メールで受け付ける。

連絡先

nakai◎m.ndsu.ac.jp
（◎を@に変更してください。）

留意事項

福祉科教育法Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	51410	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

学習指導要領に示された福祉科の目標や内容及び関連した学習評価の方法や指導上の留意点を学び教材研究の方法を体得していくとともに、発展的な学習内容の学習指導への位置づけについて検討していく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	福祉科の目標や内容を理解し、学習内容に対応した指導上の留意点や学習評価の考え方を理解して教材研究に活用することができるとともに、発展的な学習内容を探求して学習指導への位置づけを考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　20%	1
2	課題レポート　40%	1
3	定期試験　40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高等学校「福祉科」および教科「福祉」の設置校において授業に携わっていた経験から、福祉教育について多角的に取り上げ、想定される指導上の留意点や発展的な学習指導への方法を実証していくことで、学生に現場に即した教材研究の実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．福祉科の目標と福祉科教師に求められる資質
２．福祉科の科目編成と全体構造、主な学習内容
３．社会福祉学との関係と教材研究
４．高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉との関係と教材研究
５．社会福祉援助技術との関係と教材研究
６．介護理論及び介護技術との関係と教材研究
７．人体構造や加齢・障害等に関する理解との関係と教材研究
８．社会福祉・社会保障に関する指導上の留意点
９．高齢者福祉・地域福祉に関する指導上の留意点
10．児童家庭福祉・障害者福祉に関する指導上の留意点
11．公的扶助に関する指導上の留意点
12．コミュニケーションの基礎に関する指導上の留意点
13．福祉科の学習評価
14．介護現場における危機管理例と学習指導上の位置付け
15．介護における専門職チームの連携例と学習指導上の位置付け

定期試験

16週目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

試験終了後に解説を行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

高等学校で使用している教科書と学習指導要領との関係性をつかみ、福祉教育の理解を深めるようにしておくこと。次週予定されているテーマに関して、幅広く「福祉」の視点から生活をみつめ、関連する話題をまとめておくこと（約1時間）。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　福祉編』, 2019年, ISBN978-4-303-12511-0, 文部科学省, 海文堂出版
『アクティブラーニングで学ぶ福祉科教育法-高校生に福祉を伝える』, 2017年, ISBN978-4-86359-122-6, 藤田久美編著, 一藝社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『高等学校学習指導要領』, 平成30年告示, 文部科学省

＜参考書等＞
授業時に別途資料配布

オフィスアワー

木曜日の昼休み（12：20～12：50）。
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

s4041@m.ndsu.ac.jp

留意事項

講義での説明等に疑問がある場合は、遠慮せずに確認すること。

福祉科教育法ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	51420	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

福祉科の学習指導理論に基づき、ICTや教材の効果的な活用を図った模擬授業の実施と研究会などを通して、授業改善の方法を具体的に学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	模擬授業・模擬保育

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	生徒の実態を考慮してICTや教材を効果的に活用した福祉科の授業設計ができるとともに、作成した学習指導案に沿った模擬授業の実施と振り返りを通して実践的な授業改善の視点を身に付けている。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　20%	1
2	模擬授業実践力　40%	1
3	課題レポート　40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高等学校「福祉科」および教科「福祉」の設置校において授業に携わっていた経験から、福祉教育について多角的に取り上げ、ICTや教材を効果的に活用した福祉科の授業設計の方法を実証していくことで、学生に授業改善の実践的構築を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．学習指導の原理と方法及び学習指導案の構成
２．生徒の実態を考慮した授業設計の方法
３．ICTの効果的な活用方法と活用例
４．教材・教具の効果的な活用方法と活用例
５．総合学科における社会福祉基礎の指導事例
６．福祉に関する専門学科におけるコミュニケーション技術の指導事例
７．学習指導計画と学習評価
８．学習指導案（指導と評価の計画、本時案）の作成
９．学習指導案（指導細案、板書計画）の作成
10．模擬授業及び研究会の進め方、振り返り及び授業改善の方法
11．模擬授業の実施と研究会（情報機器を活用した社会福祉基礎）
12．模擬授業の実施と研究会（個別及びグループ学習を導入した介護福祉基礎）
13．模擬授業の実施と研究会（ロールプレイングを導入したコミュニケーション技術）
14．模擬授業の実施と研究会（体験学習を導入したこころとからだの理解）
15．まとめ（授業改善の視点）

定期試験

定期試験は実施しない。授業時に課題レポートを提出する。

試験のフィードバックの方法

最終授業時に課題レポートの解説を行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

学習指導要領及び高等学校で使用している教科書に準拠した上で、次週予定されているテーマに関して、教材として活用できる素材を収集し、まとめておくこと（約1時間）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
福祉科教育法Ⅰの教科書を継続使用
『高等学校学習指導要領』, 平成30年告示, 文部科学省
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　福祉編』, 2019年, ISBN978-4-303-12511-0, 文部科学省, 海文堂出版
『アクティブラーニングで学ぶ福祉科教育法-高校生に福祉を伝える』, 2017年, ISBN978-4-86359-122-6, 藤田久美編著, 一藝社

＜参考書等＞
授業時に別途資料配布

オフィスアワー

木曜日の昼休み（12：20～12：50）。
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

s4041@m.ndsu.ac.jp

留意事項

講義での説明等に疑問がある場合は、遠慮せずに確認すること。

ソーシャルワークの基盤と専門職I					単位数	2単位
授業コード	51451	科目ナンバリング	310B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中井　俊雄					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ソーシャルワークとは何か、社会福祉士とは何かを説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ソーシャルワークの歴史について理解し、考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	ソーシャルワークの価値と倫理を理解し、実践につなげることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小テスト　20%	1／2／3
2	議論への参加　20%	1／2
3	定期試験　　60%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

福祉の現場（市町村社会福祉協議会）において，27年間ソーシャルワーカーとして実践してきた。
本科目において，実戦力のある教育を行い，相談支援専門職の全体像について理解を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会福祉士の役割と意義
2　社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性
3　ソーシャルワークの定義
4　ソーシャルワークの原理　社会正義・人権尊重
5　ソーシャルワークの原理　集団的責任
6　ソーシャルワークの原理　多様性の尊重
7　ソーシャルワークの理念　当事者主権・尊厳の保持・権利擁護
8　ソーシャルワークの理念　自立支援
9　ソーシャルワークの理念　ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション
10　ソーシャルワークの形成過程　発展期
11　ソーシャルワークの形成過程　展開期
12　ソーシャルワークの形成過程　統合化
13　専門職倫理の概念
14　倫理綱領
15　倫理的ジレンマ

定期試験

課題レポートの提出

試験のフィードバックの方法

manaba folioに模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

初めて聞く専門用語が頻出する。専門用語について、教科書や関連の文献等でしっかり確認しておき、授業後も再度確認すること。
授業中に指示した事項について、参考文献等で確認すること。
これら事前事後の学習には1～2時間程度を要する。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座１１　ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』, 2021, 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集, 中央法規出版, ISBN-9784805882412

必携書・参考書（教科書販売以外）

授業時にプリントを配付する。

オフィスアワー

オフィスアワー　木曜日1・4時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

nakai◎m.ndsu.ac.jp
（◎を@に変更してください。）

留意事項

社会福祉士課程を選択する可能性のある人は、必ず１年次に履修すること。
ニュース等に留意し、ソーシャルワークの視点でみずから考えること。
ボランティアなどに積極的に参加し、社会福祉についての体験を積むこと。

ソーシャルワークの基盤と専門職II				単位数	2単位
授業コード	51461	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中井　俊雄				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会福祉の職域と求められる役割について理解する。ソーシャルワークに係る専門職について理解する。ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容を理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	専門職としてのソーシャルワーカーの意義を理解する。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ソーシャルワーカーとして、現在の生活の諸問題に対してどう対応していくべきか、個々の事例に則して考えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	取り組み（積極性・主体性）　３０％	1／2
2	グループワーク・討議　　３０％	1／2
3	課題レポート　　４０％	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

福祉の現場（市町村社会福祉協議会）において，27年間ソーシャルワーカーとして実践してきた。
本科目において，実戦力のある教育を行い，相談支援専門職の全体像について理解を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　ソーシャルワーク専門職の概念と範囲
2　社会福祉士の職域 ①　社会福祉士の職域拡大
3　社会福祉士の職域 ②　子ども家庭福祉・高齢者・障害者・生活困窮者領域
4　社会福祉士の職域 ③　保健医療・学校教育・司法領域と独立型社会福祉士等
5　福祉行政等における専門職
6　民間の施設・組織における専門職
7　諸外国の動向
8　ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象
9　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
10　地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座
11　地域を基盤としたソーシャルワークの機能
12　ジェネラリストソーシャルワークの意義
13　ジェネラリストソーシャルワークの特質
14　総合的かつ包括的な支援と相談援助における専門的機能・予防機能・新しいニーズ対応
15　総合的かつ包括的な支援と相談援助における専門的機能・総合的支援・権利擁護・社会資源開発

定期試験

課題レポートの提出

試験のフィードバックの方法

課題レポート等を提出後にmanaba folioに模範例等を掲示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）この授業は、事例を交えながら進めていきますが、テキストを一読して授業に出てください（1時間）。
（復習）参考図書やホームページを紹介しますので、関心をもって理解を深めてください。また、テキストの内容を日常生活の中で確認し、価値観や倫理観を養うことが必要です（1時間）。

必携書（教科書販売）

使用しない。

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
社会福祉士養成講座編集委員会編『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座１１　ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』, 2021, 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集, 中央法規出版（「ソーシャルワークの基礎と専門職Ｉ」と同じ）

＜参考書等＞
授業時にプリントを配付

オフィスアワー

オフィスアワー　金曜日２．４時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

nakai◎m.ndsu.ac.jp
（◎を@に変更してください。）

留意事項

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ｉ」を履修しておくこと（合格していなくてもよい）。

社会福祉援助技術論ＩＩＩ				単位数	2単位
授業コード	51470	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	濱崎　絵梨				
時間割備考	2020年度以前入学生対象				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを理解する。ソーシャルワークの過程とそれに係る価値・知識・技術を理解する。ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人と環境との交互作用に着目して介入するソーシャルワークの特性について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ソーシャルワークの構造と過程に係る価値・知識・技術を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチについて概要を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み　20%	1／2／3
2	レポート　20%	1／2
3	筆記試験　60%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉の相談援助業務に携わっていた経験から，現場の実態に即した内容について具体例を示しながら講義し、実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　ソーシャルワークの定義と構造
2　人と環境の交互作用
3　バイオ・サイコ・ソーシャルモデル
4　ミクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワーク
5　ソーシャルワークにおける援助関係
6　ソーシャルワークの過程　ケースの発見
7　ソーシャルワークの過程　エンゲージメント
8　ソーシャルワークの過程　アセスメント
9　ソーシャルワークの過程　プランニング
10　ソーシャルワークの過程　支援の実施
11　ソーシャルワークの過程　モニタリング
12　ソーシャルワークの過程　支援の終結、評価、アフターケア
13　ソーシャルワークの面接
14　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ
15　ソーシャルワークの記録

定期試験

16回目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書の指定ページを読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（1時間程度）。
（復習）授業内容に関する参考図書や参考ＵＲＬ等を紹介するので、それらを読んで理解を深めること。課題を提示することがある（1時間程度）

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法［共通科目］』，2021，ISBN 978-4-8058-8242-9，日本ソ-シャルワ-ク教育学校連盟，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

「社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。
ソーシャルワークの実際を学ぶために，受講学生のニーズに応じたソーシャルワーク機関での見学実習を行う（授業中に日程調整等を行う）。

ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	51471	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	濱崎　絵梨				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを理解する。ソーシャルワークの過程とそれに係る価値・知識・技術を理解する。ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	人と環境との交互作用に着目して介入するソーシャルワークの特性について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ソーシャルワークの構造と過程に係る価値・知識・技術を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチについて概要を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み　20%	1／2／3
2	レポート　20%	1／2
3	筆記試験　60%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉の相談援助業務に携わっていた経験から，現場の実態に即した内容について具体例を示しながら講義し、実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　ソーシャルワークの定義と構造
2　人と環境の交互作用
3　バイオ・サイコ・ソーシャルモデル
4　ミクロ・メゾ・マクロにおけるソーシャルワーク
5　ソーシャルワークにおける援助関係
6　ソーシャルワークの過程　ケースの発見
7　ソーシャルワークの過程　エンゲージメント
8　ソーシャルワークの過程　アセスメント
9　ソーシャルワークの過程　プランニング
10　ソーシャルワークの過程　支援の実施
11　ソーシャルワークの過程　モニタリング
12　ソーシャルワークの過程　支援の終結、評価、アフターケア
13　ソーシャルワークの面接
14　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ
15　ソーシャルワークの記録

定期試験

16回目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書の指定ページを読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（1時間程度）。
（復習）授業内容に関する参考図書や参考ＵＲＬ等を紹介するので、それらを読んで理解を深めること。課題を提示することがある（1時間程度）

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法［共通科目］』，2021，ISBN 978-4-8058-8242-9，日本ソ-シャルワ-ク教育学校連盟，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。
ソーシャルワークの実際を学ぶために，受講学生のニーズに応じたソーシャルワーク機関での見学実習を行う（授業中に日程調整等を行う）。

社会福祉援助技術論ＩＶ					単位数	2単位
授業コード	51480	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中井　俊雄					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

相談援助の展開過程において必要となるパーツの技術の理解・習得する。特に、クライアントの全体像をアセスメントし、支援計画をたて、モニタリング、評価といった中で必要な、ニーズキャッチ、アセスメント、面接、介入、モニタリング、記録、契約、交渉などの知識・技術を学ぶ。この学習をとおしてソーシャルワーカーとしての役割やあり方について考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	相談援助技術の方法を理解し、ソーシャルワーカーに必要な資質を確かめる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・取り組み（積極性・主体性）　３０％	1
2	・グループワーク・討議　　３０％	1
3	・課題レポート　　４０％	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

福祉の現場（市町村社会福祉協議会）において，27年間ソーシャルワーカーとして実践してきた勤務経験を生かし、実践現場で活かせるソーシャルワークスキルを身につけられるよう支援する。
実践力のある支援者となれる人材の育成を目指す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. アウトリーチの意義と目的
2. アウトリーチの方法と留意点
3. 相談援助のための契約の技術
4. ソーシャルワークにおけるアセスメント
5. 様々なアセスメントツール
6. 面接に用いる技術、面接の形態
7. エコマップとジェノグラム、情報の使い方
8. 介入の技術
9. モニタリング・再アセスメント
10. 効果測定、評価とサービス開発
11. 記録の意義と活用目的
12. 記録の方法と倫理的配慮
13. 相談援助のための交渉
14. 相談援助における契約
15. まとめ

定期試験

課題レポートの提出

試験のフィードバックの方法

manaba folioに模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）この授業は、テキストを中心に進めていきます。テキストを一読して授業に出席してください（１時間）。
（復習）参考図書やホームページを紹介しますので、高齢者や障害者を中心とする行政サービスや企業の支援策、地域・ボランティアなどの活動やサービスに関心をもって、最新の正しい情報を多数集めてください（２時間）。

必携書（教科書販売）

『＜最新 社会福祉士養成講座 専門科目12＞ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』2021，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日２．４時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

nakai◎m.ndsu.ac.jp
（◎を@に変更してください。）

留意事項

必要に応じてプリント・ビデオ・スライド等を使用する。

ソーシャルワークの理論と方法II				単位数	2単位
授業コード	51481	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中井　俊雄				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

ソーシャルワークの知識と技術について理解する。
コミュニティワークの概念とその展開について理解する。
ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ミクロ・メゾ・マクロの各レベルにおけるソーシャルワークについて概要を説明することができる。	知識・技能
2	コミュニティワークの具体的展開について説明することができる。	知識・技能
3	スーパービジョンの重要性を理解し、スーパーバイジーとしての役割を果たすことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み　20%	1／2／3
2	小テスト　20%	1／2／3
3	期末試験　60%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

福祉の現場（市町村社会福祉協議会）において，27年間ソーシャルワーカーとして実践してきた勤務経験を生かし、実践現場で活かせるソーシャルワークスキルを身につけられるよう支援する。
実践力のある支援者となれる人材の育成を目指す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　ソーシャルワークの知識と技術
2　ケアマネジメントの原則
3　ケアマネジメントの意義と方法
4　グループワークの意義と目的
5　グループワークの原則
6　グループワークの展開過程
7　セルフヘルプグループ
8　コミュニティワークの概念
9　コミュニティワークの意義と目的
10　コミュニティワークの展開
11　スーパービジョンの意義と目的
12　スーパービジョンの方法
13　コンサルテーションの意義、目的、方法
14　ソーシャルワーカーの役割、あり方
15　まとめ

定期試験

課題レポートの提出

試験のフィードバックの方法

manaba folioに模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）この授業は、テキストを中心に進めていきます。テキストを一読して授業に出席してください（１時間）。
（復習）参考図書やホームページを紹介しますので、高齢者や障害者を中心とする行政サービスや企業の支援策、地域・ボランティアなどの活動やサービスに関心をもって、最新の正しい情報を多数集めてください（２時間）。

必携書（教科書販売）

『＜最新 社会福祉士養成講座 共通科目１２＞ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』2021, 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集, 中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日２．４時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

nakai◎m.ndsu.ac.jp
（◎を@に変更してください。）

留意事項

必要に応じてプリント・ビデオ・スライド等を使用する。

社会福祉援助技術論Ⅴ				単位数	2単位
授業コード	51490	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	濱崎　絵梨				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

個人，家族，小集団，組織，地域社会といった規模の異なるクライエントシステムに対して，それぞれ適切なアプローチ方法を用いた相談援助ができる知識と技術を修得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ケースマネジメントとグループワークについて具体的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	相談援助における，多職種・多機関連携，ネットワーキング，社会資源の開発の重要性について理解し，具体的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	相談援助の対象と様々な実践モデル・アプローチについて対比させながら説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	インタビューや事例検討において，積極的に他者と協働しながら，社会福祉士として必要な態度や技術を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題レポート　50%	1／2
2	事例の理解度　20%	1／2／3／4
3	演習・インタビューへの積極的参加と協働　30%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉の相談援助業務に携わっていた経験から，現場の実態に即した内容について具体例を示しながら講義し、実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　ケースマネジメント
2　グループを活用した相談援助
3　自助グループを活用した相談援助
4　自助グループ活動の実際① インタビュー
5　自助グループ活動の実際② まとめ
6　自助グループ活動の実際③ 報告
7　コーディネーションとネットワーキング① 目的と意義
8　コーディネーションとネットワーキング② 方法と技術
9　総合的なネットワーキング形成とシステム化
10　ネットワーキングの実際①
11　ネットワーキングの実際②
12　社会資源の活用
13　治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
14　心理社会的アプローチ・機能的アプローチ
15　事例検討（特別講師）

定期試験

課題レポート

試験のフィードバックの方法

個別指導によるフィードバック

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）配布資料を読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（1時間程度）。
（復習）授業内容に関する参考図書や参考ＵＲＬ等を紹介するので、それらを読んで理解を深めること。課題を提示することがある（1時間程度）。

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］』，2021，ISBN 978-4-8058-8249-8，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」を履修していること。
特別講師を招いて事例検討を実施する。

ソーシャルワークの理論と方法III				単位数	2単位
授業コード	51491	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	濱崎　絵梨				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

個人，家族，小集団，組織，地域社会といった規模の異なるクライエントシステムに対して，それぞれ適切なアプローチ方法を用いた相談援助ができる知識と技術を修得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ケースマネジメントとグループワークについて具体的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	相談援助における，多職種・多機関連携，ネットワーキング，社会資源の開発の重要性について理解し，具体的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	相談援助の対象と様々な実践モデル・アプローチについて対比させながら説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	インタビューや事例検討において，積極的に他者と協働しながら，社会福祉士として必要な態度や技術を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題レポート　50%	1／2
2	事例の理解度　20%	1／2／3／4
3	演習・インタビューへの積極的参加と協働　30%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉の相談援助業務に携わっていた経験から，現場の実態に即した内容について具体例を示しながら講義し、実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　ケースマネジメント
2　グループを活用した相談援助
3　自助グループを活用した相談援助
4　自助グループ活動の実際① インタビュー
5　自助グループ活動の実際② まとめ
6　自助グループ活動の実際③ 報告
7　コーディネーションとネットワーキング① 目的と意義
8　コーディネーションとネットワーキング② 方法と技術
9　総合的なネットワーキング形成とシステム化
10　ネットワーキングの実際①
11　ネットワーキングの実際②
12　社会資源の活用
13　治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
14　心理社会的アプローチ・機能的アプローチ
15　事例検討（特別講師）

定期試験

課題レポート

試験のフィードバックの方法

個別指導によるフィードバック

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）配布資料を読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（1時間程度）。
（復習）授業内容に関する参考図書や参考ＵＲＬ等を紹介するので、それらを読んで理解を深めること。課題を提示することがある（1時間程度）。

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］』，2021，ISBN 978-4-8058-8249-8，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」を履修していること。
特別講師を招いて事例検討を実施する。

社会福祉援助技術論ＶＩ				単位数	2単位
授業コード	51495	科目ナンバリング	310B0-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	濱崎　絵梨				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて実践できる知識と技術を習得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ソーシャルワークにおける事例分析の意義と方法を理解し実施できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	ソーシャルワークの対象と様々な実践モデル・アプローチについて理解し，クライエントシステムの状況に応じたアプローチ方法が選択できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	演習において，積極的に他者と協働することで視野を広げ，多角的に考察する力を獲得する。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	事例の理解度　30%	1／3
2	演習への積極的参加と協働　30%	2／3
3	課題レポート　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉現場における相談援助業務の経験を活かして実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　問題解決アプローチ・課題中心アプローチ
2　危機介入アプローチ
3　危機介入アプローチの事例検討
4　行動変容アプローチ
5　行動変容アプローチの事例検討
6　エンパワメントアプローチ
7　ナラティブアプローチ
8　スーパービジョン
9　コンサルテーション
10　ケースカンファレンスの意義、目的、展開過程
11　ケースカンファレンスの実際
12　相談援助における情報通信技術（ICT）の活用、事例分析
13　地域支援の実際（特別講師）
14　家族支援の実際（特別講師）
15　権利擁護支援の実際（特別講師）

定期試験
課題レポート

試験のフィードバックの方法
個別指導によるフィードバック

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）教科書の指定ページを読んで授業に出席すること（1時間程度）。
（復習）授業内容に関する参考図書や参考ＵＲＬ等を紹介するので、それらを読んで理解を深めること。課題を提示することがある（1時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞
『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法』（「社会福祉援助技術論Ⅴ」で入手済）
＜参考書等＞
授業中に適宜資料を配布する。

オフィスアワー
質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先
hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項
「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅴ」を履修していること。
特別講師を招いて事例検討を実施する。

社会福祉調査の基礎					単位数	2単位
授業コード	51502	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	濱崎　絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会福祉の諸問題の議論は，対象となる種々の事象について，できる限り正確かつ客観的に把握したうえでなされる必要がある。この授業では，ソーシャルワーク実践に必要な社会福祉調査について，その基礎を学習する。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会福祉調査の意義と目的，方法について概要を説明・記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会福祉調査における倫理と個人情報保護について説明・記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について説明・記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	量的調査及び質的調査の知識と技術を習得する。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	調査レポート　50%	1／2／4
2	定期試験　50%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　社会福祉調査の意義と目的
2　社会福祉と社会福祉調査
3　統計法の概要
4　社会福祉調査における倫理と個人情報保護
5　社会福祉調査のデザイン
6　社会福祉調査のプロセス
7　量的調査の種類と方法
8　質問紙の作成方法と留意点
9　質問紙の配布と回収
10　量的調査の集計と分析
11　質的調査の種類と方法
12　質的調査における記録の方法
13　質的調査におけるデータ分析の方法
14　ソーシャルワークにおける評価
15　社会福祉調査の実際

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
manaba folioに模範解答を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）教科書の指定ページを読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（１時間程度） （復習）次回の授業で前回の内容に関する簡単な小テストを実施する。授業内容について復習しておくこと（１時間程度）
必携書（教科書販売）
『最新 社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座５ 社会福祉調査の基礎』，2021，978-4-8058-8235-1，日本ソーシャルワーク教育学校連盟，中央法規出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書等〉 必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
質問等は随時、電子メールで受け付ける。 オフィスアワーは授業中に伝える。
連絡先
hamasaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会福祉経営					単位数	2単位
授業コード	51520	科目ナンバリング	310B0-4000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	高中　美和					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

①福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、特定非営利活動法人制度他)
②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論（組織、経営、経営管理、集団の力学、リーダーシップ他）
③福祉サービス提供組織の経営と実際（理事会等の経営体制、財源、提供組織のコンプライアンスとガバナンス、人材育成、財務諸表の理解他）
④福祉サービスの管理運営の方法と実際（サービスマネジメント、苦情対応等リスクマネジメントの方法、人材育成他）
について理解する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	「福祉サービスの組織と経営」について、社会的に重要な役割をもった組織の目的や事業のあるべき姿、組織の目指すべき理念や使命、それを実現するための手段等について明らかにすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	重要項目について自分の言葉で表現することができる。	思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取組み度（課題レポート等含む）　30%	2
2	定期試験　70%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

社会福祉法人の業務執行理事及び統括施設長として法人の組織と経営に携わっており、「社会福祉の組織と経営」（サービス管理、人事・労務管理、財務管理等）について、具体的な内容を多角的に取り上げることにより、より実践的な授業を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

福祉サービスにおける組織と経営
1. 福祉サービスにおける組織・経営、福祉サービスと制度
　福祉サービスのかかわる組織や団体
2. 法人とは
3. 社会福祉法人
4. 特定非営利活動法人
5. その他の組織や団体
　福祉サービスの組織と経営の基礎理論
6. 戦略、事業計画
　組織、管理運営の基礎理論
7. 福祉サービスの管理運営の方法
8. サービス管理
9. サービスの質の評価
10. 苦情対応とリスクマネジメント
11. サービス提供のあり方の方向性
12. 人事・労務管理
13. 人材育成
14. 会計管理と財務管理
15. 情報管理

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

試験の後、解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

毎回の小レポートと日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的に、発展的な論述を求める。毎回授業を真剣に聴くと共に、積極的な質問や文献研究など、授業の事前事後に十分な授業外学習を進めてほしい。(約1～2時間)

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『新・社会福祉士養成講座11福祉サービスの組織と経営 』, 中央法規

必携書・参考書（教科書販売以外）

必要に応じて資料の準備・情報提供を行う。

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

連絡先

s8143@m.ndsu.ac.jp

留意事項

福祉関連の新聞記事等に目を通しておくことが望ましい。
関連科目の受講が大切。

保健医療と福祉					単位数	2単位
授業コード	51532	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	濱崎　絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学ぶ。保健医療にかかる政策、制度、サービスについて変遷とともに理解する。保健医療サービスにおける社会福祉士の役割と連携・協働のあり方を理解したうえで、クライエントに対する支援のあり方を考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	保健医療サービスの制度や仕組みを説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	クライエントに対して、適切な保健医療サービスを提案することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	保健医療サービスにおける社会福祉士の役割を理解し、他職種と連携・協働することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み　20%	1／2／3
2	課題レポート　30%	1／2
3	定期試験　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉施設において介護・生活相談業務に携わっていた経験から，保健医療サービスの実態について具体的に取り上げ，実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　保健医療の動向
2　保健医療における福祉的課題
3　医療保険制度の沿革
4　医療保険制度の特徴と種類
5　公費負担医療制度
6　医療費に関する政策動向
7　診療報酬
8　保健医療サービスと医療施設
9　保健医療サービスと保健医療対策
10　保健医療にかかる倫理
11　保健医療サービスにおける専門職の役割
12　医療ソーシャルワーカー
13　保健医療サービスにおける連携・協働
14　保健医療サービスにおける支援の実際
15　まとめ

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

manaba folioに模範解答を掲載する

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書の該当ページを読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（１時間程度）
（復習）授業内容に関する参考図書・URL等を紹介するので、それらを読んで理解を深めること（１時間程度）

必携書（教科書販売）

『新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック14 保健医療と福祉』, 2021, ISBN 9784623092086, ミネルヴァ書房

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

権利擁護を支える法制度				単位数	2単位
授業コード	51552	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	尾崎　力弥				
時間割備考	4/20,27, 5/18, 6/1,15, 7/6,20, 8/3(各4～5時限)				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

ソーシャルワーカーにとって権利擁護は、大変重要な果たすべき機能です。
権利擁護とは何か、その本質について理解し、実践につなげられることを目的とします。
権利擁護のために必要とされる価値・知識・技術について学びます。特に成年後見制度は重点的に学びます。
そのうえで、ソーシャルワーカーの関わりについて、その視点や方法論を具体的な事例を通じて考えていきます。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	権利擁護とはなにか説明できる	知識・技能
2	権利擁護支援が必要な対象者について説明できる	知識・技能
3	権利擁護のための法制度について説明できる	知識・技能
4	成年後見制度と実務について説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
5	事例を通じてソーシャルワーカーが果たすべき役割を説明できる	思考・判断・表現力

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　３０％	1／2／3／4／5
2	レポート・発表　３０％	1／2／3／4／5
3	定期試験　４０％	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

権利擁護分野でソーシャルワーカーとして携わってきた経験を踏まえ、この分野においてソーシャルワーカーとして身に着けておいてほしい、価値・知識・技術について具体的・実践的に伝えることを通じて、視野や思考が拡がり実践のイメージがもてるように取り組みます。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１，司法領域でソーシャルワーカーが果たす役割
２，権利擁護とはなにか
３，権利擁護に関する法制度１
４，権利擁護に関する法制度２
５，権利擁護に関する法制度３
６，成年後見制度１
７，成年後見制度２
８，成年後見制度３
９，日常生活自立支援事業
10，意思決定支援１
11，意思決定支援２
12，権利擁護に関する専門職
13，権利擁護とソーシャルワーク実践１
14，権利擁護とソーシャルワーク実践２
15，まとめ・定期試験

定期試験

定期試験
レポート
発表
リアクションペーパー

試験のフィードバックの方法

模範解答・回答例の提示
リアクションペーパーへの記載で、次回授業時に回答します

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

テキスト・配布資料をもとに授業を行います。講義を通じての学びと気づきをリアクションペーパーで提出してもらいます。各自の興味関心をもとに、自己学習と発表を求めます。課題レポートは文献をもとに考察を求めます。事例検討やディスカッションを通じて、現場での実践力を、国家試験問題等を通じて試験への対応力の獲得を目指します。

目安：３０～６０分

必携書（教科書販売）

『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座（９）権利擁護を支える法制度』中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

適宜配布・紹介します

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付けます

連絡先

ozaki@okayama-public-lo.jp

留意事項

主体的に学ぶ姿勢で、自分の価値観や他者の価値観との相互交流を通じて、自己覚知をはじめとした多くの気づきを得られるようにしましょう。

刑事司法と福祉					単位数	2単位
授業コード	51560	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	尾崎　力弥					
時間割備考	9/22, 1/6,20, 11/17, 12/1,15, 1/19,26(各1～2時限)					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会福祉を学ぶ者にとって刑事司法分野はなじみの薄い分野かもしれませんが、実は社会福祉と密接な関連があり、近年は注目されています。これまでは「更生保護制度」という授業名でしたが、そうした背景で、よりしっかりとした学びが必要であることから、刑事司法と福祉という名称となりました。
刑事司法の全体像を理解したうえで、ソーシャルワーカーがどのような形で関わるのか、その視点や方法論を具体的な事例を通じて考えていきます。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	刑事司法の概要について説明できる	知識・技能
2	刑事司法の担い手や関係機関について説明できる	知識・技能
3	累犯障害者・高齢者の存在背景と支援の必要性について説明できる	思考・判断・表現力
4	刑事司法と社会福祉の連携について事例をもとに対応を検討・考察できる	思考・判断・表現力
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　３０％	1／2／3／4
2	レポート・発表　３０％	1／2／3／4
3	定期試験　４０％	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

刑事司法分野でソーシャルワーカーとして携わってきた経験を踏まえ、この分野においてソーシャルワーカーとして身に着けておいてほしい、価値・知識・技術について具体的・実践的に伝えることを通じて、視野や思考が拡がり実践のイメージがもてるように取り組みます。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１，司法領域でソーシャルワーカーが果たす役割
２，犯罪とは
３，犯罪の実態
４，刑事司法の流れ１
５，刑事司法の流れ２
６，入口支援について
７，保護観察について
８，刑事施設
９，地域生活定着支援センター
10，累犯障害者
11，少年事件について１
12，少年事件について２
13，医療観察制度について１
14，医療観察制度について２
15，まとめ・定期試験

定期試験

定期試験
レポート
発表
リアクションペーパー

試験のフィードバックの方法

模範解答・回答例の提示

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

テキスト・配布資料をもとに授業を行います。講義を通じての学びと気づきをリアクションペーパーで提出してもらいます。各自の興味関心をもとに、自己学習と発表を求めます。課題レポートは文献をもとに考察を求めます。事例検討やディスカッションを通じて、現場での実践力を、国家試験問題等を通じて試験への対応力の獲得を目指します。

目安：３０～６０分

必携書（教科書販売）

『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座（１０）刑事司法と福祉』中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

『犯罪白書』『累犯障害者』『こども六法』『ともに取り組む司法福祉』などを適宜配布します

オフィスアワー

授業終了後に教室で質問を受け付けます
リアクションペーパーへの記載で、次回授業時に回答します

連絡先

ozaki@okayama-public-lo.jp

留意事項

主体的に学ぶ姿勢で、自分の価値観や他者の価値観との相互交流を通じて、自己覚知をはじめとした多くの気づきを得られるようにしましょう。

ソーシャルワーク演習				単位数	2単位
授業コード	51601	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	杉山　博昭、中井　俊雄				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会福祉実践の目的について学び、社会福祉士に求められる価値・知識・技術に関する全体像を学習する。自己覚知をすすめ、社会福祉士の持つ専門的価値や倫理責任を学び、基本的なコミュニケーション技術および個別面接技術の基礎を習得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	援助者としての自己の特徴について把握することができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	個人の価値観と専門職としての価値観を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	福祉サービスを必要とする人と適切なコミュニケーションをとることができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	非言語的コミュニケーションを活用することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5	福祉サービスの利用者との面接を適切に行うことが出来る。	知識・技能／思考・判断・表現力

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	ロールプレイなどへの取り組み　40%	3／4／5
2	課題ごとのレポート　30%	1／2／3
3	期末のレポート　30%	1／2／3／4／5
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別養護老人ホームや障害者作業所での支援に携わった経験から、認知症高齢者・知的障害者などコミュニケーションの困難な人と、どのようにして意思疎通を図り自己決定を実現するかについて、社会福祉施設での実践力を養成する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション・ソーシャルワーク演習の目的
2　自己覚知と他者理解（１）エゴグラム他
3　自己覚知と他者理解（２）ライフヒストリー他
4　個人的価値観と専門職的価値観
5　倫理綱領に関する学習
6　基本的コミュニケーション技術（1）　言語的技術　ロールプレイング
7　基本的コミュニケーション技術（2）　非言語的技術　ロールプレイング
8　面接技術（1）　面接の構造化　ロールプレイング
9　面接技術（2）　場の設定　ロールプレイング
10　面接技術（3）　ツールの活用
11　ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング）
12　ソーシャルワークの展開過程（支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア）
13　ソーシャルワークの記録（支援経過の記録と管理）
14　グループダイナミクスの活用（グループワークの構成・グループワークの展開過程）
15　プレゼンテーション技術（個人・グループ）

定期試験

期末にレポートを提出する。

試験のフィードバックの方法

ソーシャルワーク実習指導等の授業で説明していく。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業で示された課題（価値や倫理）について、関連文献を読んだり、日常生活での体験を振り返り考察するなど、主体的な姿勢で学習すること。また、作業課題を提示することがあるので、次回授業時に提出する。これら事前・事後の学習に1～2時間程度要する

必携書（教科書販売）

『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成校座13　ソーシャルワーク演習［共通科目］』,2021,978-4-8058-8243-6中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

授業時に随時プリント等を配布する。

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜2限

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

社会福祉士課程の者のみ履修できる。
個々の課題に主体的に取り組み、知識や技術を積極的に学び取る姿勢を持つこと。

ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	51611	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	中井　俊雄、杉山　博昭				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。
社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。
援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	事例を読み解いて、問題の所在を指摘したり、解決方法を提案することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	先行事例における援助プロセスについて、問題点や課題を指摘することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	個々の事例について、活用できる社会資源を提案することができる。	知識・技能／主体性
4	自らがかかわった事例について、適切に記録化し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	困難事例であっても解決の方策を提案することができる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	事例を読み解き理解できる。	20%	1／2
2	発言の積極性	20%	2／3
3	事例についての解決方策の提案	20%	4／5
4	課題レポート等	40%	1／2／3／4／5
5			

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

社会福祉協議会、地域包括支援センター、障害者地域活動支援センター、障害者基幹相談支援センター、権利擁護センター、生活困窮者自立相談支援機関等での実務経験から、実践現場での援助プロセスを記録化するうえでの課題や、問題解決にいたる現実的な課題を具体的に提示する。一つの問題を解決するうえで、社会資源や他職種がどのようにかかわるのかを示し、高い実践力を獲得できるように促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　虐待防止への理解と支援方法、事例検討法に関する学習
2　高齢者への虐待防止に関する事例検討
3　障害者への虐待防止に関する事例検討
4　児童への虐待防止に関する事例検討
5　貧困・ひきこもり・孤立・権利擁護等に関する課題の学習
6　貧困に関する事例検討
7　ひきこもりに関する事例検討
8　孤立に関する事例検討
9　権利擁護に関する事例検討
10　認知症・終末期ケアに関する課題の学習
11　認知症に関する事例検討
12　終末期ケアに関する事例検討
13　災害時の支援に関する課題の学習
14　災害時の支援に関する事例検討
15　複合的課題に関する学習

定期試験

課題レポート等を提出する。

試験のフィードバックの方法

課題レポート等を提出後にmanaba folioに模範例等を掲示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

事例研究を行うので、事例を事前に読んで演習課題について考察したうえで受講する。
学習した事例を読み直し、演習課題について再考する。これら事前・事後の学習に1～2時間程度要する。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『最新　社会福祉士養成講座７　ソーシャルワーク演習（社会専門）』, 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集, 中央法規出版, 2021年, ISBN-9784805882504

必携書・参考書（教科書販売以外）

授業中にプリントを配付する。他に文献を指示する場合がある。

オフィスアワー

オフィスアワー　木曜日１・４時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

nakai◎m.ndsu.ac.jp
（◎を@に変更してください。）

留意事項

社会福祉士課程の学生のみ履修できる。
授業に主体的に参加し、必ず発言をすること。
集団討論を重視するので、メンバーの意見を傾聴するとともに自分の意見を述べること。

ソーシャルワーク演習（専門）II				単位数	2単位
授業コード	51621	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中井　俊雄、杉山　博昭				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。
社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	コミュニティワークの展開過程や援助原則について具体的に説明することができる。	知識・技能
2	演習事例を読み込み、問題点や課題を指摘することが出来る。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	演習を通して学ぶことによって，地域援助技術を用いた課題解決方法について提案することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	演習への取り組み　50%	1／2／3
2	課題レポート　　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

福祉の現場（市町村社会福祉協議会）において，27年間ソーシャルワーカーとして実践してきた勤務経験を生かし、実践現場で活かせるソーシャルワークスキルを身につけられるよう支援する。
実践力のある支援者となれる人材の育成を目指す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション・地域福祉の基盤整備と開発・演習形式
2　地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握(1)　集団討論・実技指導
3　地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握(2)　集団討論・実技指導
4　地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握(3)　集団討論・実技指導
5　地域福祉計画(1)　集団討論・実技指導
6　地域福祉計画(2)　集団討論・実技指導
7　ソーシャルアクション　集団討論・実技指導
8　地域組織化活動　集団討論・実技指導
9　ネットワーキング(1)　集団討論・実技指導
10　ネットワーキング(2)　集団討論・実技指導
11　ネットワーキング(3)　集団討論・実技指導
12　社会資源の活用・調整・開発(1)　集団討論・実技指導
13　社会資源の活用・調整・開発(2)　集団討論・実技指導
14　サービス評価　集団討論・実技指導
15　まとめ

定期試験

課題レポートの提出

試験のフィードバックの方法

manaba folioに模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）この授業は、テキストを中心に進めていきます。テキストを一読して授業に出席してください（１時間）。
（復習）参考図書やホームページを紹介しますので、高齢者や障害者を中心とする行政サービスや企業の支援策、地域・ボランティアなどの活動やサービスに関心をもって、最新の正しい情報を多数集めてください（２時間）。

必携書（教科書販売）

『最新　社会福祉士養成講座７　ソーシャルワーク演習（社会専門）』，一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集，中央法規出版，2021年

必携書・参考書（教科書販売以外）

必要に応じてプリント・ビデオ・スライド等を使用する。

オフィスアワー

オフィスアワー　木曜日３．４時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

nakai◎m.ndsu.ac.jp
（◎を@に変更してください。）

留意事項

社会福祉士課程の学生のみ履修できる。
授業に主体的に参加し、必ず発言をすること。
集団討論を重視するので、メンバーの意見を傾聴するとともに自分の意見を述べること。

社会福祉演習IV					単位数	2単位
授業コード	51630	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	濱崎　絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

具体的な事例を用いて，ソーシャルワークの展開過程にそった具体的な援助場面を想定し，実技指導を中心とする演習形態により，個別援助・集団援助技術の習得を目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	相談援助にかかわる価値・知識・技術について，具体的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	援助を概念化・理論化し，体系立てて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	エンゲージメント・アセスメント・プランニングなどの相談援助技術および，その過程で必要な面接技術を習得し，適切に実行することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	事例の理解度　20%	1／2
2	演習への積極的参加と協働　30%	1／2／3
3	課題レポート　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉現場における相談援助業務の経験を活かして実技指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　事例検討・ソーシャルワーク展開過程・集団討論・在宅のケース
２　事例検討・ソーシャルワーク展開過程・集団討論・施設のケース
３　実技指導（１）・インテーク面接・ロールプレイング・児童
４　実技指導（２）・インテーク面接・ロールプレイング・障害者
５　実技指導（３）・インテーク面接・ロールプレイング・高齢者
６　実技指導（４）・アセスメント・プランニング・集団討論とスーパービジョン・入所型施設
７　実技指導（５）・アセスメント・プランニング・集団討論とスーパービジョン・地域型施設
８　直接援助と間接援助の実際・集団討論
９　モニタリングと効果測定・事例検討・集団討論
10　実技指導（６）・効果測定と評価・演習とスーパービジョン
11　終結とアフターケア・集団討論
12　社会資源の活用・調整・集団討論
13　社会資源の開発・資源開発・集団討論
14　アウトリーチの必要な事例・集団討論
15　チームアプローチ・ネットワーキング事例・集団討論

定期試験

課題レポート

試験のフィードバックの方法

manabaから課題レポートに対するフィードバックのコメントを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

この授業は，事例検討を中心に継続して行う。
事例を読み込んで出席すること。
導入される社会資源について，常に関心を持って行政や団体等の機関紙や手引きなどの情報収集に努めること。
事前・事後の学習に1時間程度要する。

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習［社会専門］』，2021年，978-4-8058-8250-4，日本ソ-シャルワ-ク教育学校連盟，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは初回授業時に提示する。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

社会福祉士課程の学生のみ受講できる。
全出席を原則とする。
受講者は主体的に参加し，討論に加わること。
集団討論の際に外部講師を招くことがある。

ソーシャルワーク演習（専門）III				単位数	2単位
授業コード	51631	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	濱崎　絵梨、中井　俊雄				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

具体的な事例を用いて，ソーシャルワークの展開過程にそった具体的な援助場面を想定し，実技指導を中心とする演習形態により，個別援助・集団援助技術の習得を目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	相談援助にかかわる価値・知識・技術について，具体的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	援助を概念化・理論化し，体系立てて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	エンゲージメント・アセスメント・プランニングなどの相談援助技術および，その過程で必要な面接技術を習得し，適切に実行することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	事例の理解度　20%	1／2
2	演習への積極的参加と協働　30%	1／2／3
3	課題レポート　50%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉現場における相談援助業務の経験を活かして実技指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　事例検討・ソーシャルワーク展開過程・集団討論・在宅のケース
２　事例検討・ソーシャルワーク展開過程・集団討論・施設のケース
３　実技指導（１）・インテーク面接・ロールプレイング・児童
４　実技指導（２）・インテーク面接・ロールプレイング・障害者
５　実技指導（３）・インテーク面接・ロールプレイング・高齢者
６　実技指導（４）・アセスメント・プランニング・集団討論とスーパービジョン・入所型施設
７　実技指導（５）・アセスメント・プランニング・集団討論とスーパービジョン・地域型施設
８　直接援助と間接援助の実際・集団討論
９　モニタリングと効果測定・事例検討・集団討論
10　実技指導（６）・効果測定と評価・演習とスーパービジョン
11　終結とアフターケア・集団討論
12　社会資源の活用・調整・集団討論
13　社会資源の開発・資源開発・集団討論
14　アウトリーチの必要な事例・集団討論
15　チームアプローチ・ネットワーキング事例・集団討論

定期試験

課題レポート

試験のフィードバックの方法

manabaから課題レポートに対するフィードバックのコメントを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

この授業は，事例検討を中心に継続して行う。
事例を読み込んで出席すること。
導入される社会資源について，常に関心を持って行政や団体等の機関紙や手引きなどの情報収集に努めること。
事前・事後の学習に1時間程度要する。

必携書（教科書販売）

『最新 社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習［社会専門］』，2021年，978-4-8058-8250-4，日本ソ-シャルワ-ク教育学校連盟，中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは初回授業時に提示する。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

社会福祉士課程の学生のみ受講できる。
全出席を原則とする。
受講者は主体的に参加し，討論に加わること。
集団討論の際に外部講師を招くことがある。

社会福祉演習Ⅴ				単位数	2単位
授業コード	51640	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	濱崎　絵梨				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会福祉士の行う相談援助にかかわる専門的知識と専門的技術を統合的に習得することを目的とする。学生の持つ実習体験を一般化し，実践的な知識と技術として習得できるように，学生の個別的な体験も視野に入れつつ，実技指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	実習体験をもとにした事例を完成させ説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	社会福祉士に求められる知識・技術を，統合化し応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	演習に積極的に参加することで，視野を広げ，多角的な視野で事例検討ができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	事例の理解度　30%	1／2
2	演習への積極的参加と協働　40%	1／2／3
3	課題レポート　30%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉現場における相談援助業務の経験を活かしてファシリテーションを担い実技指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション・事例作成方法・事例作成方法に関する学習
2　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・独居高齢者
3　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・認知症高齢者
4　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・家族支援
5　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・身体障害者
6　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・知的障害者
7　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・精神障害者
8　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・ひとり親家庭
9　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・ボランティア支援
10　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・住民の組織化
11　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・被虐待児童
12　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・発達障害児
13　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・低所得
14　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・地域からの孤立
15　全体のまとめ

定期試験

課題レポート

試験のフィードバックの方法

manabaから課題レポートに対するフィードバックのコメントを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）検討事例に関する配布資料を熟読し，分からないことは事前に調べたうえ事例検討に臨むこと（1時間程度）。
（復習）検討事例に関する参考図書や参考ＵＲＬ等を紹介するので，それらを読んで理解を深めること（1時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業時に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

社会福祉士課程の学生のみ受講できる。
学生の主体的な討論参加が不可欠であるので，積極的に発言するなど主体的に受講すること。
事例検討の際に外部講師を招くことがある。

ソーシャルワーク演習（専門）IV				単位数	2単位
授業コード	51641	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	濱崎　絵梨、中井　俊雄				
時間割備考					
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

社会福祉士の行う相談援助にかかわる専門的知識と専門的技術を統合的に習得することを目的とする。学生の持つ実習体験を一般化し，実践的な知識と技術として習得できるように，学生の個別的な体験も視野に入れつつ，実技指導を行う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	実習体験をもとにした事例を完成させ説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	社会福祉士に求められる知識・技術を，統合化し応用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	演習に積極的に参加することで，視野を広げ，多角的な視野で事例検討ができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	事例の理解度　30%	1／2
2	演習への積極的参加と協働　40%	1／2／3
3	課題レポート　30%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者福祉現場における相談援助業務の経験を活かしてファシリテーションを担い実技指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション・事例作成方法・事例作成方法に関する学習
2　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・独居高齢者
3　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・認知症高齢者
4　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・家族支援
5　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・身体障害者
6　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・知的障害者
7　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・精神障害者
8　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・ひとり親家庭
9　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・ボランティア支援
10　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・住民の組織化
11　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・被虐待児童
12　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・発達障害児
13　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・低所得
14　実習事例検討・集団討論とスーパービジョン・地域からの孤立
15　全体のまとめ

定期試験

課題レポート

試験のフィードバックの方法

manabaから課題レポートに対するフィードバックのコメントを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）検討事例に関する配布資料を熟読し，分からないことは事前に調べたうえ事例検討に臨むこと（1時間程度）。
（復習）検討事例に関する参考図書や参考ＵＲＬ等を紹介するので，それらを読んで理解を深めること（1時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業時に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

社会福祉士課程の学生のみ受講できる。
学生の主体的な討論参加が不可欠であるので，積極的に発言するなど主体的に受講すること。
事例検討の際に外部講師を招くことがある。

相談援助実習					単位数	4単位
授業コード	51660	科目ナンバリング	310B0-3000-o4	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	杉山　博昭、濱崎　絵梨、中井　俊雄					
時間割備考	2020年度以前入学生対象					
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会福祉専門職を目指す学生が，各種施設・機関において専門分化した機能を具体的かつ正しく理解しながら，適切な実習指導者の指導を受けることを通じ，専門業務を有効的に実践できる readiness（専門知識・技術・能力）を培う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会福祉援助技術論で学んだ知識・技術を現場で活用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	福祉現場の課題について、解決策を提案することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	利用者への支援計画を立案することができる。	知識・技能／主体性
4	「社会福祉士の倫理綱領」にそった援助をすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	実践を記録にまとめることができる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	180時間の現場実習は必修。	1／2／3／4／5
2	配属実習先の評価　　70%	1／2／3／4／5
3	実習計画書提出。　　15%	2／3／4
4	実習報告書提出と実習報告会での発表。　　15%	1／2／5
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員はそれぞれ、高齢者施設（濱崎）、障害者施設（杉山）、社会福祉協議会（中井）で社会福祉援助に携わってきた。社会福祉援助の理論によってそのまま現場で対応できるわけではなく、現場の実態や利用者の現状を踏まえて検討しなければならない。福祉現場における課題について、現場の実態を踏まえて具体的に提起し、価値や倫理を踏まえた実践を構築できるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

Ⅰ．事前学習
(1)　実習前のオリエンテーション
① 実習の目的
② 実習先についての一般的理解
③ 実習に伴う留意事項など
④ レポート提出・グループ討議
(2)　外部講師の講義
レポート提出・グループ討議
(3)　グループ学習（個別指導を含む）
① 実習計画書の作成
② 記録実技指導・他
③ レポート提出・グループ討議
Ⅱ．配属実習
(1)　施設・機関において180時間以上
① 実習形態（集中）
② 実習直後のグループ学習（個別指導を含む）
③ 実習の進み具合，実習への取り組み態度等
課題達成度の評価
④ レポート提出・グループ討議
Ⅲ．事後学習
(1) グループ学習（個別指導を含む）
① 実習記録に基づく総括
② グループ内配属実習体験報告会
③ レポート提出
(2) 実習全体の総まとめ
① 実習報告書作成
② 配属実習体験報告会
③ 実習報告書提出
Ⅳ．その他

定期試験

実習中は「実習記録」を毎日記載する。
実習後に「実習報告書」を提出する。
実習報告会を開催し、口頭での報告を行う。

試験のフィードバックの方法

「社会福祉援助技術実習指導」の時間に、振り返りを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

実習施設の概要、根拠法、利用者の特性など、実習に必要な知識を習得すること。社会福祉の法制度等を確認すること。ソーシャルワークの内容を再確認すること。
これらの学習に2時間以上要する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［社会専門］』,2021年,一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規出版（相談援助実習指導で購入済み）
『実習の手引き』を配付する。

＜参考書等＞
　各自の実習先にとって参考になる文献を使用する。

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日　2時限
そのほか随時、各担当教員の研究室を訪ねてかまわない。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

強い責任感をもって真剣に取り組むこと。
無断欠席など、不適切な行為があった場合は、実習の中断を検討する。
実習中は実習先の指導に従うこと。
各担当教員による個別指導を行う。

ソーシャルワーク実習［21］				単位数	6単位
授業コード	51661	科目ナンバリング	310B0-2300-o6	開講年度学期	2022年度第２期、2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	杉山　博昭、中井　俊雄、濱崎　絵梨				
時間割備考	2021年度以降入学生対象2022年度第2期～2023年度第2期まで				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					

本授業の概要

ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。実践を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。施設・期間等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知能・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ソーシャルワークの基盤と方法・ソーシャルワークの理論と方法で学んだ知識・技術を現場で活用することができる。	知識・技能／主体性
2	福祉現場の課題について、解決策を提案することができる。	思考・判断・表現力
3	利用者への支援計画を立案することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	「社会福祉士の倫理綱領」にそった援助をすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5	実践を記録にまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の討議への参加　10%	
2	授業時のレポート　　10%	
3	1回目の実習　20%　2回目の実習40%	
4	実習後の報告　　10%	
5	実習報告書の完成度　10%	

実務経験のある教員による科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員はそれぞれ、高齢者施設（濱崎）、障害者施設（杉山）、社会福祉協議会（中井）で社会福祉援助に携わってきた。社会福祉援助の理論によってそのまま現場で対応できるわけではなく、現場の実態や利用者の現状を踏まえて検討しなければならない。福祉現場における課題について、現場の実態を踏まえて具体的に提起し、価値や倫理を踏まえた実践を構築できるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

Ⅰ．事前学習（第1回目実習へ向けて）
(1)　実習前のオリエンテーション
①　実習の目的　社会福祉士としての職業倫理・組織の一員としての役割と責任
②　実習先についての一般的理解　利用者理解と利用者や地域住民との人間関係形成やコミュニケーション
③　実習に伴う留意事項など
④　レポート提出・グループ討議
(2)　外部講師の講義
レポート提出・グループ討議
(3)　グループ学習（個別指導を含む）
①　実習計画書の作成
②　記録実技指導　利用者や地域の状況を把握したうえでの支援計画の作り方
③　レポート提出・グループ討議
Ⅱ．配属実習（第1回目実習）
(1)　施設・機関において60時間以上
①　実習形態（集中）　実習先の地域社会での役割の理解・多職種連携のあり方
②　実習直後のグループ学習（個別指導を含む）
③　実習の進み具合，実習への取り組み態度等
課題達成度の評価
④　レポート提出・グループ討議

Ⅲ. 事後学習
(1) グループ学習（個別指導を含む）
① 実習記録に基づく総括
② グループ内配属実習体験報告会
③ レポート提出
(2) 実習全体の総まとめ
① 実習報告書作成
② 配属実習体験報告会
③ 実習報告書提出
Ⅳ. 事前学習（第2回目実習へ向けて）
(1) レポート提出・グループ討議
(2) 外部講師の講義
レポート提出・グループ討議
(3) グループ学習（個別指導を含む）
① 実習計画書の作成
② 記録実技指導　社会資源の役割と活用・調整・開発　施設・機関団体の管理運営
③ レポート提出・グループ討議
Ⅴ. 配属実習（第2回目実習）
(1) 施設・機関において180時間以上
① 実習形態（集中）アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーションなどの実践
② 実習直後のグループ学習（個別指導を含む）
③ 実習の進み具合，実習への取り組み態度等
課題達成度の評価
④ レポート提出・グループ討議
Ⅵ. 事後学習
(1) グループ学習（個別指導を含む）
① 実習記録に基づく総括
② グループ内配属実習体験報告会

2回の実習全体を通しての総合的な報告書の作成

定期試験

実習中は「実習記録」を毎日記載する。
実習後に「実習報告書」を提出する。
実習報告会を開催し、口頭での報告を行う。

試験のフィードバックの方法

「ソーシャルワーク実習指導」の時間に振り返りを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

実習施設の概要、根拠法、利用者の特性など、実習に必要な知識を習得すること。社会福祉の法制度等を確認すること。ソーシャルワークの内容を再確認すること。
これらの学習に2時間以上要する。

必携書（教科書販売）

必携書（教科書販売以外）

『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［社会専門］』,2021年,一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規出版（「ソーシャルワーク実習指導」で購入済み）
『実習の手引き』を配布する。

オフィスアワー

オフィスアワー　水曜日　1時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

強い責任感をもって真剣に取り組むこと。
無断欠席など、不適切な行為があった場合は、実習の中断を検討する。
実習中は実習先の指導に従うこと。
各担当教員による個別指導を行う。

ソーシャルワーク実習［22］				単位数	6単位
授業コード	51662	科目ナンバリング	310B0-2300-o6	開講年度学期	2023年度第２期、2024年度第１期、2024年度第２期
担当者氏名	杉山　博昭、中井　俊雄、濱崎　絵梨				
時間割備考	2021年度以降入学生対象2023年度第2期～2024年度第2期まで				
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。実践を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。施設・期間等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ソーシャルワークの基盤と方法・ソーシャルワークの理論と方法で学んだ知識・技術を現場で活用することができる。	知識・技能／主体性
2	福祉現場の課題について、解決策を提案することができる。	思考・判断・表現力
3	利用者への支援計画を立案することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	「社会福祉士の倫理綱領」にそった援助をすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
5	実践を記録にまとめることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の討議への参加　10%	1
2	授業時のレポート　10%	2／3
3	Ｉ回目の実習　20%　　2回目の実習　40%	1／2／3／4／5
4	実習後の報告　10%	1／2／5
5	実習報告書の完成度　　10%	1／2／5

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員はそれぞれ、高齢者施設（濱崎）、障害者施設（杉山）、社会福祉協議会（中井）で社会福祉援助に携わってきた。社会福祉援助の理論によってそのまま現場で対応できるわけではなく、現場の実態や利用者の現状を踏まえて検討しなければならない。福祉現場における課題について、現場の実態を踏まえて具体的に提起し、価値や倫理を踏まえた実践を構築できるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

Ⅰ．事前学習（第1回目実習へ向けて）
(1)　実習前のオリエンテーション
①　実習の目的　社会福祉士としての職業倫理・組織の一員としての役割と責任
②　実習先についての一般的理解　利用者理解と利用者や地域住民との人間関係形成やコミュニケーション
③　実習に伴う留意事項など
④　レポート提出・グループ討議
(2)　外部講師の講義
レポート提出・グループ討議
(3)　グループ学習（個別指導を含む）
①　実習計画書の作成
②　記録実技指導　利用者や地域の状況を把握したうえでの支援計画の作り方
③　レポート提出・グループ討議
Ⅱ．配属実習（第1回目実習）
(1)　施設・機関において60時間以上
①　実習形態（集中）　実習先の地域社会での役割の理解・多職種連携のあり方
②　実習直後のグループ学習（個別指導を含む）
③　実習の進み具合，実習への取り組み態度等
課題達成度の評価
④　レポート提出・グループ討議
Ⅲ．事後学習
(1) グループ学習（個別指導を含む）
①　実習記録に基づく総括
②　グループ内配属実習体験報告会
③　レポート提出
(2) 実習全体の総まとめ
①　実習報告書作成
②　配属実習体験報告会
③　実習報告書提出

Ⅳ. 事前学習（第2回目実習へ向けて）
(1) レポート提出・グループ討議
(2) 外部講師の講義
レポート提出・グループ討議
(3) グループ学習（個別指導を含む）
① 実習計画書の作成
② 記録実技指導　社会資源の役割と活用・調整・開発　施設・機関団体の管理運営
③ レポート提出・グループ討議
Ⅴ. 配属実習（第2回目実習）
(1) 施設・機関において180時間以上
① 実習形態（集中）アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーションなどの実践
② 実習直後のグループ学習（個別指導を含む）
③ 実習の進み具合，実習への取り組み態度等
課題達成度の評価
④ レポート提出・グループ討議
Ⅵ. 事後学習
(1) グループ学習（個別指導を含む）
① 実習記録に基づく総括
② グループ内配属実習体験報告会

2回の実習全体を通しての総合的な報告書の作成

定期試験

実習中は「実習記録」を毎日記載する。
実習後に「実習報告書」を提出する。
実習報告会を開催し、口頭での報告を行う。

試験のフィードバックの方法

「ソーシャルワーク実習指導」の時間に振り返りを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

実習施設の概要、根拠法、利用者の特性など、実習に必要な知識を習得すること。社会福祉の法制度等を確認すること。ソーシャルワークの内容を再確認すること。
これらの学習に2時間以上要する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［社会専門］』,2021年,一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規出版（「ソーシャルワーク実習指導」で購入済み）
『実習の手引き』を配布する。

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日2限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

強い責任感をもって真剣に取り組むこと。
無断欠席など、不適切な行為があった場合は、実習の中断を検討する。
実習中は実習先の指導に従うこと。
各担当教員による個別指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導［21］				単位数	3単位
授業コード	51685	科目ナンバリング	310B0-2300-o3	開講年度学期	2022年度第２期、2023年度第１期、2023年度第２期
担当者氏名	杉山　博昭、中井　俊雄、濱崎　絵梨				
時間割備考	2年生対象 2022年度第2期～2023年度第2期まで				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					

本授業の概要

ソーシャルワーク実習の意義について理解する。社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。ソーシャルワークに係わる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を獲得する。実習を振り返り、実習で得た具体的な体験やかつ援助活動を､専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知能・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	大学で学んだ知識、技術をソーシャルワーク実習の具体的な体験で理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ソーシャルワーカーを目指すにあたっての課題を明らかにすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	社会福祉の制度や理論を、現場の実態のなかで具体的に取り上げることができる。	知識・技能／主体性
4	「社会福祉士の倫理綱領」を理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	実習の関連する計画書・報告書等を作成することができる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の課題　20%	1／2
2	課題レポート　50%	1／2／3／4／5
3	実習計画書　15%	4／5
4	実習報告書　15%	4／5
5		

実務経験のある教員による科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員はそれぞれ、高齢者施設（濱崎）、障害者施設（杉山）、社会福祉協議会（中井）で社会福祉援助に携わってきた。社会福祉援助の理論によってそのまま現場で対応できるわけではなく、現場の実態や利用者の現状を踏まえて検討しなければならない。福祉現場における課題について、現場の実態を踏まえて具体的に提起し、価値や倫理を踏まえた実践を構築できるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

２年Ⅱ期
1　オリエンテーション
2　ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義について（スーパービジョン含む）
3　実習先の施設・機関、地域社会の理解
4　実習先で行われる介護や保育等関連業務の理解
5　実習先の制度的理解
6　ソーシャルワーカーの職務
7　実習先施設・機関の概要整理
8　実習分野（利用者理解含む）
9　ソーシャルワークの価値規範と倫理
10　ソーシャルワークの知識と技術の理解
11　多様な施設・事業所の現場体験学習や見学
12　利用者のプライバシー保護と守秘義務
13　実習計画書の作成（実習生・実習担当教員・実習先実習指導者との協議を踏まえる）
14　実習記録の記録内容及び記録方法の理解
15　第１回目実習への準備
実習中は巡回指導を行う

３年Ⅰ期
16～18　第１回目実習の報告・振り返り・評価
19　　第１回目実習を踏まえたソーシャルワークの価値規範と倫理
20　　第１回目実習を踏まえたソーシャルワークの機能と能力、知識・技術
21　　他職種の専門性と業務に関する基本的理解
22　　実習を行う実習分野の職員による特別講義
23　　専門職としての実習記録の記録内容と方法
24　　実習計画書の作成
25　　実習先訪問
26　　実習計画書の三者協議（実習生・実習担当教員・実習先実習指導者との協議を踏まえる）
27　　実習計画書の再検討
28　　実習計画書の完成
29～30　第２回目実習への準備
実習中は巡回指導を行う

３年Ⅱ期
31　　第２回目実習の報告・振り返り
32　　実習後の評価（学生の自己評価と施設の評価）
33～34　インシデントスタディ
35～36　課題整理
37～38　実習総括レポート作成
39～40　グループディスカッション
41～42　全体総括会レポート作成
43～45　実習評価・全体総括会（特別講師・実習施設の指導者）

定期試験

レポート課題を提出する。

試験のフィードバックの方法

社会福祉士関係の科目で説明していく。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

関係文献の講読、法制度の把握、ソーシャルワークについての知識の確認、実習先についての調査などを行う。これには1～2時間要する。

必携書（教科書販売）

必携書（教科書販売以外）

『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［社会専門］』,2021年,一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規出版（授業開始後、教員より販売）
『実習の手引き』を配布する。

オフィスアワー

オフィスアワー　水曜日　1時限
そのほか、個々の教員を個別の訪問してかまわない

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

実習の一部だという認識で、緊張感をもって出席すること。課題等に積極的に取り組むこと。

ソーシャルワーク実習指導［22］				単位数	3単位
授業コード	51686	科目ナンバリング	310B0-2300-o3	開講年度学期	2023年度第２期、2024年度第１期、2024年度第２期
担当者氏名	杉山　博昭、中井　俊雄、濱崎　絵梨				
時間割備考	2年生対象 2023年度第2期～2024年度第2期まで				
授業形態（主）	２演習				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

ソーシャルワーク実習の意義について理解する。社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。ソーシャルワークに係わる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を獲得する。実習を振り返り、実習で得た具体的な体験やかつ援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	大学で学んだ知識、技術をソーシャルワーク実習の具体的な体験で理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ソーシャルワーカーを目指すにあたっての課題を明らかにすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	社会福祉の制度や理論を、現場の実態のなかで具体的に取り上げることができる。	知識・技能／主体性
4	「社会福祉士の倫理綱領」を理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	実習の関連する計画書・報告書等を作成することができる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の課題　　20%	1／2
2	課題レポート　50%	1／2／3／4／5
3	実習計画書　15%	4／5
4	実習報告書　15%	4／5
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員はそれぞれ、高齢者施設（濱崎）、障害者施設（杉山）、社会福祉協議会（中井）で社会福祉援助に携わってきた。社会福祉援助の理論によってそのまま現場で対応できるわけではなく、現場の実態や利用者の現状を踏まえて検討しなければならない。福祉現場における課題について、現場の実態を踏まえて具体的に提起し、価値や倫理を踏まえた実践を構築できるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

２年Ⅱ期
1　　オリエンテーション
2　　ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義について（スーパービジョン含む）
3　　実習先の施設・機関、地域社会の理解
4　　実習先で行われる介護や保育等関連業務の理解
5　　実習先の制度的理解
6　　ソーシャルワーカーの職務
7　　実習先施設・機関の概要整理
8　　実習分野（利用者理解含む）
9　　ソーシャルワークの価値規範と倫理
10　　ソーシャルワークの知識と技術の理解
11　　多様な施設・事業所の現場体験学習や見学
12　　利用者のプライバシー保護と守秘義務
13　　実習計画書の作成（実習生・実習担当教員・実習先実習指導者との協議を踏まえる）
14　　実習記録の記録内容及び記録方法の理解
15　　第１回目実習への準備
実習中は巡回指導を行う

３年Ⅰ期
16～18　第１回目実習の報告・振り返り・評価
19　　第１回目実習を踏まえたソーシャルワークの価値規範と倫理
20　　第１回目実習を踏まえたソーシャルワークの機能と能力、知識・技術
21　　他職種の専門性と業務に関する基本的理解
22　　実習を行う実習分野の職員による特別講義
23　　専門職としての実習記録の記録内容と方法
24　　実習計画書の作成
25　　実習先訪問
26　　実習計画書の三者協議（実習生・実習担当教員・実習先実習指導者との協議を踏まえる）
27　　実習計画書の再検討
28　　実習計画書の完成
29～30　第２回目実習への準備
実習中は巡回指導を行う

３年Ⅱ期
31　　第２回目実習の報告・振り返り
32　　実習後の評価（学生の自己評価と施設の評価）
33～34　インシデントスタディ
35～36　課題整理
37～38　実習総括レポート作成
39～40　グループディスカッション
41～42　全体総括会レポート作成
43～45　実習評価・全体総括会（特別講師・実習施設の指導者）

定期試験

レポート課題を提出する。

試験のフィードバックの方法

社会福祉士関係の科目で説明していく。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

関係文献の講読、法制度の把握、ソーシャルワークについての知識の確認、実習先の調査などを行う。これには1～2時間を要する。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［社会専門］』,2021年,一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規出版（授業開始後、教員より販売）
『実習の手引き』を配布する。

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜2限
そのほか、個々の教員を個別に訪問してかまわない。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

実習の一部だという認識で、緊張感をもって出席すること。課題等に積極的に取り組むこと。

相談援助実習指導					単位数	3単位
授業コード	51700	科目ナンバリング	310B0-2300-o3	開講年度学期	2022年度第２期、2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	杉山　博昭、濱崎　絵梨、中井　俊雄					
時間割備考	2020年度以前入学生対象					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						

本授業の概要

ソーシャルワーク実習の意義について理解する。社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。ソーシャルワークに係わる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を獲得する。実習を振り返り、実習で得た具体的な体験やかつ援助活動を､専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知能・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	大学で学んだ知識、技術をソーシャルワーク実習の具体的な体験で理解することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	ソーシャルワーカーを目指すにあたっての課題を明らかにすることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	社会福祉の制度や理論を、現場の実態のなかで具体的に取り上げることができる。	知識・技能／主体性
4	「社会福祉士の倫理綱領」を理解し説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5	実習の関連する計画書・報告書等を作成することができる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業時の課題　20%	1／2
2	課題レポート　50%	1／2／3／4／5
3	実習計画書　15%	4／5
4	実習報告書　15%	4／5
5		

実務経験のある教員による科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

担当教員はそれぞれ、高齢者施設（濱崎）、障害者施設（杉山）、社会福祉協議会（中井）で社会福祉援助に携わってきた。社会福祉援助の理論によってそのまま現場で対応できるわけではなく、現場の実態や利用者の現状を踏まえて検討しなければならない。福祉現場における課題について、現場の実態を踏まえて具体的に提起し、価値や倫理を踏まえた実践を構築できるよう促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

２年Ⅱ期
1　　オリエンテーション
2　　ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義について（スーパービジョン含む）
3　　実習先の施設・機関、地域社会の理解
4　　実習先で行われる介護や保育等関連業務の理解
5　　実習先の制度的理解
6　　ソーシャルワーカーの職務
7　　実習先施設・機関の概要整理
8　　実習分野（利用者理解含む）
9　　ソーシャルワークの価値規範と倫理
10　　ソーシャルワークの知識と技術の理解
11　　多様な施設・事業所の現場体験学習や見学
12　　利用者のプライバシー保護と守秘義務
13　　実習計画書の作成（実習生・実習担当教員・実習先実習指導者との協議を踏まえる）
14　　実習記録の記録内容及び記録方法の理解
15　　第１回目実習への準備
実習中は巡回指導を行う

３年Ⅰ期
16～18　第１回目実習の報告・振り返り・評価
19　　第１回目実習を踏まえたソーシャルワークの価値規範と倫理
20　　第１回目実習を踏まえたソーシャルワークの機能と能力、知識・技術
21　　他職種の専門性と業務に関する基本的理解
22　　実習を行う実習分野の職員による特別講義
23　　専門職としての実習記録の記録内容と方法
24　　実習計画書の作成
25　　実習先訪問
26　　実習計画書の三者協議（実習生・実習担当教員・実習先実習指導者との協議を踏まえる）
27　　実習計画書の再検討
28　　実習計画書の完成
29～30　第２回目実習への準備
実習中は巡回指導を行う

３年Ⅱ期

定期試験

レポート課題を提出する。

試験のフィードバックの方法

社会福祉士関係の科目で説明していく。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

関係文献の講読、法制度の把握、ソーシャルワークについての知識の確認、実習先についての調査などを行う。これには1～2時間要する。

必携書（教科書販売）

必携書（教科書販売以外）

『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［社会専門］』,2021年,一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規出版
『実習の手引き』を配布する。

オフィスアワー

オフィスアワー　水曜日　1時限
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

sugiyama@post.ndsu.ac.jp

留意事項

実習の一部だという認識で、緊張感をもって出席すること。課題等に積極的に取り組むこと。

介護理論及び介護技術					単位数	2単位
授業コード	51710	科目ナンバリング	310B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	濱崎　絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

介護の概念，目的，対象，専門職などについて学習する。福祉用具の実際について学習する。基礎的な介護技術について実技を行う。介護の実際を学ぶために，デイサービス及びグループホームでの見学実習を行う。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	介護の知識と方法について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	介護のあり方について、双方向性を理解したうえで考察し、記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	介護の基礎的な技術を習得し，実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	実技や見学実習において、メンバーと積極的に協働することができる。	主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	レポート　20%	1／2
2	実技・見学実習への積極的参加と協働　30%	3／4
3	筆記試験　50%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者施設での介護経験を活かして実技を含めた講義を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　介護概念と介護倫理
2　介護を必要とする人の理解
3　介護の実際
4　コミュニケーション技法
5　移乗・移動の介護
6　車いす・ガイドヘルパー体験
7　着脱・食事の介護
8　排泄・清潔の介護
9　介護に必要な医学基礎知識
10　住環境、福祉用具の活用
11　福祉用具体験学習（学外）
12　認知症ケア
13　終末期ケア
14　グループホーム見学実習（学外）
15　デイサービス見学実習（学外）

定期試験

16回目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

試験終了後に模範解答を掲示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）教科書と配布資料を読んで，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨むこと（1時間程度）。
（復習）授業内容に関する参考図書や参考ＵＲＬ等を紹介するので，それらを読んで理解を深めること（1時間程度）。

必携書（教科書販売）

『社会福祉学習双書2023 第15巻 介護概論』, 2023, ISBN 9784793514234, 全国社会福祉協議会

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書等〉
必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー

質問等は随時、電子メールで受け付ける。
オフィスアワーは授業中に伝える。

連絡先

hamasaki@m.ndsu.ac.jp

留意事項

実技的な内容が含まれるので，より主体的に取り組むことが求められる。
動きやすい服装の指示をすることがある。
福祉用具展示･体験コーナーでの福祉用具体験学習，デイサービス及びグループホームでの見学実習など，学外で授業を実施する（日程調整は、初回授業時に行う）。

社会福祉総合実習					単位数	2単位
授業コード	51750	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	濱崎　絵梨					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

社会福祉施設等での実習を通して，福祉現場について体験的に学習し，福祉実践や利用者への理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容	体験学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	利用者支援を通して，コミュニケーション能力の向上や教育者としての責任感を高める。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	介護も含めた福祉実践について理解を深め，それを適切に整理し伝えていく力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	実習先の評価　50%	1／2
2	実習の事前学習・事後学習の課題　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高齢者施設での実習指導者の経験を活かして実践的な学びを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

Ⅰ．事前学習
(1)　実習前のオリエンテーション
① 実習の目的
② 実習先についての一般的理解
③ 実習に伴う留意事項など
④ レポート提出・グループ討議
(2)　外部講師の講義
レポート提出・グループ討議
(3)　グループ学習（個別指導を含む）
① 実習計画書の作成
② 記録実技指導・他
③ レポート提出・グループ討議
Ⅱ．配属実習
(1)　施設・機関において10日間程度
① 実習形態（集中）
② 実習直後のグループ学習（個別指導を含む）
③ 実習の進み具合，実習への取り組み態度等
④ レポート提出・グループ討議
Ⅲ．事後学習
(1) グループ学習（個別指導を含む）
① 実習記録に基づく総括
② グループ内配属実習体験報告会
③ レポート提出
(2) 実習全体の総まとめ
① 実習報告書作成
② 配属実習体験報告会
③ 実習報告書提出
Ⅳ．その他

定期試験
実習中は「実習記録」を毎日記載する。 実習後に「実習報告書」を提出する。
試験のフィードバックの方法
個別指導によるフィードバック
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習・復習については、毎回1時間程度の内容のものを授業中に指示する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 「実習の手引き」を配付する。 ＜参考書等＞ 必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
質問等は随時、電子メールで受け付ける。 オフィスアワーは授業中に伝える。
連絡先
hamasaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項
実習は重い責任を伴うものである。責任感を持ち，問題意識を明確にして，主体的に取り組むこと。遅刻，無断欠席，課題の未提出等，無責任な行動については，厳しく対処する。

こころとからだの理解Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	51800	科目ナンバリング	310B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	若林　美佐子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業のねらいは、介護活動の根拠を学び理解すること。即ち人間としての基本的欲求や生命維持の仕組みを理解し、利用者の自立した生活を支える介護活動との関連を学ぶ。また介護の安全と安心を支える知識を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	根拠に基づいた介護の実践を行うために必要な身体構造や心身機能の基礎について概要を説明できる。	知識・技能
2	日常生活動作の基本的的な知識をもって，自立に向け安全に介護するための方法を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度：30%,	1／2
2	定期試験：70%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

若林は看護師であり、こころとからだの理解に必要な解剖生理および生活への影響を事例と併せて教授する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．健康とは何か
2. こころのしくみ①　生きる動機
3. こころのしくみ②　自我・防衛機制
4. からだのしくみ
5．脳のしくみ
6．身じたくに関するこころとからだのしくみ
7．移動に関するこころとからだのしくみ
8．食事に関するこころとからだのしくみ
9．入浴、清潔に関するこころとからだのしくみ
10. 排泄に関するこころとからだのしくみ①　解剖及び生理
11. 排泄に関するこころとからだのしくみ②　介護が必要な状況について
12. 睡眠に関するこころとからだのしくみ
13. 終末期に関するこころとからだのしくみ①　基礎内容
14. 終末期に関するこころとからだのしくみ②　介護福祉現場の取り組み
15. 緊急時に関するこころとからだのしくみ

定期試験
16週目に筆記試験を行う
試験のフィードバックの方法
manaba folioに模範解答を掲載する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストの該当場所を熟読しておくこと30分 授業後は感想または質問についてまとめること30分
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 最新 介護福祉士養成講座　11　こころとからだのしくみ 2022 年2月　ISBN978-4-8058-8400-3　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
質問は授業後に受け付ける
連絡先
wakaba9902@yahoo.co.jp
留意事項
特筆事項なし

こころとからだの理解ＩＩ				単位数	2単位
授業コード	51810	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中野　ひとみ				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では，障がい者・児、高齢者のこころとからだについて学び，生活を支えるために必要な基礎的知識を修得する。
また，障がい児・者、高齢者の自立生活支援に必要なこころとからだのしくみについての課題を発見し，解決する能力を身につけることを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ICFについて説明できる。	知識・技能
2	老化による心身機能や心理的影響が説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	認知症の概要を理解し支援方法の留意点がわかる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	障がい児・者の特性を説明できる。	知識・技能
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	定期試験70%	1／2／3／4
2	小テスト10%	1／2／3／4
3	リアクションシート　10%	1／2／3／4
4	授業中の参加度・グループワークでの取り組み10%	1／2／3／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

看護師として病院では急性期（救命救急・急性期病棟・脳神経外科・手術室ほか），市役所では障害児や母子保健，また福祉施設での介護支援専門員としての経験もある。それら多彩な経験から医療的知識や技術の修得だけでなく，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方と問題解決への取り組みが理解できるよう丁寧に指導を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　人間の成長と発達の基礎的理解について理解する。
2　対象者を理解する視点・ICFの内容を理解する。
3　人間の欲求と適応機制・自己概念と尊厳を理解する。
4　思考・感情・学習及び記憶等のしくみを理解する。
5　老化に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解する。
6　認知症の特徴(脳の変化や中核症状やBPSD)と日常生活への対応について理解する。（１）
7　認知症の特徴（各認知症の型と治療や検査方法）と日常生活への対応について理解する（２）
8　障害の基礎的理解(歴史的背景・ノーマライゼーション・インクルージョン）について理解する。（１）
9　障害の基礎的理解（先天性・後天性の違い・中途障害・障害受容）について理解する。（２）
10　各障害の特徴と日常生活（肢体不自由のある人）について理解する。
11　各障害の特徴と日常生活（発達障がいのある人）について理解する。
12　各障害の特徴と日常生活（精神に障がいのある人）について理解する。
13　各障害の特徴と日常生活（視覚障がい・聴覚障がいのある人）について理解する。
14　各障害の特徴と日常生活（難病のある人）について理解する。
15　各セクションの振り返り・疑問点を明らかにし，まとめを行う。

定期試験

16週目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）この授業では，これまでに学んだ法制度について復習をして出席をしてください。事前学習では次週に予定されている内容に関してテキストの該当部分を熟読し，分からないことは事前に調べたうえで授業に臨んでください。(1時間)
（復習）授業内容に関する参考図書や参考URL等を紹介するので，それらを読んで理解を深めること（１時間）。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
最新　介護福祉士養成講座　14　障害の理解
2022年 第2版　978-4-8058-5774-8　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし

オフィスアワー

質問は授業後に適宜受け付ける。

連絡先

hnakano@g.cjc.ac.jp

留意事項

特筆事項なし

生活経営学					単位数	2単位
授業コード	52005	科目ナンバリング	310B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	豊田　尚吾					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、ライフマネジメントの基礎を学ぶことで、実生活における経営・経済的課題の構造を理解し、合理的に対処する方法を習得することを目的とする。
授業では、少子高齢社会など、生活者を取り巻く現実の変化を経営、経済の視点から検討する力を養う。基本は講義形式となるが、いろいろな事例を用いることで分かりやすく授業を構成する予定である。単に知識を得るだけでなく、「自ら考える」機会を取り入れることで判断力、分析能力を養う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
１	1. 身近な生活課題を経営・経済的知識を活用して理解し、それらを論理的、構造的に説明することができる。	知識・技能
２	2. 自らが生きる社会を鳥瞰したうえで、生活目標を設定し、合理的かつ戦略的にそれを実現する方法を見つけ出すことができる。	思考・判断・表現力
３	3. 単に自己の利益のみを追及するのではなく、地域社会との共生を包摂した独自のウェルビーイング（よい生き方）像を創りあげることができる。	主体性
４	4. 授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	思考・判断・表現力／主体性
５		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
１	受講態度・リアクションペーパー　50%	2／3／4
２	定期試験　50%	1／2
３		
４		
５		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

民間企業の地域共生部門担当職として消費者教育業務に携わっていた経験から、各種生活経営問題の構造を多角的に取り上げ、解決のための重要点と取り組み上の問題点を実現可能性の観点から検討することを通じて、学生に問題解決プロセスの実践的構築を指導する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　人間生活学と生活経営
２　家計とは：消費生活
３　金融リテラシー：お金の基本
４　働くとは：労働市場の仕組み
５　企業とは：経営の基礎
６　組織の活性化：人の集まりと協力
７　ワーク・ライフ・バランスの必要性
８　公共とは：財政、非営利組織
９　生活設計の第一歩：ライフイベント表の作成
10　豊かさを実現する社会：経済学の基本
11　保険の仕組み
12　社会保障：社会課題とセーフティネット
13　消費者教育・金融教育：消費者市民社会
14　生活リスクのマネジメント
15　生活に活かす生活経営学

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

manabaの掲示板などに、解答の傾向とそれに対するコメントを掲載することでフィードバックを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）新聞や雑誌に目を通し、生活・経営・経済関連の記事に関心を持っておくこと。また、参考図書の該当箇所を予習しておくことが望ましい。それをもとに授業中は積極的な発言など、能動的にかかわる姿勢を持つことを期待している。（毎週３０分程度）
（復習）授業中に講義内容を要領よくポイントをまとめておき、それを授業後に復讐する。毎回リアクションペーパーの提出を求めるので、授業内容に即した解答作成に努めること。そこで得た力を次回の授業や定期試験に反映することで「到達目標」の実現を目指して欲しい。（毎週１時間程度）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
「新版　生活経営学」赤星礼子他著　九州大学出版会
授業中、適宜資料を配布する。必要に応じてmanaba folio経由で資料を配布する場合もある。

オフィスアワー

月曜日4限。変更があった場合には授業中に指示する。

連絡先

toyota@m.ndsu.ac.jp

留意事項

人間生活学科学生（2023年度入学生）の必修科目である。

現代経営学					単位数	2単位
授業コード	52015	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	豊田　尚吾					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、企業等組織の経営について学ぶことで、現代社会における経営学の重要性を理解し、持続可能性の高い組織運営の技法を習得することを目的とする。
企業・政府・NPOなどの組織の経営（マネジメント）も人間生活の重要な一部である。消費者、投資家、経営者など、人間が生活を営むうえで必ず何らかの形で関わることになる企業の経営について、具体的事例を積極的に織り交ぜつつ、企業システム、経営戦略、マーケティング、経営管理といった経営の基本を身につける。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.企業経営で用いられている、目的を達成するための様々な戦略ツールや理論を理解し、具体的な経営課題に対して活用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	2.様々な組織における経営課題を、経営学的な視点から論点を導き出し、適切な対処方法を明らかにすることができる。	思考・判断・表現力
3	3.自らが、企業が提供する財・サービスの需要者（消費者）であり、かつ将来企業などの組織でキャリアを積み上げる者であることを自覚し、様々な場面の対処に関して合理的な判断を行うことができる。	主体性
4	4.授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー　50%	1／3／4
2	定期試験　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

民間企業の経営調査部門担当職として経営課題分析業務に携わっていた経験から、企業経営問題の構造を多角的に取り上げ、解決のための重要点と取り組み上の問題点を実現可能性の観点から検討することを通じて、学生に問題解決プロセスの実践的構築を指導する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１ 企業経営の基本
２ 経営の目的と社会性
３ 経営戦略の策定
４ 組織、情報、グローバル化とイノベーション
５ 戦略的マーケティング
６ マーケティング環境分析
７ マーケティング・マネジメント
８ マーケティング・リサーチ
９ 消費者行動分析
10 製品戦略
11 ブランド戦略
12 価格戦略
13 コミュニケーション戦略
14 チャネル戦略
15 サービス・マーケティング

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

manabaの掲示板などに、解答の傾向とそれに対するコメントを掲載することでフィードバックを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）新聞や雑誌に目を通し、企業経営や経済関連の記事に関心を持っておくこと。また、参考図書の該当箇所を予習しておくことが望ましい。それをもとに授業中は積極的な発言など、能動的にかかわる姿勢を持つことを期待している。（毎週３０分程度）
（復習）講義内容を要領よくまとめ、それをもとに復習する。毎回リアクションペーパーの提出を求めるので、授業内容に即した解答作成に努めること。そこで得た力を次回の授業や定期試験に反映することで「到達目標」の実現を目指して欲しい。（毎週１時間程度）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
「テキスト現代経営入門」桑名義春他編著　中央経済社
「ベーシック・マーケティング（第２版）」恩蔵直人他編著　同文館出版
必要に応じてmanaba folio経由で資料を配布する場合もある。

オフィスアワー

月曜日4限。変更があった場合には授業中に指示する。

連絡先

toyota@m.ndsu.ac.jp

留意事項

２年次以降、経済経営コースへの進学を希望する者（2023年度入学生）は基本的にこの授業を履修すること。

生活経営学特講					単位数	2単位
授業コード	52020	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	豊田　尚吾					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義は、マクロ経済学の基本を学習することを通じて、現代社会を経済学的に理解し、分析し、判断する力の向上を目指す。経済学の理論的な分野に関しては初学者が多いことを考慮し、分かりやすさを重視した教科書を利用する。参考文献に挙げた本格的なマクロ経済学の教科書を傍らに置き、並行して学んでいくことが望ましい。
具体的な内容は国民経済計算、マクロモデルの理解が中心になる。現代社会は様々なアクシデントをきっかけに景気の循環が発生する。それは失業やデフレといった経済課題に直結する。そのような問題に理論的に取り組む力を養う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. マクロ経済学の基本である国民経済計算の内容を理解し、その実態に関しデータと比較しながら的確な評価を加えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	2. マクロ経済モデルを理解し、財政政策、金融政策の効果について分析できるとともに、現状（実際）の景気状況に関する改善策を具体的、説得的に提案することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	3. 数学的なモデルの解析を理解し、かつ道具として、実際のデータを用いてシミュレーションするなど使いこなすことができる。	知識・技能
4	4. 授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー　50%	1／2／3／4
2	定期試験　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

民間企業の経営調査部門担当職としてマクロ経済モデルを含めた経済課題分析業務に携わっていた経験から、経済社会問題の構造を多角的に取り上げ、解決のための重要点と取り組み上の問題点を実現可能性の観点から検討することを通じて、学生に問題解決プロセスの実践的構築を指導する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１ 経済学の考え方およびグラフの使いこなし
２ 古典派とケインズ派
３ 国民経済計算
４ 産業連関分析
５ 45度線分析
６ インフレギャップ、デフレギャップ
７ 投資乗数
８ 資産市場
９ 貨幣供給
10 投資の限界効率
11 金融政策の効果
12 IS-LM分析
13 財政政策の効果
14 労働市場
15 AD-AS分析

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

manabaの掲示板などに、解答の傾向とそれに対するコメントを掲載すること、あるいは授業で取り上げ解説することでフィードバックを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）新聞や雑誌に目を通し、生活・経営・経済関連の記事に関心を持っておくこと。また、教科書の該当箇所を予習しておくこと。それをもとに授業中は積極的な発言など、能動的にかかわる姿勢を持つことを期待している。（毎週45分程度）
（復習）講義内容を要領よくまとめ、それをもとに復習する。毎回リアクションペーパーの提出を求めるので、授業内容に即した解答作成に努めること。そこで得た力を次回の授業や定期試験に反映することで「到達目標」の実現を目指して欲しい。（毎週45分程度）

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
「速習　マクロ経済学2ndedition」（2019）9784502290312
　石川秀樹著　中央経済社

必携書・参考書（教科書販売以外）

「マクロ経済学」齊藤誠他著　有斐閣
※上記参考書はより高度な内容でありかつ高額でもある。履修には必ずしも必携ではないので購入する場合は慎重に検討すること。

授業中、適宜資料を配布する。必要に応じてmanaba folio経由で資料を配布する場合もある。

オフィスアワー

月曜日4限。変更があった場合には授業中に指示する。

連絡先

toyota@m.ndsu.ac.jp

留意事項

それほど高度な水準ではないが、一定程度数式などの数学的な内容を含んでいる。
必携書に沿って授業を行うので、必ず入手すること。

家族関係学					単位数	2単位
授業コード	52040	科目ナンバリング	310B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	崎川　修					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

家族という関わりの持つ意義と問題点を、人間論的視点から考察する。また、カトリックの立場からみた家族倫理についても学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代社会における家族関係の諸問題について倫理的・人間論的視点から理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	自己自身の家族観を見つめ直すことを通じて、家庭生活という場や、そこにおける関わりに固有の意義や豊かさについて考察し、論じることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業態度、リアクションペーパー：40%	1
2	期末レポート：60%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　導入：「物語」としての家族
2　家族関係とは何か
3　ライフサイクルと家族
4　結婚と夫婦関係
5　母親と子ども
6　父親と子ども
7　きょうだい関係
8　家庭という居場所
9　教育と家庭
10 家族の病理①支配と依存
11 家族の病理②回復の支援
12 障がい者と家族
13 高齢者と家族
14 家族の中の死
15　まとめ：家族という「身体」を生きる

定期試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）配布するプリント資料を読んでおく。（30分）
（復習）授業内容に関連するニュースや文献を調べ、問題の理解を深める。（30分）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
『家族という意志』芹沢俊介, 岩波新書, 2012
『その後の不自由』上岡陽江, 大嶋栄子, 医学書院, 2010
『家庭-愛といのちのきずな』ヨハネ・パウロ二世, ペトロ文庫, 2005
『愛のよろこび』教皇フランシスコ, カトリック中央協議会, 2017

その他講義内で紹介する。
必要に応じてプリント資料を配布する。

オフィスアワー

授業内で指示する。質問や相談はメールで随時受け付ける。

連絡先

sakikawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、「不可」となる場合がある。
・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、「不可」となるので注意すること。

ミクロ経済学					単位数	2単位
授業コード	52043	科目ナンバリング	310B0-1200-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	清水　純一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、ミクロ経済学の基礎を学ぶことで、「財・サービス」、「労働」、「資本」という現実の市場がどのように動いているのかを理解し、現実問題の分析に応用できる知識を修得することを目的とする。授業では、教科書に基づき講義するが、教科書にのっていない、必要な数学の知識は適宜、独自資料で補足する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	経済学の基本的考え方と分析ツールを理解し、説明できる。	知識・技能
2	現実の社会問題を経済学の視点から分析でき、解決策を提示できる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回出題されるレポート課題（30%）	1
2	期末試験（70%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

農林水産省職員として、政策の経済分析に携わっていた経験から、各種社会問題を多角的に取り上げ、学生に経済学を駆使して、実践的な問題解決への取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　経済学の原理と実践
2　経済学の方法と問い
3　最適化
4　需要、供給と均衡
5　消費者とインセンティブ
6　生産者とインセンティブ
7　完全競争と見えざる手
8　貿易
9　政府の役割
10　外部不経済
11　生産要素市場
12　独占
13　時間とリスクのトレードオフ
14　情報の経済学
15　オークションと交渉

定期試験

16週目に筆記試験を実施する。

試験のフィードバックの方法

試験終了後に模範解答をmanaba folio に掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）事前に次回の予習問題をmanaba folio上で出題しておくので、テキストの該当部分を熟読し、記入しておくこと。解答は授業の最後、またはmanaba folio上で行う。また、テキストの理解が難しい点はどこか、整理しておくこと（約120分）。
（復習）授業で理解できなかった部分を整理し、テキストを復習し、疑問点を解消しておくこと。それでも、理解が難しい場合は、教員に連絡を取り、疑問点を解消しておくこと。その後、毎回manaba folio上で講義後に出題される復習問題に取り組み解答を提出する。それでも、理解が難しい場合は、教員に連絡を取り、疑問点を解消しておくこと（約60分）。

必携書（教科書販売）

『アセモグル／レイブソン／リスト　ミクロ経済学』、2020年、ISBN 978-4-492-31513-2、ダロン・アセモグル／デヴィット・レイブソン／ジョン・リスト（岩本康志監訳）、東洋経済新報社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門　ミクロ編』、2013年、ISBN 978-4-7612-6894-7、ティモシー・テイラー、かんき出版。

オフィスアワー

・毎週火曜日4時限（14:45-16:15）。
・上記の時間以外でも予定が入っていなければ随時訪問を受け付ける。その場合、必ず事前に連絡先に記載されているアドレスにメールを送り、面会の予約をすること。

連絡先

sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・本授業では初等的な数学を使用するので、不安がある人は高校までの数学を復習しておくこと。
・授業開始後20分以上後に入室した場合、欠席と見なす。公共交通機関の遅延等、本人に責任がない場合は教員まで申し出ること。

マクロ経済学					単位数	2単位
授業コード	52046	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	豊田　尚吾					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義は、マクロ経済学の基本を学習することを通じて、現代社会を経済学的に理解し、分析し、判断する力の向上を目指す。経済学の理論的な分野に関しては初学者が多いことを考慮し、分かりやすさを重視した教科書を利用する。参考文献に挙げた本格的なマクロ経済学の教科書を傍らに置き、並行して学んでいくことが望ましい。
具体的な内容は国民経済計算、マクロモデルの理解が中心になる。現代社会は様々なアクシデントをきっかけに景気の循環が発生する。それは失業やデフレといった経済課題に直結する。そのような問題に理論的に取り組む力を養う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. マクロ経済学の基本である国民経済計算の内容を理解し、その実態に関しデータと比較しながら的確な評価を加えることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	2. マクロ経済モデルを理解し、財政政策、金融政策の効果について分析できるとともに、現状（実際）の景気状況に関する改善策を具体的、説得的に提案することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	3. 数学的なモデルの解析を理解し、かつ道具として、実際のデータを用いてシミュレーションするなど使いこなすことができる。	知識・技能
4	4. 授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー　50%	1／2／3／4
2	定期試験　50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

民間企業の経営調査部門担当職としてマクロ経済モデルを含めた経済課題分析業務に携わっていた経験から、経済社会問題の構造を多角的に取り上げ、解決のための重要点と取り組み上の問題点を実現可能性の観点から検討することを通じて、学生に問題解決プロセスの実践的構築を指導する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１ 経済学の考え方およびグラフの使いこなし
２ 古典派とケインズ派
３ 国民経済計算
４ 産業連関分析
５ 45度線分析
６ インフレギャップ、デフレギャップ
７ 投資乗数
８ 資産市場
９ 貨幣供給
10 投資の限界効率
11 金融政策の効果
12 IS-LM分析
13 財政政策の効果
14 労働市場
15 AD-AS分析

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

manabaの掲示板などに、解答の傾向とそれに対するコメントを掲載すること、あるいは授業で取り上げ解説することでフィードバックを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）新聞や雑誌に目を通し、生活・経営・経済関連の記事に関心を持っておくこと。また、教科書の該当箇所を予習しておくこと。それをもとに授業中は積極的な発言など、能動的にかかわる姿勢を持つことを期待している。（毎週45分程度）
（復習）講義内容を要領よくまとめ、それをもとに復習する。毎回リアクションペーパーの提出を求めるので、授業内容に即した解答作成に努めること。そこで得た力を次回の授業や定期試験に反映することで「到達目標」の実現を目指して欲しい。（毎週45分程度）

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
「速習　マクロ経済学2ndedition」（2019）9784502290312
　石川秀樹著　中央経済社

必携書・参考書（教科書販売以外）

「マクロ経済学」齊藤誠他著　有斐閣
※上記参考書はより高度な内容でありかつ高額でもある。履修には必ずしも必携ではないので購入する場合は慎重に検討すること。

授業中、適宜資料を配布する。必要に応じてmanaba folio経由で資料を配布する場合もある。

オフィスアワー

月曜日4限。変更があった場合には授業中に指示する。

連絡先

toyota@m.ndsu.ac.jp

留意事項

それほど高度な水準ではないが、一定程度数式などの数学的な内容を含んでいる。
必携書に沿って授業を行うので、必ず入手すること。

環境資源経済学					単位数	2単位
授業コード	52050	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	清水　純一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業では、環境・資源問題に対して経済学の観点からアプローチし、環境問題が発生するメカニズムを明らかにするとともに、現実の環境問題を解決するための具体的な対策に応用できる知識を修得することを目的とする。授業では、教科書に基づき講義するが、教科書にのっていない内容に関しては、適宜、独自資料で補足する場合もある。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	環境問題が発生するメカニズムを理解し、説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	現実の環境問題を解決する対策を提言できる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回出題されるレポート課題（30%）。	1
2	中間試験（30%）。	1／2
3	期末試験（40%）。	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

農林水産省職員として、3年間ブラジル農務省に派遣され、アマゾン熱帯雨林の環境破壊と農業開発の関係について調査した経験から、各種環境問題を具体的に取り上げ、学生に経済学を駆使した、実践的な問題解決への取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　経済発展と環境問題・ごみ問題と循環型社会
2　地球温暖化問題・外部性と市場の失敗
3　共有資源の利用と管理・公共財とフリーライダー問題
4　直接規制と市場メカニズム・環境税と補助金
5　直接交渉による解決・排出量取引
6　政策手段の選択・廃棄物政策
7　京都議定書と地球温暖化政策・温暖化政策の現状と今後の対策
8　講義前半の振り返り・中間試験
9　環境の価値・環境評価手法１（顕示選好法）
10　環境評価手法２（表明選好法）・費用便益分析
11　企業の環境対策・企業に求められる社会的責任
12　企業と環境リスク・生物多様性と生態系
13　国際貿易と環境・環境規制と技術進歩
14　持続可能な発展・エネルギー経済
15　講義後半の振り返り

定期試験

16週目に期末試験を実施する。

試験のフィードバックの方法

試験終了後に模範解答をmanaba folio に掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）事前に次回の予習問題をmanaba folio上で出題しておくので、テキストの該当部分を熟読し、記入しておくこと。解答は授業の最後、またはmanaba folio上で行う。また、テキストの理解が難しい点はどこか、整理しておくこと（約120分）。
（復習）授業で理解できなかった部分を整理し、テキストを復習し、疑問点を解消しておくこと。それでも、理解が難しい場合は、教員に連絡を取り、疑問点を解消しておくこと。その後、毎回manaba folio上で講義後に出題される復習問題に取り組み解答を提出する。それでも、理解が難しい場合は、教員に連絡を取り、疑問点を解消しておくこと（約60分）。

必携書（教科書販売）

『環境問題をつかむ［第4版］』、2020年、ISBN 978-4-641-17729-1、栗山浩一・馬奈木俊介、有斐閣

必携書・参考書（教科書販売以外）

オフィスアワー

・毎週火曜日4時限（14:45-16:15）。
・上記の時間以外でも予定が入っていなければ随時訪問を受け付ける。その場合、必ず事前に連絡先に記載されているアドレスにメールを送り、面会の予約をすること。

連絡先

sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・本授業では初等的な数学を使用するので、不安がある人は中学までの数学を復習しておくこと。
・授業開始後20分以上後に入室した場合、欠席と見なす。公共交通機関の遅延等、本人に責任がない場合は教員まで申し出ること。
・本科目はミクロ経済学の応用科目であるため、初等的なミクロ経済学の知識を有していることが望ましい。

国際経済学					単位数	2単位
授業コード	52053	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	清水　純一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、グローバル化が進展する中で、①モノの貿易や企業の移動がどのような要因によって決定づけられるのか、②国境間の取引や企業移動に対して課される規制がどのような影響をもたらすのか、について経済学の視点から明らかにすることを目的とする。授業では、教科書に基づき講義するが、教科書にのっていない、必要な数学・経済学の基礎知識は適宜、独自資料で補足することもある。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	なぜ貿易が起きるのかを説明できる。	知識・技能
2	国境間の取引や企業移動に対して課される規制がどのような影響をもたらすのかを具体的事例に基づいて分析できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回出題されるレポート課題（30%）	1
2	中間試験（30%）	1／2
3	期末試験（40%）。	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

農林水産省傘下の国立研究所の研究員として、長らく農産物貿易や国際貿易協定の分析に携わっていた経験から、実践的にグローバル経済に対する理解を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　国際経済学は社会にどう役立つか
2　世界経済をデータでみる
3　グローバル化と保護主義
4　企業のグローバル化
5　技術が貿易を決める（リカード・モデル）
6　生産要素が貿易を決める（ヘクシャー＝オリーン・モデル）
7　規模経済性と貿易（新貿易理論）
8　新・貿易理論（メリッツ・モデル）
9　講義前半の振り返り・中間試験
10　貿易政策（基礎編）
11　ゲーム理論
12　寡占理論
13　貿易政策（応用編）
14　多国間の枠組み
15　グローバル化と格差

定期試験

16週目に筆記試験を実施する。

試験のフィードバックの方法

試験終了後に模範解答をmanaba folio に掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）事前に次回の予習問題をmanaba folio上で出題しておくので、テキストの該当部分を熟読し、記入しておくこと。解答は授業の最後、またはmanaba folio上で行う。また、テキストの理解が難しい点はどこか、整理しておくこと（約120分）。
（復習）授業で理解できなかった部分を整理し、テキストを復習し、疑問点を解消しておくこと。それでも、理解が難しい場合は、教員に連絡を取り、疑問点を解消しておくこと。その後、毎回manaba folio上で講義後に出題される復習問題に取り組み解答を提出する。それでも、理解が難しい場合は、教員に連絡を取り、疑問点を解消しておくこと（約60分）。

必携書（教科書販売）

『現実からまなぶ国際経済学』2023年、ISBN 978-4-641-20001-2、伊藤萬里・田中鮎夢、有斐閣

必携書・参考書（教科書販売以外）

オフィスアワー

・毎週火曜日4時限（14:45-16:15）。
・上記の時間以外でも予定が入っていなければ随時訪問を受け付ける。その場合、必ず事前に連絡先に記載されているアドレスにメールを送り、面会の予約をすること。

連絡先

sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・本授業では初等的な数学を使用するので、不安がある人は中学までの数学を復習しておくこと。
・授業開始後20分以上後に入室した場合、欠席と見なす。公共交通機関の遅延等、本人に責任がない場合は教員まで申し出ること。
・本科目はミクロ経済学の応用科目であるため、初等的なミクロ経済学の知識を有していることが望ましい。

生活経済学					単位数	2単位
授業コード	52055	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	豊田　尚吾					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、経済学を人間生活を研究するための道具として用い、それを通じて様々な気付きや発見を促すことを目的とする。経済学には、人間行動により近づいて研究する「行動経済学」という分野がある。ヒューリスティクス、社会的選好などの概念を学ぶとともに、それを通じて人間にとってのWell-beingを考えるきっかけとしてもらいたい。それに加え、経済における倫理観や厚生の観点からのアプローチも行う。
日常の「生活」の中に、私たちがどのように経済学的な判断を加味しているかを知ることで、自分自身の価値観や生活理念を明確にする力を養うことを目標とする。
事前にミクロ経済学、マクロ経済学という、経済学における基礎を習得していることを前提とする。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.生活に身近な現象の背景にある経済構造や機能を、経済理論のフレームワークを用いて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	2.現実の経済の動きを把握し、自らの生活を充実させるための基礎的知識として活用できる。	主体性
3	3.個人の生活と経済事象を結び付け、社会的課題に積極的にかかわるための方法論を、自分の言葉で表現することができる。	思考・判断・表現力
4	4.授業内でディスカッションの機会が設けられた場合、積極的に発言しつつ、時間内に意見を取りまとめるなど、リーダーシップ、メンバーシップを発揮することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー　50%	2／3／4
2	定期試験　50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

民間企業の経営調査部門担当職として経済課題分析業務に携わっていた経験から、経済社会問題の構造を多角的に取り上げ、解決のための重要点と取り組み上の問題点を実現可能性の観点から検討することを通じて、学生に問題解決プロセスの実践的構築を指導する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 生活と経済学：経済を学ぶ意味
2 状況判断と行動のシステム
3 ヒューリスティクス
4 時間選好
5 リスク選好とプロスペクト理論
6 社会的選好
7 お金と生活経済学
8 行動ファイナンスの基礎
9 行動ファイナンスの実践
10 情報の経済学
11 ナッジと経済施策
12 資本主義で成り立つ社会
13 公平と校正の経済学
14 経済倫理とエシカル消費
15 主観的幸福とWell-being

定期試験

定期試験

試験のフィードバックの方法

manabaの掲示板などに、解答の傾向とそれに対するコメントを掲載することでフィードバックを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）新聞や雑誌に目を通し、生活・経営・経済関連の記事に関心を持っておくこと。また、参考図書の該当箇所を予習しておくことが望ましい。それをもとに授業中は積極的な発言など、能動的にかかわる姿勢を持つことを期待している。（毎週３０分程度）
（復習）講義内容を要領よくまとめ、それをもとに復習する。毎回リアクションペーパーの提出を求めるので、授業内容に即した解答作成に努めること。そこで得た力を次回の授業や定期試験に反映することで「到達目標」の実現を目指して欲しい。（毎週１時間程度）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
「行動経済学入門」筒井義郎他著　東洋経済新報社
「行動経済学」大垣昌夫他著　有斐閣
「入門　経済学（第４班）」伊藤元重著　日本評論社
授業後、必要に応じてmanaba folio経由で資料を配布する。

オフィスアワー

月曜日4限。変更があった場合には授業中に指示する。

連絡先

toyota@m.ndsu.ac.jp

留意事項

メディア戦略論					単位数	2単位
授業コード	52067	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	葉口　英子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

多様なメディアが存在する現在、企業や組織は多様なメディアを駆使し、目的に適した情報発信を効果的におこなうべく戦略を立てる。
本講義ではこうしたメディア戦略を策定するための前提として必須となる、多様なメディアの特性、様式に関する知識の習得を目的とする。
とりわけ現代において影響力の大きい映像メディアをめぐる諸問題や概念・理論を学ぶ。映像メディアである映画やアニメーションの歴史、表現様式、産業構造に着目し、それらの変容過程を解説する。近年のメディアのデジタル化とインターネットの普及を背景としたメディアと文化・産業・マーケティングに関連する諸問題に対し、多角的視点から分析・考察する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	主要な映像メディアの様式に関する理論や知識を説明できる。	知識・技能
2	映像分析理論に基づき作品を分析できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	メディアの発展の歴史を踏まえた、技術・産業といった社会構造の変容過程を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	情報のデジタル化、グローバル化に対応したメディア・リテラシーを実行できる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	事前事後課題　30%	1／4
2	中間レポート課題・発表　40%	1／2／3
3	期末レポート　30%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション―多メディア社会を生きる私たちの日常―
2. メディアとは何か-メディアの定義・歴史・発展-
3. 現代メディア視覚の優位性
4. 映像技法1
5. 映像技法2
6. 記号論による映像分析：中間レポートの解説
7. 映画の発展と映画産業
8. 映画のプロモーションとメディアミックス
9. スタジオジブリにみる創造性・想像性
10. 海外のアニメ産業
11. ディズニーアニメにみるマーケティング戦略
12. メディアミックスする社会①
13. メディアが構成する虚構と現実
14. リアリティ番組の神話
15. 多メディア時代を生きるためのメディア・リテラシー

定期試験

期末レポート

試験のフィードバックの方法

提出後、manabaを通じて模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）普段、多様なメディア（新聞・雑誌・テレビ・映画・漫画・アニメ・ゲーム・ソーシャルメディア等）にどのように接し、それらからいかに情報を得ているのか、意識的かつ分析的に捉えてみること。授業ではmanabaを活用して、次週のテーマに関する参考資料を読むこと、動画に目を通すといった事前課題を出す（約1時間）。
（復習）講義内で課題レポートに取り組む作業を課す。授業内のスライド資料は、授業後にmanabaで提示するので復習すること（約１時間）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
『日本のメディア［新版］NHKブックス』藤竹暁・竹下俊郎編著,NHK出版,2018年
『21世紀メディア論』水越伸著,放送大学教育振興会,2011年
『よくわかるメディアスタディーズ』伊藤守編著,ミネルヴァ書房,2009年
『コンテンツ産業論』河島伸子著,ミネルヴァ書房,2009年

オフィスアワー

オフィスアワーは授業中に指示する。質問は随時メールにて受け付ける。

連絡先

haguchi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

授業に関する連絡、資料のやりとり、事前事後課題の提出などmanabaを活用する。

メディア産業論					単位数	2単位
授業コード	52068	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	葉口　英子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義は、日本のメディア産業の現状を知るため、市場規模のデータをはじめ、産業構造の仕組み・制度に関する知識を学ぶ。とくにデジタル・コンテンツ市場に注目し、技術がもたらした構造変化やコンテンツの変容について、放送・出版・広告・映像・音楽など多様な分野の概況と事例を取り上げ解説する。
自身の日常におけるメディア利用がメディア産業のマーケティングとどのように結びついているのか、客観的にとらえ、分析できる視点を獲得する。

アクティブラーニングの実施内容	調査学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本のメディア産業の現状について市場データや産業構造の仕組みに関する知識に基づき説明できる。	知識・技能
2	自身の日常におけるメディア利用がメディア産業のマーケティングとどのように結びついているのか、客観的にとらえ、分析できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	コメントカード（20%）	1
2	中間レポート（30%）	1／2
3	期末レポート（50%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. イントロダクション―現代メディアの布置―
2. メディアビジネスの流通形態の変化
3. コンテンツ産業とはなにか
4. メディアミックスの産業構造
5. 通信・放送産業
6. ポピュラー音楽産業①
7. ポピュラー音楽産業②
8. 映像コンテンツ産業①
9. 映像コンテンツ産業①
10. 中間レポート解説
11. 中間レポート作成
12. 中間レポート発表
13. ゲーム産業①
14. ゲーム産業②
15. 日本型コンテンツ産業の将来

定期試験

期末レポート

試験のフィードバックの方法

提出後、manabaを通じて模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）普段、多様なメディア（新聞・雑誌・テレビ・映画・漫画・アニメ・ゲーム・ソーシャルメディア等）にどのように接し、それらからいかに情報を得ているのか、意識的かつ分析的に捉えてみること。授業ではmanabaを活用して、次週のテーマに関する参考資料を読むこと、動画に目を通すといった事前課題を出す（約1時間）。
（復習）講義内で課題レポートに取り組む作業を課す。授業内のスライド資料は、授業後にmanabaで提示するので復習すること（約１時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
『日本のメディア［新版］NHKブックス』藤竹暁・竹下俊郎編著,NHK出版,2018年
『メディア産業論』湯淺正敏編著,ミネルヴァ書房,2020年
『コンテンツ産業論』河島伸子著,ミネルヴァ書房,2009年

オフィスアワー

オフィスアワーは授業中に指示する。質問は随時メールにて受け付ける。

連絡先

haguchi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

授業に関する連絡、資料のやりとり、事前事後課題の提出などmanabaを活用する。

消費生活論					単位数	2単位
授業コード	52071	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	葉口　英子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

私たちは生活者（消費者）として多くのモノやサービスを商品として消費する。本講義では、商品学、マーケティング論、消費者行動論の視点から商品に関する知識・理論体系を学ぶ。商品に関する品質・価値・評価の問題に加え、消費者の心理や行動に焦点をあてる。商品の特性をはじめ、個人・集団・社会レベルの消費者心理・行動から商品や市場動向を分析する力の習得をめざす。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	現代社会のモノやサービスの商品知識を説明できる。	知識・技能
2	現代消費社会の特徴と変容過程を踏まえ、多様化する商品や細分化する消費者のニーズ・動向を分析できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	多角的な視点から商品・サービスと消費者との関係について考察できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	事前事後課題　40%	1／2
2	中間レポート2回　30%	1／2
3	期末レポート　30%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
2.商品の意義と概念
3.商品と消費者のサイクル・商品知識の体系
4.商品価値の形成と記号的価値
5.商品のパッケージデザインと印象評価
6.中間レポート：パッケージデザイン分析
7.現代消費社会の出現と変遷
8.モノ消費とコト消費
9.インバウンド消費
10.消費社会と「お金と幸せ」の価値
11.中間レポート：「お金と幸せ」の価値をめぐるディスカッション
12.ネットショッピングの台頭とECビジネスの躍進
13.ブランド・ポジショニング
14.近年のヒット商品の分析
15.現代の商品問題の視座

定期試験

期末レポート

試験のフィードバックの方法

提出後、manabaを通じて模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）普段から自分が興味を持った商品やサービスに対する知識を高めておくこと。資料を読むなど事前課題を出す場合もある。またmanabaに掲載した資料を読んだり、動画に目を通したりなど事前課題を完成させてから授業に臨むこと（約1時間）。
（復習）講義内で中間レポート課題（分析・ワーク）に取り組む作業を課す。また授業のスライド資料は、授業後にmanaba folioで提示するので復習すること。事後課題を課する場合は、所定の期限までに必ず提出すること（約1時間）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
テキストは使用しない。毎回適宜資料を配布する。
＜参考図書等＞
『現代商品論（第2版）』見目洋子,大原悟務他著,白桃書房,2010年
『現代商品論』吉田富義著,同友館,1994年
『消費者行動論』田中洋著,中央経済社,2015年

オフィスアワー

オフィスアワーは授業中に指示する。質問は随時メールにて受け付ける。

連絡先

haguchi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

授業に関する連絡、資料のやりとり、事前事後課題の提出などmanabaを活用する。

広告論					単位数	2単位
授業コード	52073	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	葉口　英子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

日常に溢れる広告は、広告主である企業が提供する商品・サービスの内容を消費者に効果的に伝えるための情報提供活動の一つである。ただし、現代の広告はこうした販売促進をめぐる情報活動としてのみでなく、ブランドイメージの醸成、ライフスタイルの提案、流行の創造、政治的論点の提示などその役割は多岐におよぶ。
本講義では広告の役割・仕組み・表現に対する基本的理解を深めると同時に、情報の発信者（企業）あるいは受信者（消費者）として広告を活用できる力を養う。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	広告の基本的な役割・仕組みを説明できる。	知識・技能／主体性
2	広告表現を的確に解読できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	消費者に対し効果的で魅力的な広告表現を提案できる。	思考・判断・表現力／主体性
4	広告に関する総合的な知識を踏まえ、広告について、多角的な視点から説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	事前事後課題　30%	1／2
2	中間レポート1　20% 中間レポート2　20%	2／3
3	期末レポート　30%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
2.広告とは何か一現代の多様な広告媒体
3.広告効果と心理的プロセス
4.効果的な広告表現①
5.効果的な広告表現②
6.広告分析：解説と中間レポート1作成
7.広告分析：グループ発表
8.テレビCMと評価
9.テレビCMの効果
10.世界のCM賞と世界のCM表現
11.日本のCM表現と広告制作
12.「私」広告：中間レポート2作成
13.広告の新しい潮流
14.「私」広告：グループ発表
15.広告と社会

定期試験

期末レポート課題

試験のフィードバックの方法

提出後、manabaを通じて模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）自分が面白い、美しい、効果的だと思う広告物を保存するなどし、普段から広告に対する関心を高めておくこと。また授業でmanabaを活用して、次週のテーマに関する参考資料を読むこと、動画に目を通すことなど事前課題を出す（約1時間）。
（復習）講義内でワークノート・分析ワークに取り組む作業を課す場合がある。授業後はこれらのワークの復習をしてほしい。また授業のスライド資料は、授業後にmanabaで提示するので復習をすること（約１時間）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
テキストは使用しない。毎回ワークノートと適宜資料を配布する。
＜参考図書等＞
『現代広告論[第３版]』岸志津江・田中洋・嶋村和恵著,有斐閣,2017年
『宣伝広告の基礎』久保田進彦・五十嵐正毅他著,宣伝会議,2016年
『日本のメディア［新版］NHKブックス』藤竹暁・竹下俊郎編著,NHK出版,2018年

オフィスアワー

オフィスアワーは授業中に指示する。質問は随時電子メールで受け付ける。

連絡先

haguchi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

授業に関する連絡、資料のやりとり、事前事後課題の提出などmanabaを活用する。

マーケティングコミュニケーション論					単位数	2単位
授業コード	52076	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	深谷　信介					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

マーケティングは、私たちの日常生活で非常に重要かつ大きな影響力を持っています。本授業では、その中で近年益々重要度・影響度が高まっているマーケティングコミュニケーション論を取り上げ、その理論と手法論などを体系的に学び習得することを目的としています。
知識習得に加え、多様な事例研究やAL*(アクティブラーニング)などを積極的に取り入れ、具体的な実践にも取り組みます。
　＊AL_ ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションの実施

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	マーケティング・コミュニケーションに関する基本的な知識や理論を説明できる。	知識・技能
2	市場や商品サービス、消費者/生活者・顧客を分析し、課題発見と戦略立案ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	多様なマーケティング・コミュニケーションの仕組や事例を説明できる。	知識・技能
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度(30%)	1／2
2	事前事後課題、演習・グループワーク(30%)	1／2／3
3	レポート（40%）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

企業等にて国内外のマーケティングコミュニケーション業務に広く携わってきた経験より、事例なども踏まえ本領域の実践型学習を行います。　一部授業内での外部講師招聘も検討しています。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 オリエンテーション(社会の中での意味と意義・変遷、マーコム全体俯瞰)
2 マーケティング・コミュニケーション戦略(全体構造)
3 情報とは何か？
4 企業/商品/サービスを知る、顧客を知る（生活者と消費者）
5 演習１ 戦略を読む_デコンストラクション
6 広告と広報
7 事例研究1
8 演習2 コンテンツ制作（ニュースリリース）
9 コンテンツとメディア　ATLとBTL（表現とメディアの連関性）
10メディアミックス（情報戦略視点でのメディア活用方法）
11演習3 コンテンツ制作（ニュースリリース・ポスター）
12マーケティングコミュニケーションの変遷（時代との呼応）
13事例研究2
14 演習4 _コンテンツ制作（ポスター）
13 マーケティング･コミュニケーションのこれから

定期試験

試験なし
課題レポート提出あり

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習｜
マーケティングコミュケーションは日々の生活の中に融合しています。スマートフォンに留まらず、マスメディア（テレビ・新聞・ラジオ・雑誌）や屋外広告その他の情報発信メディアにも広くアクセスするよう心がけてください。まずは自分の興味関心のある分野や商品・サービスに特化して、深く情報接触し皆さんの感性を発揮して体系的に把握・理解してください（目安として１日１０分程度）。日々の心がけを積み重ねることで一番大切な本質をしっかり理解できるようになります。

復習｜
講義内で学習した視点で、日々の生活内でのマーケティング・コミュニケーションを振り返ってみてください。より体系的に整理・理解するようなスタンスが大切です　そこでの気づきや疑問点・不明点が皆さんの飛躍的な能力向上に繋がります　楽しみながら日々続けられる工夫を各人で考えて実行してください（目安週１時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

参考書等｜
『マーケティングコミュニケーションのまんなか』2022年, ISBN978-4-86456-434-2　深谷信介, ハーベスト出版
授業内で紹介します。

オフィスアワー

授業内で連絡します。

連絡先

s.fukaya@m.ndsu.ac.jp

留意事項

Nサポの抽選機能を利用して履修者の抽選を行うので、「N抽選」申込期間内に抽選希望登録すること。
第一回講義にて、授業や評価などについてお話します。

マーケティング論I					単位数	2単位
授業コード	52078	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	深谷　信介					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

マーケティングは、私たちの日常生活の中にあります。本授業では、マーケティング論Iで修得した知識・視点をベースにより深い体系的な学びを推し進める目的としています。また、事例研究やAL*(アクティブラーニング)などを加え、より深い理解と実践への足掛かりを構築することを目指します。
　＊AL　ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを簡易に実施

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基本的な知識や理論を説明し活用ができる。	知識・技能
2	市場や顧客・商品/サービスに関する分析を行い、基本的な課題発見や戦略立案ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	多様なアイデアや考えを主体的に話し合い、合意形成が取れるようになる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度（３０%）	1／2／3
2	課題ワーク（３０%）	1／2／3
3	レポート（４０%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

企業等にて、国内外のマーケティング業務に関わった実務経験をもとに、現場で利活用可能なメソッドの基礎を提供していく。
一部授業内での外部講師招聘も予定。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 オリエンテーション(位置づけ、定義と意義)
2 経済/経営/マーケティングと社会、その変遷
3 マーケティングの骨格_全体構造
4 マーケティングプロセス
5 マーケットの見方1(3C)
6 マーケットの見方2(4P)
7 マーケットの見方3(STP)
8 分野別事例研究1_ 企業マーケティング
9 環境分析｜SWOT分析1
10 環境分析｜SWOT分析2
11 環境分析｜PEST分析
12 分野別事例研究2 行政マーケティング
13 実施評価｜ファネル
14 分野別事例研究3_女性視点
15 マーケティングの今とこれから

定期試験

試験なし
レポートなど課題提出あり

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習｜
マーケティングは日々の人間生活の中に直結しています　まずは自分の興味関心のある分野や商品・サービスに特化し、皆さんの感性を発揮して広く深く観察し新たな発見や気づきを得るように心がけてください（目安として１日１0分程度）。日々の心がけを積み重ねることで一番大切な本質をしっかり理解できるようになります。

復習｜
講義内で学習した視点で、より体系的に整理・理解するようなスタンスを持って日々の人間生活を振り返ってみてください　そこでのさらなる気づきや疑問点・不明点が、皆さんの飛躍的な能力向上に繋がります。楽しみながら日々続けられる工夫を各人で考えて実行してください（目安週１時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

参考書等｜
授業内にて紹介する。
『マーケティングコミュニケーションのまんなか』2022年, ISBN978-4-86456-434-2　深谷信介, ハーベスト出版
『ほんとうの哲学の話をしよう』2019年, ISBN978-4-12-005234-7,　岡本裕一朗・深谷信介, 中央公論新社

オフィスアワー

授業時に伝える。

連絡先

s.fukaya@m.ndsu.ac.jp

留意事項

第一回講義にて、授業や評価などについてお話します。

マーケティング論II					単位数	2単位
授業コード	52079	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	深谷　信介					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

マーケティングは、私たちの日常生活で非常に重要かつ大きな影響力を持っています。本授業では、マーケティング論Iで習得した基礎をもとに、体系的に深い学びを習得・体得することを目的としています。また、事例研究やAL*(アクティブラーニング)などを加え、より深い理解と実践力を構築することを目指します。
　＊AL　ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを簡易に実施

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基本的な知識や理論を活用し、自身である一定レベルのマーケティング開発ができる。	知識・技能
2	市場や顧客・商品/サービスに関する分析を行い、課題発見や戦略立案へのアプローチができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	多様なアイデアや考えを主体的に話し合い、基本的な合意形成を創出することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度（３０%）	1／2
2	課題ワーク（３０%）	1／2／3
3	レポート（４０%）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

企業等にて、国内外のマーケティング業務に関わる。
本領域を俯瞰し、多面的・多角的に捉え、さまざまな課題解決能力を創発するユニークな講義・実践を提供する。
一部授業内での外部講師招聘も予定。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1 オリエンテーション
2 ４P探究 a商品サービス戦略
3４P探究 b情報戦略__IMCの深化
4４P探究 c価格戦略__単一的価値交換の行方
5 ４P探究 d販売戦略_placeの変容platformの隆盛
6 顧客洞察　fact_perception_insight
7 マーケティングリサーチ　市場観察・分析とテストマーケティング
8 事例研究１__フランチャイズビジネス
9　事例研究２__ストアビジネス
10 事例研究３__食品ビジネス
11演習１__コンセプト開発
12演習２__コンセプト開発
13 マーケティングの主戦場__PDCAと価格
14 marketingの今__VUCAとは何か
15 まとめ

定期試験

試験なし
レポート提出あり

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習｜
マーケティングは日々の人間生活の中に直結しています。まずは自分の興味関心のある分野や商品・サービスに特化し、皆さんの感性を発揮して広く深く観察し新たな発見や気づきを得るように心がけてください（目安として１日１０分程度）。日々の心がけを積み重ねることで一番大切な本質をしっかり理解できるようになります。

復習｜
講義内で学習した視点で、より体系的に整理・理解するようなスタンスを持って日々の人間生活を振り返ってみてください。そこでのさらなる気づきや疑問点・不明点が、皆さんの飛躍的な能力向上に繋がります。楽しみながら日々続けられる工夫を各人で考えて実行してください（目安週１時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

参考書等｜
『マーケティングコミュニケーションのまんなか』2022年, ISBN978-4-86456-434-2　深谷信介, ハーベスト出版
授業内にて紹介する。

オフィスアワー

授業時に伝える。

連絡先

s.fukaya@m.ndsu.ac.jp

留意事項

Nサポの抽選機能を利用して履修者の抽選を行うので、「N抽選」申込期間内に抽選希望登録すること。
第一回講義にて、授業や評価などについてお話します。

被服学Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	52080	科目ナンバリング	310B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中川　敦子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

被服は人間特有のもので，最も身近な人工の環境ともいえる。そこで，被服の起源や衣生活の変遷を学び，被服の役割を理解することで，TPOやライフステージに応じた被服のあり方について考察する。また，被服選択や着用，手入れを行う上で必要不可欠な被服の材料や構成についての知識を習得する。さらに，現在の被服を取り巻く問題について考察し，環境にやさしい衣生活を目指すことを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	被服の時代性や地域性について理解し，説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	被服の素材や製造，管理と環境との関わりなどの基本的な知識を理解し，総合的に説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	被服の社会的な役割を理解し，TPOやライフステージに応じた被服の選択について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	衣生活の変化に関心を持ち，これからの衣生活のありかたを提案できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　80%	1／2／3／4
2	課題レポート　20%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション・衣服と生活
2. 民族と衣生活
3. 衣生活の変遷　西洋の衣生活①
4. 衣生活の変遷　西洋の衣生活②
5. 衣生活の変遷　西洋の衣生活③
6. 衣生活の変遷　日本の衣生活①
7. 衣生活の変遷　日本の衣生活②
8. 衣生活の変遷　日本の衣生活③
9. 衣服の設計と生産　衣服の素材
10. 衣服の設計と生産　衣服のデザインと生産
11. ライフスタイルと衣服　現代の衣生活
12. ライフスタイルと衣服　衣服の着装
13. ライフスタイルと衣服　ライフサイクルからみた衣服設計
14. 衣服の取り扱い　衣服の購入・手入れ
15. 衣服の取り扱い　衣服の収納・リフォーム・廃棄

定期試験

課題レポートを提出する。

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説を行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておくこと。（約30分）
（復習）授業を振り返り，学習内容を復習すること。また，課題意識を持って衣生活を分析的にみること。（約1時間）

必携書（教科書販売）

『衣生活学』，2016年，ISBN978-4-254-60633-1，佐々井啓・大塚美智子編，朝倉書店

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
講義中に紹介する。

オフィスアワー

質問等は随時，manaba folioや電子メールで受け付ける。

連絡先

nakagawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

ブランド論					単位数	2単位
授業コード	52082	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	深谷　信介					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

ブランドは、私たちの日常生活の中にあります。本授業では、ブランドとは何か？という本質的な問いに向き合い、学びを体系的に修得していきます。また、事例研究やAL*(アクティブラーニング)などを加え、より深い理解と実践への足掛かりを構築することを目指します。
　＊AL　ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを簡易に実施

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ブランドの基本的な知識や理論を説明できる。 ブランドの基本的な事例研究ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	市場や顧客・商品/サービスに関する分析を行い、基本的な課題発見や戦略立案ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度（３０%）	2／3
2	課題ワーク（３０%）	1／2／3
3	レポート（４０%）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

企業等にて、国内外のマーケティング・ブランディング業務に関わってきました。
本領域を俯瞰し、多面的・多角的に捉え、さまざまな課題解決能力を創発の礎をつくる講義・実践を提供します。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1オリエンテーション
2ブランドとは何か？　誕生と意義 birth, meaning, purpose
3ブランドとは何か？　構造・モデル structure, model
4ブランドとは何か？　関係性 relevancy
5事例研究と実践１　グローバルブランド１
6事例研究と実践２　グローバルブランド２
7事例研究と実践３　リージョナル（グローカル）ブランド
8ブランドの変遷
9ブランドのカテゴリー__corporate, category, product/service
10ブランドの価値__human, category, product/service benefit
11ブランドマネジメント_holistic brand management
12メディア進化とブランドコミュニケーションの変遷
13事例研究と実践４　地域ブランド１
14事例研究と実践５　地域ブランド２
15ブランドについて語られているいくつかのこと、ブランドのゆくえ

定期試験

試験なし
レポート提出あり

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習｜
ブランドは日々の人間生活の中に直結しています　まずは自分の興味関心のある分野や商品・サービスに特化し、皆さんの感性を発揮して「広く深く」観察し新たな発見や気づきを得られるように心がけてください（目安として１日１0分程度）　日々の心がけを積み重ねることで一番大切な本質をしっかり理解できるようになります。「なぜ？どうして？」と少しの疑問を感じることがとても大切です、ここからはじめましょう。

復習｜
講義内で学習した視点で、より体系的に整理・理解するようなスタンスを持って日々の人間生活を振り返ってみてください。そして新たな視点を持って、学生ならではの日々の人間生活を営んでください。
そこでのさらなる気づきや疑問点・不明点が、皆さんの飛躍的な能力向上に繋がります。楽しみながら日々続けられる工夫を各人で考えて実行してください。（目安週１時間程度）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

参考書等｜
授業内にて紹介する。
『マーケティングコミュニケーションのまんなか』2022年, ISBN978-4-86456-434-2　深谷信介, ハーベスト出版

オフィスアワー

授業時に伝える。

連絡先

s.fukaya@m.ndsu.ac.jp

留意事項

Nサポの抽選機能を利用して履修者の抽選を行うので、「N抽選」申込期間内に抽選希望登録すること。
第一回講義にて、授業や評価などについてお話します。

マーケティングリサーチ論					単位数	2単位
授業コード	52084	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	大東　正虎					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義では、マーケティングリサーチの基本的な手法を学ぶとともに、データ収集と分析に関して注意して取り組むことができるようになることを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	マーケティングリサーチと他の調査との違いを概説できる	知識・技能／思考・判断・表現力
2	測定の妥当性を説明できる	知識・技能／思考・判断・表現力
3	マーケティングリサーチにおける量的調査と質的調査の役割を概説できる	知識・技能／思考・判断・表現力
4	マーケティングリサーチ結果の報告と提案ができる	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート（50%）	1／2／3／4
2	期末試験（実技試験および筆記試験）（50%）	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. マーケティングリサーチの必要性
2. マーケティングリサーチの基礎
3. マーケティングリサーチの信頼性
4. リサーチの目的と分析手段
5. リサーチの目的と対象
6. リサーチの設計
7. データの収集
8. 収集されたデータの取り扱い
9. データの入力と表による整理
10. グラフによるデータの可視化
11. 統計的検定
12. リサーチ結果の報告と提案
13. マーケティングリサーチの留意事項
14. マーケティングリサーチにおける倫理
15. 総括

定期試験

16週目に実技試験および筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio などで解説を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習：各回の用語をしらべること（約2時間）
復習：それぞれの手法がどのような意味を持つのか整理すること（約2時間）

必携書（教科書販売）

『マーケティング・リサーチ入門』, 2018年, ISBN 978-4-641-22116-1, 星野崇宏・上田雅夫, 有斐閣アルマ

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし。講義の際にプリントを配布する場合がある。

オフィスアワー

月曜日 5限。またはメールで受け付ける。

連絡先

daito@m.ndsu.ac.jp

留意事項

毎回の出席が大前提、毎回USBメモリなどの保存用メディアを必ず持参すること。
コンピュータの稼働台数によって履修者数が制限される。Nサポの抽選機能を利用して履修者の抽選を行うので、「N抽選」申込期間内に抽選希望登録すること。

ビジネス情報処理I					単位数	2単位
授業コード	52085	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	大東　正虎					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義では、Microsoft Excelを用いながら、統計学の基礎を学ぶ。学生が社会やビジネスにおける統計学の必要性を理解し、経営や経済に関するデータをまとめ、分析できるようになることを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	統計学について基本的なことが概説できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	表計算ソフトを用いてデータを整理できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	表計算ソフトで算出された結果を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート（50%）	1／2／3
2	期末試験（実技試験および筆記試験）（50%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 社会科学における統計学の役割
2. Microsoft Excel の基本操作（1）（データ入力、セル操作、数式作成、保存）
3. Microsoft Excel の基本操作（2）（関数の利用、絶対参照と相対参照、Wordとの連携）
4. 平均と分散、度数分布表の作成
5. 母集団の平均と分散
6. 仮説の検討
7. カイ2乗分布
8. カイ2乗検定
9. t検定（対応なし）
10. t検定（対応あり）
11. 仮説検定の整理
12. 分散分析の理解
13. 一元分散分析
14. 二元分散分析
15. 総括

定期試験

16週目に実技試験および筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio などで解説を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習：各回の作業内容とその手順を理解すること（約1時間）
復習：計算結果がどのような意味を持つのか整理すること（約1時間）

必携書（教科書販売）

『統計学がわかる-ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』, 2007年, ISBN 4-7741-3190-0, 向後千春・冨永敦子, 技術評論社

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし。講義の際にプリントを配布する場合がある。

オフィスアワー

月曜日 4限。またはメールで受け付ける。

連絡先

daito@m.ndsu.ac.jp

留意事項

毎回の出席が大前提、毎回USBメモリなどの保存用メディアを必ず持参すること。
コンピュータの稼働台数によって履修者数が制限される。Nサポの抽選機能を利用して履修者の抽選を行うので、「N抽選」申込期間内に抽選希望登録すること。

ビジネス情報処理II					単位数	2単位
授業コード	52086	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	大東　正虎					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本講義では、Microsoft Excelを用いながら、統計学の基礎と応用を学ぶ。学生が統計学の知識と多様な分析手法を身につけ、データの収集と分析ができるようになることを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	記述統計について基本的なことが概説できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	表計算ソフトを用いて多変量解析をすることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	多変量解析結果の解説ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	レポート（50%）	1／2／3
2	期末試験（実技試験および筆記試験）（50%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 統計的分析の意義
2. 記述統計の理解と度数分布表の作成
3. 中央値と平均、分散、標準偏差
4. 推測統計の理解と信頼区間
5. 統計的検定
6. 検定結果の解釈
7. 多変量解析の理解と散布図の作成
8. 相関分析（2種の変量の関係性を分析）
9. 無相関検定（関係性を検定）
10. 散布図と単回帰分析
11. 偏相関分析（他の変量の影響を取り除く）
12. 重回帰分析（2変数以上を使って1変数を予測）
13. 多変量の整理（相関行列の作成）
14. 多変量解析結果の解釈
15. 総括

定期試験

16週目に実技試験および筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio などで解説を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習：各回の作業内容とその手順を理解すること（約1時間）
復習：計算結果がどのような意味を持つのか整理すること（約1時間）

必携書（教科書販売）

『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』, 2009年, ISBN 978-4-7741-3707-0, 向後千春・冨永敦子, 技術評論社

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし。講義の際にプリントを配布する場合がある。

オフィスアワー

月曜日 4限。またはメールで受け付ける。

連絡先

daito@m.ndsu.ac.jp

留意事項

毎回の出席が大前提、毎回USBメモリなどの保存用メディアを必ず持参すること。
コンピュータの稼働台数によって履修者数が制限される。Nサポの抽選機能を利用して履修者の抽選を行うので、「N抽選」申込期間内に抽選希望登録すること。

被服学ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	52090	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中川　敦子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

快適な衣生活を営むためには，繊維製品の性能を十分に発揮，保持できるよう機能を理解し管理することが必要である。ここでは，被服の汚れや染色加工について学び，着用や保管によって起きる被服の機能性の変化とその原因及び手入れについて理解し，被服のより良い管理について学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	繊維製品の手入れ，保存，管理の基本となることを理解して正確に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	洗剤及び洗濯方法について正しく説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	繊維製品の染色方法を理解し，その取り扱いについて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	自らの被服管理について課題や改善点を的確に判断し，日常生活に反映させることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　　80%	1／2／3／4
2	課題レポート　　20%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．被服の汚れ
２．被服の洗浄（用水・洗浄剤）
３．洗浄の理論
４．洗浄の条件
５．家庭洗濯
６．商業洗濯
７．漂白・増白・しみ抜き
８．糊付け・仕上げ
９．被服の管理と保管
10．まとめ・染色とは
11．染料の分類
12．天然染料・合成染料
13．染色の技法（1）
14．染色の技法（2）
15．染色品に関わるトラブル事例・まとめ

定期試験
課題レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
授業時やmanaba folioを活用して解説を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく。（約30分） （復習）授業を振り，学習内容を復習する。学んだことをもとに課題意識を持って衣生活を分析的にみる。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ なし。資料等を配付する。 ＜参考書等＞ 授業中に紹介する。
オフィスアワー
質問等は随時，電子メールで受け付ける。
連絡先
nakagawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
染色の技法については，染色実習を実施する。

ビジネスマナー					単位数	2単位
授業コード	52096	科目ナンバリング	310B0-1200-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中西　由美香					
時間割備考						
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

あらゆる業種・職種において必要とされるビジネスマナーを身につけることを目的とします。
社会の中で生活するためには、そこで通用するマナーを理解し、良好な人間関係が築ける言動を示し、他者から信頼されることが重要です。
本授業では、基本的なビジネスマナーを習得し、大学生活や社会生活の中で必要な「聴く」「話す」等のコミュニケーション能力の向上も目指します。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ビジネスマナーの必要性を理解し、説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	最低限必要なビジネスマナーが実践できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	好感のもてるコミュニケーション能力を身につけることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー　70%	1／2／3
2	期末レポート　30%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

多様な業種・業界においてビジネスマナーを教えている実績があり、自身も以前人事部に在籍していた経験があるため、企業ニーズに熟知している。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　オリエンテーション(仕事をする上で必要な心構え)
2　基本的なビジネスマナー
3　身だしなみ・挨拶・立ち居振る舞い
4　来客応対
5　敬語の使い方
6　メール・電話応対
7　「聴く」「話す」のコミュニケーションの取り方
8　感情のコントロールとクレーム対応
9　会話の仕方・アサーティブな表現
10　就業規則の遵守
11　仕事への取り組み方①(優先順位を考える)
12　仕事への取り組み方②(報告・連絡・相談とPDCA)
13　仕事への取り組み方③(スケジュール管理・タイムマネジメント)
14　社会に出て気づくこと
15　総括

定期試験
期末レポートを提出
試験のフィードバックの方法
リアクションペーパー等でフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
日常的に新聞等のニュースに目を通し、自分の周囲の変化や事象に関心をもつよう心がける。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
特にない。必要に応じて資料配布あり。
オフィスアワー
授業についての質問等は、授業後受け付けます。
連絡先
s4055@m.ndsu.ac.jp
留意事項

衣料学					単位数	2単位
授業コード	52100	科目ナンバリング	310B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中川　敦子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

健康で快適な衣生活を主体的に営むためには，着用目的に適合する被服素材の選択が必要となる。ここでは，被服材料の種類や性質及び要求される性能などについて学び，着用目的に適合する被服素材について考察する。さらに，被服製品の被服情報を理解し，適切な被服選択や被服管理ができるようになることを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	繊維（天然，再生，半合成，合成繊維）の性質について理解し，説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	糸や織物，編み物などの被服材料の構造や性質について理解し，説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	被服に付けられている表示を理解し，説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	被服材料の特徴や性質等を総合的に判断して，着用目的に適応した被服を提案できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　　80%	1／2／3／4
2	課題レポート　　20%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 被服品質表示とサイズ表示（その1）
2. 被服品質表示とサイズ表示（その2）
3. 被服の材料の種類・被服材料の歴史と資源・消費
4. 織物の成り立ち(その1)
5. 織物の成り立ち(その2)
6. 編み物・レース・不織布等の成り立ち
7. 糸の成り立ち
8. 繊維の種類・紡糸方法
9. 天然繊維（綿・カポック）
10. 天然繊維（麻）
11. 天然繊維（毛・絹）
12. 天然繊維（再生繊維・半合成繊維）
13. 天然繊維（合成繊維）
14. 被服材料の性能
15. 被服及び被服材料の購入・まとめ

定期試験
課題レポートを提出する。

試験のフィードバックの方法
授業時やmanaba folioを活用して解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく。（約30分）
（復習）授業を振り返り，学習内容を復習する。それをもとに課題意識を持って衣生活を分析的にみる。（約1時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞
　なし。　資料を配付する。

＜参考書等＞
　講義中に紹介する。

オフィスアワー
質問等は随時，manaba folioや電子メールで受け付ける。

連絡先
nakagawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

インターンシップ実践I				単位数	2単位
授業コード	52113	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	神崎　充				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業では、個人のキャリア形成を支える「生きる力」の基本構造、複雑に変化し続ける社会動向と「個人の仕事・働き方」の関係について学ぶ。また、他者とのかかわりを通して理解を深め、情報に意味づけしながら物事の本質に近づくための思考方法や表現方法について学ぶ。その学びを通して、現代社会の課題や自らのスキルへの理解を深め、インターンシップ等の場で主体的に社会とかかわり、多様な人々との協働を通して未来のキャリアを描くための思考力・判断力・表現力を習得することを目的とする。

授業においては、知識としての理解にとどまらず、社会人としての課題解決を支える基礎技術を同時に習得・強化しうる実践的な演習を組み込み、プロムラム進行とともに課題解決力が向上していくことを狙う。また、仕事の現場を知るキャリア豊かな社会人をゲストとして招聘し、その仕事内容や未来予測、課題認識、学生への期待等を直接学ぶ機会を複数回設けるほか、生徒同士のディスカッションを通して他者との協働によって視野を拡大する経験値を獲得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	予想される社会構造の変化と自らのキャリア形成の関係について他者に表明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	正解を１つに定めることができない課題に対して自らの仮説によって結論を定めることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	他者の考えに対して謙虚に耳を傾け、尊重しながら受け止めたうえで、自らの意見を表明することができる。	思考・判断・表現力／主体性
4	自分自身のキャリアの方向性と実現に向けた課題について表現することができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー（30%）	1／2／3
2	期末レポート（70%）	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

かつて十数年に渡って株式上場を含む経営変革期を駆け抜けた企業構成員としての職務経験。さらに、独立起業し、約20年に渡って経営とキャリアの切り口を融合させた独自の人材育成事業を創造してきた経営者・専門家としての実務経験を活用する。事業をゼロから立ち上げた経営者であると同時に、経営・キャリア支援の専門家でもある立場から多様な業種・業態でのキャリア・経営問題と向き合ってきた経験と人的リソースを活かし、複雑な社会構造の変化を紐解き、キャリア形成を本質的に理解するための講義を実施する。学生がその理解のもとでキャリアと向き合い、キャリアを創造し、積み重ねていくことを促していく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．自分自身の現状の意識化と本授業における個人目標の設定
２．「仕事」の意味を理解し、将来を予測するための社会環境分析スキルの獲得（１）
３．「仕事」の意味を理解し、将来を予測するための社会環境分析スキルの獲得（２）
４．完全予測不可能な未来を生き抜くための思考・行動
５．キャリアを創り、支える力についての構造的理解
６．仕事人としての価値を底上げする「伝える力」の習得
７．前半講義の振り返りと理解度・習得度を含む目標到達度確認（自分のための確認・検証であり、講師による個別評価は行わない）
８．経営・キャリア事例講義（１）（社会人ゲストによる講演）
＊ゲストとして、経営・キャリアの実体験・見識を有する社会人を予定している（以下同様）。
９．８の講演を踏まえたディスカッション
10.　経営・キャリア事例講義（２）（社会人ゲストによる講演）
11. 10の講演を踏まえたディスカッション
12.　経営・キャリア事例講義（３）（社会人ゲストによる講演）
13. 12の講演を踏まえたディスカッション
14. 自分自身の「仕事」と社会変化への洞察
15. 講義全体の振り返りと個人目標達成度のセルフ検証及び軌道修正

定期試験
最終授業終了後にレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
manabaの掲示板等にレポート全体の傾向を踏まえたコメントを掲載することでフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義された内容をもとに自ら関連する情報を集め、理解度の向上と関連知識の獲得を図り、大人としての見識を高める努力を期待したい。個々のテーマについて1時間程度を復習と考察にあてることが望ましい。なお、各講義では次回の内容予告を行うが、自らが事前学習の必要性を察した場合には（指示がなくとも）主体的に、たとえ10分でも関連する情報をインターネット等で収集するなど、準備をして臨むことを推奨する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて資料配布、manabaでの配信によって対応する。
オフィスアワー
質問はメールで受け付ける。
連絡先
s8346@m.ndsu.ac.jp
留意事項
ビジネスマナー・敬語等、社会人としての基本スキルについては原則として本講義では扱わない。

インターンシップ実践II				単位数	2単位
授業コード	52115	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	豊田　尚吾				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	３実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

人間生活学科におけるキャリア科目の発展科目として位置づけられている。今年度は株式会社マイナビ、キャリアサポートセンターの協力のもと、実際のインターンシップ体験において必要な知識や能力の醸成を、ワークショップを交えながら学んでいく。
具体的には、インターンシップに関するガイダンス、自己分析に関する授業を受講したのち、4人程度でチームを組み「課題解決プロジェクト」に取り組む。これを通じて、社会で必要とされる、情報収集力、分析力、提案力、組織マネジメント力などを培うことが期待される。以上のような内容であるため、履修者にはマイナビへの登録が必須となる。
※課題解決プロジェクトとは、実際の企業から具体的な経営課題を提示してもらい、その解決策を提案書にまとめ上げる取り組みのことである。実際のインターンシップでもグループワークはしばしば取り入れられているため、そのトレーニングにもなる。
　出題テーマ例（2022年シーズン２）：ニトリホールディングス「ニトリのリソースを最大限活用し、世の中に貢献するための新規事業を立案してください」

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	課題解決プロジェクトへの参加において、キャリア選択やインターンシップで必要とされる、思考や判断ができ、伝えるべき内容を適切に表現することができる。	思考・判断・表現力
2	課題解決プロジェクトへの参加経験を活かし、他の様々な課題に対しても主体的、積極的に取り組むことができる。	主体性
3	これから必要とされる、キャリア選択やインターンシップ実践を適切にこなすための知識や技能が身につき、それを活用することができる。	知識・技能
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題解決プロジェクトへの参加態度（積極性、貢献度など）　30%	2／3
2	課題解決プロジェクトの成果としての提案（アウトプット）内容　30%	1／2／3
3	受講態度（リアクションペーパー、毎回の課題など）　30%	1／2
4	期末レポート　10%	1／3
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり。

実務経験の授業への活用方法

企業でリクルート業務に従事していたり、部署の課題解決に取り組んでいたりした経験を踏まえ、課題の奥にある問題の抽出や、対処方法に関する論理的整合性などのチェックを通じて、履修者のプロジェクト取り組みをサポートしていく。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1回全体ガイダンス（豊田）
2回インターンシップ・ガイダンス（マイナビ）
3回MATCHPLUS受検とその結果分析（マイナビ）
4回課題解決project　オリエンテーション（マイナビ）
5回グループ別での取り組み　課題整理と基本的方向性の確定（豊田）
6回グループ別での取り組み　解決策まとめ（豊田）
7回各グループの取り組み内容のチェック（マイナビ）
8回グループ別での取り組み□ブラッシュアップ（豊田）
9回中間成果発表会（マイナビ）
10回グループ別での取り組み□まとめ（豊田）
11回最終成果提出（豊田）
12回インターン活動に向けたマナー講座（マイナビ）
13回発表会①□豊田）
14回発表会②□豊田）
15回今後のキャリア活動に関するセミナー（キャリア・サポート・センター）

定期試験
課題解決プロジェクトでの成果（提案）への貢献をまとめ提出（期末レポート）する。
試験のフィードバックの方法
manabaなどでフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
複数人が協力して実際の企業から提示された経営課題の解決に取り組むため、授業外での調査や分析、メンバー間のコミュニケーションなどを授業前、授業後に積極的に行うことが求められる。 ひいてはそれが実際のインターンシップやキャリア活動に必要となる力の醸成に資すると考え、取り組んでもらいたい。 具体的には、授業外でも授業と同じくらいの時間は準備やとりまとめに必要となる。 また、就職セミナーなどのイベントにも積極的に参加することが期待される。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
月曜４限（変更があった場合はアナウンスする）
連絡先
toyota@m.ndsu.ac.jp
留意事項
株式会社マイナビが提供するプログラムを活用するため、マイナビへの登録は必須となる。

被服実習基礎Ⅰ［a］					単位数	1単位
授業コード	52122	科目ナンバリング	310B0-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中川　敦子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

被服設計に必要な人体計測及びその方法を学び，人体に適合した被服の構成を理解し，体型に適した着心地のよい被服設計について学ぶ。制作を通して被服制作の理論及び縫製に関わる基礎的知識と技術を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	被服設計の基本事項を理解し，被服設計に必要な人体計測ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	被服の構成を理解し，被服の仕組みと制作工程が説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	基本的な縫製知識・技術を理解し，正しい縫製工程で正確な縫製ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	部分縫い及び制作記録　20%	1／2／3
2	課題作品　60%	1／2／3
3	定期試験　20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：ガイダンス・裁縫用具の種類と使い方・ミシン各部の名称との使い方
第２回：基礎縫い１　ミシン基礎縫い（直線縫い・ロックミシン）
第３回：基礎縫い２　手縫い（並縫い・普通まつり・たてまつり・奥まつり・千鳥がけ）
第４回：人体各部の名称と採寸・体型とパターン・パジャマの構造とパターン
第５回：布の扱い方・裁断
第６回：接着芯の扱い方・しるし付け
第７回：パジャマ上衣の縫製１（ポケット付け・襟作り）
第８回：パジャマ上衣の縫製２（肩・襟付け）
第９回：パジャマ上衣の縫製３（袖付け・脇・袖口）
第10回：パジャマ上衣の縫製４（裾・ボタンホール）
第11回：基礎縫い３　手縫い（ボタン・スナップボタン）・パジャマ上着の縫製５（ボタン付け）
第12回：パジャマ下衣の縫製１（脇・股下・裾）
第13回：パジャマ下衣の縫製２（股上・ウエスト周り）
第14回：基礎縫い４　縫い代の始末（割り伏せ縫い・折り伏せ縫い・袋縫い・バイアステープ）
第15回：定期試験
第16回：着装と評価

定期試験

定期試験（実技試験及び筆記試験）

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく。（約30分）
（復習）授業を振り返り，学習内容をまとめておく。学んだ縫製技術の復習及び練習をする。（約1時間）
常に，身の回りの衣服を分析的にみることを心がけること。

必携書（教科書販売）

・文化ファッショ体系改訂版・服飾造形講座1『服飾造形の基礎』，2009年，ISBN：978-4-579-11230-2，文化服装学院編，文化出版局
・文部科学省検定済教科書(家庭705)『ファッション造形基礎』，ISBN978-4-407-20526-8，石垣理子ほか著，実教出版株式会社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
・文化ファッション体系改訂版・服飾造形講座2『スカート・パンツ』，2009年，文化服装学院編，文化出版局
・文化ファッション体系改訂版・服飾造形講座3『ブラウス・ワンピース』，2009年，文化服装学院編，文化出版局

オフィスアワー

質問等は，随時メールで受け付ける。

連絡先

nakagawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・Web履修登録とは別に，学科オリエンテーションで配付する「履修希望票」を期日までに提出すること。
・履修希望者が実習室の定員を超過する場合は，教職履修者を優先する。
・被服実習基礎Ⅱの履修は，この科目を履修した者に限る。
・制作実習につき，欠席や遅刻のないように心がけること。
・前時を踏まえて進めていくため，各授業目標を次時までには必ず達成しておくこと。
・実習用生地などの材料費は自己負担。

被服実習基礎Ⅰ［b］				単位数	1単位
授業コード	52124	科目ナンバリング	310B0-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中川　敦子				
時間割備考					
授業形態（主）	３実験・実習・実技				
授業形態（副）	１講義				
担当形態	クラス分け				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

被服設計に必要な人体計測及びその方法を学び，人体に適合した被服の構成を理解し，体型に適した着心地のよい被服設計について学ぶ。制作を通して被服制作の理論及び縫製に関わる基礎的知識と技術を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	被服設計の基本事項を理解し，被服設計に必要な人体計測ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	被服の構成を理解し，被服の仕組みと制作工程が説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	基本的な縫製知識・技術を理解し，正しい縫製工程で正確な縫製ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	部分縫い及び制作記録　20%	1／2／3
2	課題作品　60%	1／2／3
3	定期試験　20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：ガイダンス・裁縫用具の種類と使い方・ミシン各部の名称との使い方
第２回：基礎縫い１　ミシン基礎縫い（直線縫い・ロックミシン）
第３回：基礎縫い２　手縫い（並縫い・普通まつり・たてまつり・奥まつり・千鳥がけ）
第４回：人体各部の名称と採寸・体型とパターン・パジャマの構造とパターン
第５回：布の扱い方・裁断
第６回：接着芯の扱い方・しるし付け
第７回：パジャマ上衣の縫製１（ポケット付け・襟作り）
第８回：パジャマ上衣の縫製２（肩・襟付け）
第９回：パジャマ上衣の縫製３（袖付け・脇・袖口）
第10回：パジャマ上衣の縫製４（裾・ボタンホール）
第11回：基礎縫い３　手縫い（ボタン・スナップボタン）・パジャマ上着の縫製５（ボタン付け）
第12回：パジャマ下衣の縫製１（脇・股下・裾）
第13回：パジャマ下衣の縫製２（股上・ウエスト周り）
第14回：基礎縫い４　縫い代の始末（割り伏せ縫い・折り伏せ縫い・袋縫い・バイアステープ）
第15回：定期試験
第16回：着装と評価

定期試験

定期試験（実技試験及び筆記試験）

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく。（約30分）
（復習）授業を振り返り，学習内容をまとめておく。学んだ縫製技術の復習及び練習をする。（約1時間）
常に，身の回りの衣服を分析的にみることを心がけること。

必携書（教科書販売）

・文化ファッショ体系改訂版・服飾造形講座1『服飾造形の基礎』，2009年，ISBN：978-4-579-11230-2，文化服装学院編，文化出版局
・文部科学省検定済教科書(家庭705)『ファッション造形基礎』，ISBN978-4-407-20526-8，石垣理子ほか著，実教出版株式会社

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書＞
・文化ファッション体系改訂版・服飾造形講座2『スカート・パンツ』，2009年，文化服装学院編，文化出版局
・文化ファッション体系改訂版・服飾造形講座3『ブラウス・ワンピース』，2009年，文化服装学院編，文化出版局

オフィスアワー

質問等は，随時メールで受け付ける。

連絡先

nakagawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・Web履修登録とは別に，学科オリエンテーションで配付する「履修希望票」を期日までに提出すること。
・履修希望者が教室定員を超えた場合は，抽選とする。
・被服実習基礎Ⅱの履修は，この科目を履修した者に限る。
・制作実習につき，欠席や遅刻のないように心がけること。
・前時を踏まえて進めていくため，各授業目標を次時までには必ず達成しておくこと。
・実習用生地などの材料費は自己負担。

被服実習基礎II［a］					単位数	1単位
授業コード	52126	科目ナンバリング	310B0-2000-o1	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中川　敦子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

被服設計に必要な人体計測及びその方法を学び，人体に適合した被服の構成を理解し，体型に適した着心地のよい被服設計について学ぶ。制作を通して被服制作の理論及び縫製に関わる基礎的知識と技術を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	被服設計の基本事項を理解し，被服設計に必要な人体計測ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	被服の構成を理解し，被服の仕組みと制作工程が説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	基本的な縫製知識・技術を理解し，正しい縫製工程で正確な縫製ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	部分縫い及び制作記録　20%	1／2／3
2	課題作品　60%	1／2／3
3	定期試験　20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：ガイダンス・スカートのデザインと構成・採寸
第２回：基本スカートの製図
第３回：スカートのパターン展開・縫い代・ファスナーの種類と特徴
第４回：ファスナーの縫製方法・スカート制作のための用具と材料・用布の見積もり
第５回：スカート制作の工程・用布の地直し
第６回：裁断・しるし付け
第７回：仮縫い
第８回：本縫いの準備（接着テープとベルトの貼付け・縫い代の始末）・本縫い１（ダーツ）
第９回：本縫い２（ファスナー付け）
第10回：本縫い３（脇縫い合わせ・裾あげ）
第11回：本縫い４（裏地のダーツ・脇縫い・裾あげ）
第12回：本縫い５（表裏スカートの中とじ）
第13回：本縫い６（ベルト付け）
第14回：仕上げ（前カンつけ・糸ループ）
第15回：定期試験
第16回：着装と評価

定期試験

定期試験（実技試験及び筆記試験）

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく。（約30分）
（復習）授業を振り返り，学習内容をまとめておく。学んだ縫製技術の復習及び練習をする。（約1時間）
常に，身の回りの衣服を分析的にみることを心がけること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・文化ファッショ体系改訂版・服飾造形講座1『服飾造形の基礎』，2009年，ISBN：978-4-579-11230-2，文化服装学院編，文化出版局
・文部科学省検定済教科書(家庭705)『ファッション造形基礎』，ISBN978-4-407-20526-8，石垣理子ほか著，実教出版株式会社

＜参考書＞
・文化ファッション体系改訂版・服飾造形講座2『スカート・パンツ』，2009年，文化服装学院編，文化出版局
・文化ファッション体系改訂版・服飾造形講座3『ブラウス・ワンピース』，2009年，文化服装学院編，文化出版局

オフィスアワー

質問等は、随時メールで受け付ける。

連絡先

nakagawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・被服実習基礎Ⅰを履修した者に限る。
・制作実習につき、欠席や遅刻のないように心がけること。
・前時を踏まえて進めていくため，各授業目標を次時までには必ず達成しておくこと。
・実習用生地などの材料費は自己負担。
・教職履修者優先。

被服実習基礎II [b]					単位数	1単位
授業コード	52128	科目ナンバリング	310B0-2000-o1	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中川　敦子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	クラス分け					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

被服設計に必要な人体計測及びその方法を学び，人体に適合した被服の構成を理解し，体型に適した着心地のよい被服設計について学ぶ。制作を通して被服制作の理論及び縫製に関わる基礎的知識と技術を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	被服設計の基本事項を理解し，被服設計に必要な人体計測ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	被服の構成を理解し，被服の仕組みと制作工程が説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	基本的な縫製知識・技術を理解し，正しい縫製工程で正確な縫製ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	部分縫い及び制作記録　　20%	1／2／3
2	課題作品　　60%	1／2／3
3	定期試験　　20%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：ガイダンス・スカートのデザインと構成・採寸
第２回：基本スカートの製図
第３回：スカートのパターン展開・縫い代・ファスナーの種類と特徴
第４回：ファスナーの縫製方法・スカート制作のための用具と材料・用布の見積もり
第５回：スカート制作の工程・用布の地直し
第６回：裁断・しるし付け
第７回：仮縫い
第８回：本縫いの準備（接着テープとベルトの貼付け・縫い代の始末）・本縫い１（ダーツ）
第９回：本縫い２（ファスナー付け）
第10回：本縫い３（脇縫い合わせ・裾あげ）
第11回：本縫い４（裏地のダーツ・脇縫い・裾あげ）
第12回：本縫い５（表裏スカートの中とじ）
第13回：本縫い６（ベルト付け）
第14回：仕上げ（前カンつけ・糸ループ）
第15回：定期試験
第16回：着装と評価

定期試験

定期試験（実技試験及び筆記試験）

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく。（約30分）
（復習）授業を振り返り，学習内容をまとめておく。学んだ縫製技術の復習及び練習をする。（約1時間）
常に，身の回りの衣服を分析的にみることを心がけること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・文化ファッショ体系改訂版・服飾造形講座1『服飾造形の基礎』，2009年，ISBN：978-4-579-11230-2，文化服装学院編，文化出版局
・文部科学省検定済教科書(家庭705)『ファッション造形基礎』，ISBN978-4-407-20526-8，石垣理子ほか著，実教出版株式会社

＜参考書＞
・文化ファッション体系改訂版・服飾造形講座2『スカート・パンツ』，2009年，文化服装学院編，文化出版局
・文化ファッション体系改訂版・服飾造形講座3『ブラウス・ワンピース』，2009年，文化服装学院編，文化出版局

オフィスアワー

質問等は、随時メールで受け付ける。

連絡先

nakagawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・被服実習基礎Ⅰを履修した者に限る。
・制作実習につき、欠席や遅刻のないように心がけること。
・前時を踏まえて進めていくため，各授業目標を次時までには必ず達成しておくこと。
・実習用生地などの材料費は自己負担。

被服実習発展Ⅰ					単位数	1単位
授業コード	52132	科目ナンバリング	310B0-3000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	中川　敦子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

被服制作を通して被服構成やデザインに適した被服材料及び縫製について総合的に理解し，その技術を習得する。各自の体型や好みを考慮した被服デザインを選択して製図を行い，適した素材や縫製方法を選択してい制作を行う。これら一連の制作を通して体型に適した着心地のよい被服設計及び縫製のための諸要因や評価方法を学び，被服購入時のよりよい被服選択に繋げていく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	被服の様々な製図方法を理解し，原型を用いた製図ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	被服デザインに適応した被服材料の選択ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	被服の構成を理解し，被服の仕組みと制作工程を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	被服制作に必要な縫製技術を理解し，適した縫製方法を選択して制作することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	製図　10%	1／2
2	課題作品　70%	1／2／3／4
3	定期試験　20%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．オリエンテーション
２．子供用ボレロの裁断・しるし付け・本縫い１
３．子供用ボレロの本縫い２・仕上げ・着装
４．ワンピースドレスの概説
５．ワンピースドレスの作図
６．ワンピースドレスの製作手順表の作成
７．ワンピースドレスの裁断・仮縫いの準備　縫製方法の説明
８．ワンピースドレスの仮縫い・補正・裏地の裁断・本縫いの準備
９．部分縫い(コンシールファスナー付け)
10．～14．ワンピースドレスの本縫い
15．定期試験
16．ワンピースドレスの仕上げ・着装・まとめ

定期試験

定期試験（実技試験及び筆記試験）

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説をする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく。（約30分）
（復習）授業を振り、学習内容をまとめておく。学んだ縫製技術の復習及び練習をする。（約1時間）
常に、身の回りの衣服を分析的にみるよう心がけること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・文部科学省検定済教科書(7実教・家庭306)『ファッション造形基礎』，猪又美栄子ほか著，実教出版株式会社
・文化ファッショ体系改訂版・改訂版・服飾造形講座1『服飾造形の基礎』，2009年，文化服装学院編，文化出版局

＜参考書＞
・文化ファッショ体系・改訂版・服飾造形講座4『ジャケット・ベスト』，2009年，文化服装学院編，文化出版局
・文化ファッショ体系・改訂版・服飾造形講座5『コート・ケープ』，2009年，文化服装学院編，文化出版局

オフィスアワー

質問等は，随時メールで受け付ける。

連絡先

nakagawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・Web履修登録とは別に、学科オリエンテーションで配付する「履修希望票」を期日までに提出すること。
・「被服実習基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。
・制作実習につき、欠席や遅刻のないように心がけること。
・前時を踏まえて進めていくため，各授業目標を次時までには必ず達成しておくこと。
・実習用生地などの材料費は自己負担。

被服実習発展II					単位数	1単位
授業コード	52134	科目ナンバリング	310B0-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	中川　敦子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

被服制作を通して被服構成やデザインに適した被服材料及び縫製について総合的に理解し，その技術を習得する。各自の体型や好みを考慮した被服デザインを選択して製図を行い，適した素材や縫製方法を選択してい制作を行う。これら一連の制作を通して体型に適した着心地のよい被服設計及び縫製のための諸要因や評価方法を学び，被服購入時のよりよい被服選択に繋げていく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	被服の様々な製図方法を理解し，原型を用いた製図ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	被服デザインに適応した被服材料の選択ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	被服の構成を理解し，被服の仕組みと制作工程を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	被服制作に必要な縫製技術を理解し，適した縫製方法を選択して制作することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	製図　10%	1／2
2	課題作品　70%	1／2／3／4
3	定期試験　20%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション　スーツ・コートの概説
2. 総裏ジャケットまたはコートの作図
3. 総裏ジャケットまたはコートの製作手順表の作成
4. 総裏ジャケットまたはコートの裁断・仮縫いの準備　縫製方法の説明
5. 総裏ジャケットまたはコートの仮縫い・補正・裏地の裁断・本縫いの準備
6. 部分縫い(ポケット)
7. ～ 14. 総裏ジャケットまたはコートの本縫い
15. 定期試験
16. 総裏ジャケットまたはコートの仕上げ・着装・まとめ

定期試験

定期試験（実技試験及び筆記試験）

試験のフィードバックの方法

授業時やmanaba folioを活用して解説をする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）次回授業予定のテーマに関する関係資料に目を通すなどして疑問点を整理しておく。（約30分）
（復習）授業を振り、学習内容をまとめておく。学んだ縫製技術の復習及び練習をする。（約1時間）
常に、身の回りの衣服を分析的にみるよう心がけること。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
・文部科学省検定済教科書(7実教・家庭306)『ファッション造形基礎』，猪又美栄子ほか著，実教出版株式会社
・文化ファッショ体系改訂版・改訂版・服飾造形講座1『服飾造形の基礎』，2009年，文化服装学院編，文化出版局

＜参考書＞
・文化ファッショ体系・改訂版・服飾造形講座4『ジャケット・ベスト』，2009年，文化服装学院編，文化出版局
・文化ファッショ体系・改訂版・服飾造形講座5『コート・ケープ』，2009年，文化服装学院編，文化出版局

オフィスアワー

質問等は，随時メールで受け付ける。

連絡先

nakagawa@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・制作実習につき、欠席や遅刻のないように心がけること。
・前時を踏まえて進めていくため，各授業目標を次時までには必ず達成しておくこと。
・実習用生地などの材料費は自己負担。

被服実習発展III					単位数	1単位
授業コード	52142	科目ナンバリング	310B0-3400-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小橋　裕子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、和服の縫製・着装を学ぶことを目的とする。平面構成の衣服である和服の特徴について理解し、日本の民族衣装である和服の良さを再認識し、生活の中に取り入れる方法等も考え工夫する。実習では、裁断・柄あわせ等を全員で取り組むことで経験を増やし、対応能力を身につける。また、和服の構成を理解した上で、基礎的な縫製技術を確実に習得し、技能の上達をめざす。さらに、縫製した和服を用いて、和装小物と組み合わせた着装・たたみ方も習得する。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	ひとえ長着を扱うための布の特徴、用布量を理解し、自分に合った反物を準備できる。	知識・技能／主体性
2	各自の体型を理解し、適切な採寸に基づいた裁断、しるし付けができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	基礎的な和服の構成を理解した上で縫製することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	縫い方の種類と違いを理解し、縫い進めることができる	知識・技能／思考・判断・表現力
5	縫い上げたひとえ長着に適した和装小物を組み合わせ、自分で着装することができる	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	実習への取り組み　10%	1／2／5
2	部分縫い　20%	3／4
3	作品の評価　50%	2／3／4
4	筆記試験　20%	1／2／3／4
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

教諭として高等学校家庭に関する学科に勤務していた経験から、高等学校で扱われている被服製作技術検定１級和服（ひとえ長着）の内容にも触れ、検定指導の概要や検定における縫製のポイントなど、家庭科教員をめざす学生に伝える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回　大裁女物ひとえ長着について（　縫製に必要な用具等の説明　）
第２回　基礎縫い（　肩あて布の製作　）
第３回　部分縫い（　袖の丸み・額縁　）・裁断見積もり・地直し
第４回　ゆかたの製作
　　①裁断・柄あわせ《　全員で取り組む　》
第５回　②しるし付け（　そで・身ごろ　）
第６回　③しるし付け（　おくみ・えり　）
第７回　④そで作り・いしき当て作り　《　部分縫い参照　》
第８回　⑤背縫い・くりこし揚げ・肩当て付け・いしき当て付け
第９回　⑥えり下くけ・おくみ付け。・縫い代の始末
第10回　⑦えり付け・三つえり芯付け
第11回　⑧えり先の留め・えりの本ぐけ
第12回　⑨脇縫い・縫い代の始末
第13回　⑩すそくけ・そで付け　《　部分縫い参照　》
第14回　⑪縫い代の始末・かんぬき留め・仕上げ・たたみ方
第15回　ゆかたの着装　帯結び（　DVD視聴　）・着付け《　全員で取り組む　》
定期試験　筆記テスト

定期試験

１６週目に筆記テストを行う。内容はひとえ長着の特徴、用布、用具、ひとえ長着の縫い方全般
完成した部分縫い、ひとえ長着の提出

試験のフィードバックの方法

１６週目に提出した作品について、評価結果・改善点など解説をする

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

ミシン縫いを併用するが、運針など日ごろから手縫いに慣れておくこと。
毎回の授業で、配布プリントを用い説明、師範するので、プリントを事前に予習し、遠慮なく質問をすること。（３０分）
授業後、縫い方手順、注意点などについて、プリントに書き込み整理し、理解したことを図解し復習すること。（３０分～１時間）

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書）『やさしい和裁』　清水とき著　日本ヴォーグ社（　授業で紹介する　）

オフィスアワー

授業後、必要に応じて質問、補習は可能。
質問がある場合は、電子メールで受けつける。

連絡先

s8144@m.ndsu.ac.jp

留意事項

積極的な態度で臨むこと。
各自の衣生活の中に和服を取り入れられるよう、和装小物・着装を考えること。
女物ゆかた地１反を用意していただきます。

調理学					単位数	2単位
授業コード	52145	科目ナンバリング	310B0-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、調理の意義について考えるとともに、実際の調理に活用できるように食品成分と調理との関係を説明できる力を身に付けることを目的とする。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	食品の特性及び調理による食品の科学的変化を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	調理による食品の科学的変化を踏まえ、調理の工夫や改善方法を示すことができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	筆記試験　８０％	1／2
2	リアクションペーパー　２０％	2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高校家庭科教員としての経験から、食品の特性及び調理による科学的変化を分かりやすく解説し、食品や調理に主体的に関わろうとする意欲を高める。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．食べることと調理の意義
２．穀類の特性、小テストと解説
３．米の特性と調理、小テストと解説
４．麦の特性と調理、小テストと解説
５．いも類の特性と調理、小テストと解説
６．豆類の特性と調理、小テストと解説
７．野菜の特性、小テストと解説
８．野菜の調理、小テストと解説
９．果物・きのこ・藻類の特性と調理、小テストと解説
10．肉類の特性と調理、小テストと解説
11．魚類の特性と調理、小テストと解説
12．卵の特性と調理、小テストと解説
13．乳・乳製品の特性と調理、小テストと解説
14．砂糖の特性と調理、小テストと解説
15．油脂・ゲル化剤の特性と調理、小テストと解説

定期試験

小テスト、リアクションペーパーの提出

試験のフィードバックの方法

授業時もしくはmanabaを活用して、解説やコメントをする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・各回の授業テーマに関してテキストの該当部分を読み、事前配付資料に記入する（約30分）。
・授業内容を振り返り、食品の特性を実際の調理と関連づけながらまとめる（約30分～１時間）。

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『ｴｽｶﾍﾞｰｼｯｸ 食べ物と健康 -調理学-』, ISBN 978-4-8103-1359-8, 渋川祥子編著, 同文書院

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
授業時に資料を配付する。

オフィスアワー

木曜日の昼休み（12：20～12：50）。
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

tateishi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

日常的に食品表示の情報を確認したり、調理操作にかかわったりするなど、食品や調理に関心をもつこと。

調理実習基礎I					単位数	1単位
授業コード	52157	科目ナンバリング	310B0-2000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

実習内容は、調理実験と関連づけた様式別の日常食などで構成される。
調理学と関連づけた実験実習を行い、調理を科学的に捉えて理論の深化をはかりながら調理技術の基礎を身に付けていく。
安全や衛生管理に配慮しつつ効率的な調理作業に心掛け、調理の実践力を身に付けていく。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	調理操作による食品の変化を理解し、科学的な視点から説明できる。	知識・技能
2	調理技術の基礎を活かして調理できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	計画に沿って協働しながら、安全や衛生に配慮して実験実習に取り組める。	思考・判断・表現力／主体性
4	実験実習を振り返り、課題を明確にして改善策を示すことができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	実験記録　４０％	1／3／4
2	実習計画評価表　５０％	1／2／3／4
3	実技試験　１０％	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高校家庭科教員としての経験から、科学的な視点を重視した調理の学び方を示し、学生が主体的に応用力を身に付けることを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．基礎的な調理操作の要点，だし・野菜に関する実験及び調理の要点
２．だしに関する実験，和風汁物の調理と評価
３．切り方の基礎，和え物の調理と評価
４．野菜に関する実験，炒め物・焼き物の調理と評価
５．米・小麦に関する実験及び調理の要点，オーブンレンジの活用方法
６．米に関する実験，米の加工品を用いた和菓子の調理と評価
７．小麦に関する実験，小麦粉を用いた洋風調理と評価
８．オーブンレンジを活用した時短調理と評価
９．大豆・芋に関する実験及び調理の要点
10．大豆に関する実験，副産物を用いた調理と評価
11．芋に関する実験，切り方の実技試験
12．ゲル化剤・中国風日常食に関する実験及び調理の要点
13．ゲル化剤に関する実験，寄せ物の調理と評価
14．中国風日常食の調理と評価
15．実験実習のまとめ

定期試験

実験記録及び実習計画評価表の提出、実技試験

試験のフィードバックの方法

実験実習時に解説・評価するとともに、実験記録及び実習計画評価表を評価して返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・配付資料に沿って班員と協議しながら調理実習計画表を作成し、実験実習の流れを把握する（約６０分）。
・実験実習終了後、実験記録や実習評価表を整理記入する（約３０分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業中に必要な資料を配付する。

＜参考書＞
『ｴｽｶﾍﾞｰｼｯｸ 食べ物と健康 -調理学-』，渋川祥子編著，同文書院

オフィスアワー

木曜日の昼休み（12：20～12：50）。
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

s4041@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・Web登録とは別に、学科オリエンテーションで配付する「履修希望票」を期日までに提出すること。
・履修希望者が実習室の定員を超過する場合は、教職履修者を優先する。
・調理実習基礎Ⅱの履修は、この科目を履修した者に限る。

調理実習基礎II					単位数	1単位
授業コード	52159	科目ナンバリング	310B0-2000-o1	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

実習内容は、調理実験と関連づけた様式別の日常食や供応食などで構成される。
調理学と関連づけた実験実習を行い、調理を科学的に捉えて理論の深化をはかりながら調理技術の基礎と応用を身に付けていく。
安全や衛生管理に配慮しつつ効率的な調理作業に心掛け、調理の実践力を身に付けていく。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	調理操作による食品の変化を理解し、科学的な視点から説明できる。	知識・技能
2	調理技術の基礎と応用を活かして調理できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	計画に沿って協働しながら、安全や衛生に配慮して実験実習に取り組める。	思考・判断・表現力／主体性
4	実験実習を振返り、課題を明確にして改善策を示すことができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	実験記録　４０％	1／3／4
2	実習計画評価表　６０％	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高校家庭科教員としての経験から、科学的な視点を重視した調理の学び方を示し、学生が主体的に応用力を身に付ける取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．卵に関する実験及び調理の要点
２．卵の鮮度と泡立ちに関する実験，卵を用いた洋菓子の調理と評価
３．卵の熱凝固性に関する実験，秋の和風日常食の調理と評価
４．卵黄の乳化性に関する実験，秋の洋風日常食の調理と評価
５．食肉・乳製品・砂糖に関する実験及び調理の要点
６．挽肉と副材料に関する実験と評価
７．乳製品に関する実験，洋菓子の調理と評価
８．砂糖に関する実験，和洋菓子の調理と評価
９．冬の日常食に関する調理の要点，食事マナー
10．冬の洋風日常食の調理と評価
11．冬の和風日常食の調理と評価
12．供応食に関する調理の要点，食卓づくりの基礎
13．洋風供応食の調理と評価
14．和風供応食の調理と評価
15．実験実習のまとめ

定期試験

実験記録及び実習計画評価表の提出

試験のフィードバックの方法

実験実習時に解説・評価するとともに、実験記録及び実習計画評価表を評価して返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・配付資料に沿って班員と協議しながら調理実習計画表を作成し、実験実習の流れを把握する（約６０分）。
・実験実習終了後、実験記録や実習評価表を整理記入する（約３０分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
授業中に必要な資料を配付する。

＜参考書＞
『ｴｽｶﾍﾞｰｼｯｸ 食べ物と健康 -調理学-』，渋川祥子編著，同文書院

オフィスアワー

木曜日の昼休み（12：20～12：50）。
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

s4041@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・受講は、調理実習基礎Ⅰを履修した者に限る。
・準備の都合上、履修の意向を調理実習基礎Ⅰの最終回に確認する。

調理実習発展Ⅰ					単位数	1単位
授業コード	52172	科目ナンバリング	310B0-3000-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	山本　幾子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

実習内容は、様式別に春・夏向きの日常食や供応食などで構成される。
献立構成、材料及び調理操作の特徴、食卓づくりなどについて理解を深めていく。
安全や衛生管理に配慮しつつ効率的な調理作業に心掛け、調理の実践力・応用力を高めていく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	様式別の献立に沿った調理計画を立てることができる。	思考・判断・表現力
2	調理技術を活かして様式別の調理や食卓づくりができる。	知識・技能
3	調理計画に沿って協働しながら安全や衛生に配慮して主体的に実習に取り組むことができる。	主体性
4	実習を振り返り、課題の改善策や応用例を検討することができる。	思考・判断・表現力
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	実習計画・評価表　80%	1／2／3／4
2	課題レポート　20%	4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高校家庭科教員としての経験から、科学的な視点を重視した調理の学び方を示し、主体的に応用力を身に付けようとする学習意欲を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．和風日常食の特徴と調理の要点
２．和風日常食（春）の調理と評価
３．和風日常食（初夏）の調理と評価
４．洋風日常食の特徴と調理の要点
５．洋風日常食（初夏）の調理と評価
６．洋風日常食（夏）の調理と評価
７．洋菓子の調理と評価
８．洋風供応食の特徴と調理の要点
９．洋風供応食（魚料理）の調理と評価
10．洋風供応食（肉料理）の調理と評価
11．洋風供応食（コース料理）の調理と評価
12．中国風日常食の特徴と調理の要点
13．中国風日常食（湯菜・炒菜の献立）の調理と評価
14．中国風日常食（溜菜・点心の献立）の調理と評価
15．実習のまとめ

定期試験

実習計画・評価表及び課題レポートの提出

試験のフィードバックの方法

提出された実習計画・評価表及び課題レポートに、コメントを入れて返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・配付資料に沿って班員と協議しながら実習計画表を作成し、実習の流れを把握する（約３０分）。
・実習終了後、実習を振り返って実習計画・評価表を整理記入する（約３０分）。
・課題レポートは、学習内容を踏まえて応用・発展させたものを実践してまとめる（約６０分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
　授業時に必要な資料を配付する。

＜参考書＞
　『エスカベーシック　食べ物と健康ー調理学ー』、渋川祥子編著、同文書院

オフィスアワー

質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

ikuko@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・年度当初に実施される学科オリエンテーションで配付する「履修希望票」を期日までに提出すること。
・受講は、調理実習基礎Ⅰ及びⅡを履修した者に限る。

調理実習発展II					単位数	1単位
授業コード	52173	科目ナンバリング	310B0-3000-o1	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	山本　幾子					
時間割備考						
授業形態（主）	３実験・実習・実技					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

実習内容は、様式別に秋・冬向きの日常食や供応食などで構成される。
献立構成・材料や調理操作の特徴・食卓づくりなどについて理解を深めていく。
安全や衛生管理に配慮しつつ効率的な調理作業に心掛け、調理の実践力・応用力を高めていく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	様式別の献立に沿った調理計画を立てることができる。	思考・判断・表現力
2	調理技術を活かして様式別の調理や食卓づくりができる。	知識・技能
3	調理計画に沿って協働しながら安全や衛生に配慮して主体的に実習に取り組むことができる。	主体性
4	実習を振り返り、課題の改善策や応用例を検討することができる。	思考・判断・表現力
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	実習計画・評価表　80%	1／2／3／4
2	課題レポート　20%	4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

高校家庭科教員としての経験から、科学的な視点を重視した調理の学び方を示し、主体的に応用力を身に付けようとする学習意欲を促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．中国風供応食の特徴と調理の要点
２．中国風供応食（前菜・炒菜の献立）の調理と評価
３．中国風供応食（溜菜・点心の献立）の調理と評価
４．中国風供応食（湯菜・蒸菜の献立）の調理と評価
５．和風日常食の特徴と調理の要点
６．和風日常食（秋）の調理と評価
７．和風日常食（晩秋）の調理と評価
８．和菓子の調理と評価
９．和風供応食の特徴と調理の要点
10．和風供応食（初冬）の調理と評価
11．和風供応食（冬）の調理と評価
12．和風供応食（行事）の特徴と調理の要点
13．和風供応食（正月料理）の調理と評価
14．和風供応食（節句料理）の調理と評価
15．実習のまとめ

定期試験

実習計画・評価表及び課題レポートの提出

試験のフィードバックの方法

提出された実習計画・評価表及び課題レポートに、コメントを入れて返却する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・配付資料に沿って班員と協議しながら実習計画表を作成し、実習の流れを把握する（約３０分）。
・実習終了後、実習を振り返って実習計画・評価表を整理記入する（約３０分）。
・課題レポートは、学習内容を踏まえて応用・発展させたものを実践してまとめる（約６０分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
　授業時に必要な資料を配付する。

＜参考書＞
　『エスカベーシック　食べ物と健康ー調理学ー』、渋川祥子編著、同文書院

オフィスアワー

質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

ikuko@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・受講は、調理実習発展Ｉを履修した者に限る。

栄養学					単位数	2単位
授業コード	52175	科目ナンバリング	310B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	藤井　紘子					
時間割備考	10/7,14, 11/4,18, 12/9,23, 1/20,27(各1～2時限)					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、栄養素の体内での働き、栄養素と食品の関わり、バランスのとれた食事などについて学び、健康的な食生活を送るために必要な知識を修得することを目的としています。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	栄養素と食品の関わりについて説明できる	知識・技能
2	食物の消化・吸収のしくみについて説明できる	知識・技能
3	栄養素の種類と働きについて説明できる	知識・技能
4	バランスのとれた食事について説明できる	知識・技能
5	食品成分表を用いて栄養価を算出できる	知識・技能

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業ごとの小レポート：75%	1／2／3／4／5
2	定期試験：25%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

研究機関等における食事調査や栄養教育に関わる業務経験をもとに、事例を含めた具体的な説明を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　栄養とは
２　栄養素と食品
３　食品成分表 (1)
４　食品成分表 (2)
５　消化・吸収のしくみ
６　糖質 (1)
７　糖質 (2)
８　脂質 (1)
９　脂質 (2)
10　たんぱく質
11　ビタミン
12　ミネラル
13　食物繊維、他
14　バランスのとれた食事とは (1)
15　バランスのとれた食事とは (2)

定期試験
16週目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：ふだんの食事を記録するなど、実際の食生活と学習内容を結び付けて考えられるよう準備をしておく。(約0.5時間) 復習：授業ごとに学習内容を振り返り、自らの食生活と照らし合わせ、理解を深める。(約1時間)
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 「食品成分表(八訂)」 ※書籍はいずれの出版社のものでもかまいません。 　食品成分表(八訂)のデータは文部科学省のウェブサイトからも利用できます。 　各自で使いやすいものを選び、授業で活用してください。 ＜参考書等＞ 毎回の授業でプリントを配布する。
オフィスアワー
質問はメールで受け付ける。
連絡先
連絡先メールアドレス： s4049@m.ndsu.ac.jp
留意事項

食品学					単位数	2単位
授業コード	52195	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	藤井　紘子					
時間割備考	4/15, 5/6, 20, 6/3,17, 7/1,15,29(各1～2時限)					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、日常的に摂取される代表的な食品の特徴、食中毒の予防、食品表示、食に関する情報を判断する際の考え方について学び、安全で健康的な食生活を送るために必要な知識を修得することを目的としています。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日常的に摂取される代表的な食品の特徴を説明できる	知識・技能
2	食品成分表を活用できる	知識・技能
3	食中毒の予防のための具体的な方法について説明できる	知識・技能
4	食品表示の内容を理解し、食品を選択できる	知識・技能
5	食に関する情報の信頼性を評価する方法について理解し、適切に判断できる	知識・技能／思考・判断・表現力

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業ごとの小レポート：75%	1／2／3／4／5
2	定期試験：25%	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

研究機関等における食事調査や栄養教育に関わる業務経験をもとに、事例を含めた具体的な説明を行う。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　食品とは
2　食品成分表
3　食品の特徴 (1)
4　食品の特徴 (2)
5　食品の特徴 (3)
6　食品の特徴 (4)
7　食品の特徴 (5)
8　食品の特徴 (6)
9　食品の特徴 (7)
10　食中毒の予防 (1)
11　食中毒の予防 (2)
12　食品表示 (1)
13　食品表示 (2)
14　食品表示 (3)
15　食に関する情報の信頼性

定期試験
16週目に筆記試験を行う。

試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を掲示する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習：ふだん利用する食品の食品表示を集めるなど、実際の食生活と学習内容を結び付けて考えられるよう準備をしておく。(約0.5時間)
復習：授業ごとに学習内容を振り返り、自らの食生活と照らし合わせ、理解を深める。(約1時間)

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞
「食品成分表(八訂)」
※書籍はいずれの出版社のものでもかまいません。
　食品成分表(八訂)のデータは文部科学省のウェブサイトからも利用できます。
　各自で使いやすいものを選び、授業で活用してください。

＜参考書等＞
毎回の授業でプリントを配布する。

オフィスアワー
質問はメールで受け付ける。

連絡先
連絡先メールアドレス: s4049@m.ndsu.ac.jp

留意事項

生活環境学Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	52210	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	村田　健				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	１講義／３実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業は、生態系や人間を取り巻くさまざまな環境問題を学ぶことで、人間の活動が野生生物や人間自身に大きな影響をおよぼしていることを理解し、環境と人間の関係を再認識することを目的とする。
授業では、具体的事例や実際に実施していることを紹介し、実態を把握する機会を修得し、それらを総合して自身の日常生活を環境の視点から考え直してみる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	①　具体的事例を通じて、生態系や生物多様性の現状を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	②　環境問題の重大さを説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	③　身のまわりの環境から人工化学物質に囲まれた生活であることを判断できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー　（２０％） グループディスカッション、グループワーク参加態度（６０％）	1／2／3
2	試験・課題レポート（２０％）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

緑地設計やビオトープ設計、生態調査などの経験を活かし、より現場に近い話を織り交ぜた授業をすすめる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1ガイダンス・環境の概念
2環境生態系の基礎
3損なわれる生物多様性
4日本における生物多様性の危機
5生物多様性が失われる原因と事例
6自然とは
7里山の状態
8河川・干潟・海の現状
9生土壌・表土の重要性について
10ビオトープについて
11ホタル復活事業
12植物の生態
13環境ホルモンとは
14人間活動における生態系への影響
15まとめ

定期試験
最終授業時にレポートを課す。内容は授業内容を踏まえたものとする。
試験のフィードバックの方法
必要に応じて、manaba等を通じて個別にフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業ののち、内容に関して学修への助言や参考図書等を適宜紹介する。それを参考に興味ある内容について理解を深める。レポート・試験では、それらをもとに多角的・発展的な知識や論述等を求める。。付け焼き刃では対応できないので、毎回の授業を真剣に聞くとともに、十分な授業外学習をしてほしい。配付されたプリントや講義ノートの利用、授業中の学修への助言等を参考にして授業内容を整理し理解を深めて、次回の授業に臨むこと（1.5時間以上）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー
オフィスアワー　授業終了後に質問を受ける。
連絡先
留意事項

生活環境学ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	52220	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	村田　健					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	１講義／３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、地球環境問題に焦点を当て、地球規模の問題が身近なことから発生していることを理解し、今後の環境が悪化しないよう実際にどのような取り組みをしているのか、他に何をすべきか、何ができるかを習得することを目的とする。
授業では、毎回身近な環境異変を事例に上げ、グループワークによる意見交換を行い、環境異変の原因や予防について考察する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	① 地球規模の環境異変を通じて、環境の大切さを理解することができる。	知識・技能
2	② 環境異変の原因とメカニズムを説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	③ 持続的で豊かな生活環境を維持するために個人ができることを実行できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー（２０%） グループディスカッション、グループワーク参加態度（６０%）	1／2／3
2	試験・課題レポート（２０%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	「実務あり」

実務経験の授業への活用方法

環境が悪化しないよう、実際に取り組んでいる事例を出し授業を進める。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1ガイダンス・地球規模の環境変化
2地球規模の緑の減少と生態系変化
3緑地造成による生態系復活
4温暖化のメカニズム
5温暖化による気象の変化と生活環境の変化
6温暖化における生態系変化
7温暖化防止対策　企業として何をすべきか
8里山の生態系変化
9大気汚染　酸性雨と歴史、酸性雨の被害、黄砂・PM2.5、今後のモビリティ
10海洋の環境変化　エル・ニーニョ、富栄養化と赤潮、海洋ゴミの実態と今後すべきこと
11廃棄物廃棄物による環境破壊
12脱炭素社会の実現
13地球の正常にするにはⅠ
14地球の正常にするにはⅡ
15まとめ

定期試験

最終授業時にレポートを課す。内容は授業内容を踏まえたものとする。

試験のフィードバックの方法

必要に応じて、manaba等を通じて個別にフィードバックを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

授業ののち、内容に関して学修への助言や参考図書等を適宜紹介する。それらを参考に興味ある内容について理解を深める。レポート・試験では、それらをもとに多角的・発展的な知識や論述等を求める。付け焼き刃では対応できないので、毎回の授業を真剣に聞くとともに、十分な授業外学習をしてほしい。配付されたプリントや講義ノートの利用、授業中の学修への助言等を参考にして授業内容を整理して理解を深めて、次回の授業に臨むこと（1.5時間以上）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

オフィスアワー

オフィスアワー　授業終了後に質問を受ける。

連絡先

質問等については、次のメールアドレスにて受け付けます。
　s4060@m.ndsu.sc.jp
気軽に問い合わせてください。

留意事項

環境デザイン論					単位数	2単位
授業コード	52260	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	成清　仁士					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本科目では、住まいと環境のデザインに係る様式・造形原理の歴史的な変遷を学び取ることによって、地域の景観、風景、環境について評価できる力を身につける。また、これからの快適な街の環境づくりについて提言できる力を身につける。具体的には、西洋における建築物の歴史的な変遷、それらの日本への伝播、現代の歴史的景観とまちづくりの在り方等について、各自が評価・批評できる考え方を修得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 西洋建築の様式・造形原理の歴史的な変遷を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	2. 日本の歴史的な住まいや環境の特徴についてグローバルな視点から説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
3	3. 日本の歴史的環境を評価できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	4. 快適な都市生活を送る上での都市環境の重要性を理解し、まちづくりに係る様々な考え方を評価できる。	思考・判断・表現力／主体性
5	5. 現代の住まいと環境を批判的に考察し、これからの環境デザインについて考え提言できる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　40%(到達目標1.2)	1／2
2	課題・レポート　60%(到達目標3.4)	1／2／3／4／5
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

倉敷において住民主体のNPO活動に参画して日本の伝統的な住まいを再評価し受け継いでいくための事業に携わってきた経験や、中心市街地活性化を中心としたまちづくり分野で地域資源の発掘・発信や活性化事業の企画立案・発掘・調整業務に携わっていた経験から、住まいと環境のデザインに関わる様々な要素を評価する視点を多角的に取り上げ、これからの環境デザインについて学生に実践的な問題解決への取り組みを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. ガイダンス：住まいと環境のデザインについて考える
2．歴史から未来を考える
3．西洋建築の様式-古代
4．西洋建築の様式-中世
5．西洋建築の様式-近世
6．西洋建築の様式-近代
7．近代建築のデザイン
8．現代建築のデザイン
9．日本の住まいと環境-近代以前
10. 日本の住まいと環境-近代
11. 歴史的環境デザイン論
12. 歴史的景観とまちづくり
13. 倉敷における歴史的景観とまちづくり
14. 岡山における歴史的景観とまちづくり
15. これからの環境デザイン

定期試験

レポート課題

試験のフィードバックの方法

15回目の授業で、レポート課題に係る解説やコメントを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・毎回の授業予定を事前に確認した上で、講義における重点事項、並びに配布された資料等を十分復習し、自学すること（30分以上）。
・建築分野の専門的内容も多く含まれている。聞き慣れない言葉、名称等が講義では使われるので、各自で理解するための勉学を行い基礎知識を広げること。歴史的建造物と現代建築のデザインを実際に視察し、評価できる眼を養って欲しい。

必携書（教科書販売）

使用しない。

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
配布する講義資料等。

＜参考書等＞
適宜、講義の中で紹介する。また、図書館を活用して各自の関心に従った参考書を探すことを推奨する。

オフィスアワー

・オフィスアワー　月曜日3限（13：00～14：30）
・質問等は、電子メールでも受け付けます。

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・生活環境学研究室に所属する人は、3年次に履修すること。

住居学					単位数	2単位
授業コード	52270	科目ナンバリング	310B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	成清　仁士					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本科目では、日本の住まいの歴史と計画技術を学び取ることによって、住まいの計画について評価できる力を身につけ、将来の自分が住まう住居の在り方を考える力を養う。また、現代における住まい方について提言できる力を身につける。現代の日本の住まいは工業技術等の進展によって確かに機能的で快適な住まいになってきているが、現代における住まい方の多様化や逼迫する環境問題を考えたときに果たしてそれでよいのか、考え判断できる力を養成する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 日本の住まいの歴史的な変遷を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	2. 住まいの計画について評価できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	3. 将来の自分が住まう住居の在り方について、考えを説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
4	4. これからの新しい住まい方について提案できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　　40%(到達目標1, 2)	1／2
2	課題・レポート　60%(到達目標3, 4)	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中心市街地活性化を中心としたまちづくり分野で地域資源の発掘・発信や活性化事業の企画立案・発掘・調整業務に携わっていた経験から、加えて倉敷において住民主体のNPO活動に参画して日本の伝統的な住まいを再評価し受け継いでいくための事業に携わってきた経験や日本の伝統的な住まいのあり方を継承した建築設計プロジェクトに参画してきた経験を活かして、住まいづくりやまちづくりに関わる様々な要素を評価する視点を多角的に取り上げ、これからの住まいのあり方について学生に主体的に考え判断することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. ガイダンス：「住まい」について考える
2. 歴史から住まいを考える
3. 日本の住まいの歴史-古代
4. 日本の住まいの歴史-中世
5. 日本の住まいの歴史-近世
6. 日本の住まいの歴史-近代（戦前）
7. 日本の住まいの歴史-近代（戦後）
8. 日本美の再発見
9. 日本の近代住宅
10. 日本における近代の住居計画
11. 各部屋の計画-台所・食事室
12. 各部屋の計画-子ども部屋
13. 各部屋の計画-居間
14. 現代の住まい
15. これからの住まい

定期試験

レポート課題

試験のフィードバックの方法

15回目の授業で、レポート課題に係る解説やコメントを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・毎回の授業予定を事前に確認した上で、講義における重点事項、並びに講義時に配布された資料等を十分復習し、自学すること（30分以上）。
・日頃から、住まいに関する情報、特に新聞記事について注目し関心を持つこと。

必携書（教科書販売）

使用しない。

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
配布する資料等

＜参考書等＞
　講義資料は作成したものを配付する。
　参考文献は随時紹介する。また、図書館を活用して各自の関心に従った参考書を探すことを推奨する。

オフィスアワー

・住まいに関心を持つきっかけとなる講義とする。そのためにも身の回りにある住まいの情報・現況に注目すること。

・オフィスアワー　月曜日3限（13：00～14：30）。

・質問等は、電子メールでも受け付けます。

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

成績は研究室分けの資料ともなる。生活環境学研究室への配属を希望する人は必ず2年次に履修すること。

住居計画学I					単位数	1単位
授業コード	52282	科目ナンバリング	310B0-3400-o1	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	成清　仁士					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

住居の設計製図について学び取り、自らが考えるこれからの住まいのあり方を表現するための基礎能力を習得する。また、これからの住まいのあり方を考え、図面表現を伴う具体的な提案にまとめた上で自らの考えをプレゼンテーションすることを通して、考える力や表現する力といった汎用的な能力を養う。本授業は、PBL（課題解決型学習）の要素を含む授業である。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基本的な住宅図面を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	住居計画に関わる様々な問題を整理分析して目標を設定することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	自らが考えるこれからの住まいのあり方について、図面を用いて表現できる。	思考・判断・表現力／主体性
4	自らが考えるこれからの住まいのあり方についてプレゼンテーションし、的確に質疑応答ができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	プレゼンテーション	2／3／4
2	レポート	2／3
3	作品評価	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中心市街地活性化を中心としたまちづくり分野で地域資源の発掘・発信や活性化事業の企画立案・発掘・調整業務に携わっていた経験から、加えて倉敷において住民主体のNPO活動に参画して日本の伝統的な住まいを再評価し受け継いでいくための事業に携わってきた経験や日本の伝統的な住まいのあり方を継承した建築設計プロジェクトに参画してきた経験を活かして、住まいづくりやまちづくりに関わる様々な要素を評価する視点を多角的に取り上げ、これからの住まいや住環境のあり方について学生に主体的に考え判断することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.ガイダンス：住居の計画と設計を考える
2.住居の計画について
3.住宅図面について
4.住宅図面のトレース（平面図）
5.住宅図面のトレース（配置図）
6.住宅図面の表現
7.課題講評、ディスカッション
8.課題説明（住居のリノベーション）
9.対象エリアの調査分析
10.住居計画の作成
11.中間講評
12.計画内容の修正
13.プレゼンテーション準備
14.課題発表、ディスカッション
15.授業ふりかえり

定期試験

住居計画に関する課題

試験のフィードバックの方法

課題発表の後にはふりかえりの授業時間を設け、解説やコメントを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・毎回の授業予定を事前に確認した上で、演習における重点事項、並びに授業中に配布された資料等を十分復習し、自学すること（30分以上）。
・本授業は、設計製図の作成も求めているため、時間外での各自による制作作業が必要となる場合がある。各課題を計画的に遂行し、期限内に成果を取りまとめることを意識すること。
・歴史的な住宅や現代における住宅を実際に視察する機会を持つように心がけ、そのデザインを評価できる眼を養って欲しい。

必携書（教科書販売）

使用しない。

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
配布資料等
＜参考書等＞
講義・実習資料は作成したものを配付する。
図書館を活用して、住居に関する月刊誌等に目を通すこと。また、各自の関心に従った参考書を探すことを推奨する。

オフィスアワー

・オフィスアワー月曜日3限（13：00～14：30）
・実習中に、不明な事柄があれば遠慮なく尋ねてください。

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・家庭科免許取得希望者を優先して開講している。
・生活環境学研究室に所属する人は、3年次に履修すること。

住居計画学II					単位数	1単位
授業コード	52284	科目ナンバリング	310B0-3400-o1	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	成清　仁士					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

住居の設計製図について学び取り、自らが考えるこれからの住まいのあり方を表現するための基礎能力を習得する。また、これからの住まいのあり方を考え、図面表現を伴う具体的な提案にまとめた上で自らの考えをプレゼンテーションすることを通して、考える力や表現する力といった汎用的な能力を養う。本授業は、PBL（課題解決型学習）の要素を含む授業である。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	基本的な住宅図面を作成することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	住居計画に関わる様々な問題を整理分析して目標を設定することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	自らが考えるこれからの住まいのあり方について、図面を用いて表現できる。	思考・判断・表現力／主体性
4	自らが考えるこれからの住まいのあり方についてプレゼンテーションし、的確に質疑応答ができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	プレゼンテーション	2／3／4
2	レポート	2／3
3	作品評価	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中心市街地活性化を中心としたまちづくり分野で地域資源の発掘・発信や活性化事業の企画立案・発掘・調整業務に携わっていた経験から、加えて倉敷において住民主体のNPO活動に参画して日本の伝統的な住まいを再評価し受け継いでいくための事業に携わってきた経験や日本の伝統的な住まいのあり方を継承した建築設計プロジェクトに参画してきた経験を活かして、住まいづくりやまちづくりに関わる様々な要素を評価する視点を多角的に取り上げ、これからの住まいや住環境のあり方について学生に主体的に考え判断することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１.ガイダンス、課題説明（住宅設計）
２.問題分析、目標設定
３.敷地分析
４.住居計画の作成
５.中間講評
６.計画内容の修正
７.1階平面図の作成
８.配置図の作成
９.2階平面図の作成
10.その他図面等の作成
11.プレゼンボードの作成
12.プレゼンテーション準備
13.プレゼンテーション仕上げ
14.課題発表、ディスカッション
15.授業ふりかえり

定期試験

住居計画に関する課題

試験のフィードバックの方法

課題発表の後にはふりかえりの授業時間を設け、解説やコメントを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・毎回の授業予定を事前に確認した上で、演習における重点事項、並びに授業中に配布された資料等を十分復習し、自学すること（30分以上）。
・本授業は、設計製図の作成も求めているため、時間外での各自による制作作業が必要となる場合がある。各課題を計画的に遂行し、期限内に成果を取りまとめることを意識すること。
・歴史的な住宅や現代における住宅を実際に視察する機会を持つように心がけ、そのデザインを評価できる眼を養って欲しい。

必携書（教科書販売）

使用しない。

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
配布資料等
＜参考書等＞
講義・実習資料は作成したものを配付する。
図書館を活用して、住居に関する月刊誌等に目を通すこと。また、各自の関心に従った参考書を探すことを推奨する。

オフィスアワー

・オフィスアワー月曜日3限（13：00～14：30）
・実習中に、不明な事柄があれば遠慮なく尋ねてください。

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・家庭科免許取得希望者を優先して開講している。
・生活環境学研究室に所属する人は、3年次に履修すること。

住環境学					単位数	2単位
授業コード	52290	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	成清　仁士					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本科目は、住環境について多様な視点から考え、快適な住環境づくり・都市環境づくりについて提言できる力を身につけることを目的とする。住まいと外部環境との関係について様々な視点から学んだ後、近世から現代に至る住まいの間取りの変遷を学習した上で、現代の日本が抱える高齢社会に対応した住環境づくり、工学的な基礎的室内環境学、法律による住環境・都市環境づくり等について修得する。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 住環境を守る法律について説明できる。	知識・技能
2	2. 高齢社会における住環境づくりについて提言できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	3. 住まいづくりの変遷から、将来の住まいの在り方について提言できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	4. 多岐にわたる住環境問題・都市問題を理解し、次の時代にふさわしい住まいづくり・まちづくりについて提唱できる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　40%(到達目標1.3)	1／3
2	課題・レポート　60%(到達目標1.2.3.4)	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

中心市街地活性化を中心としたまちづくり分野で地域資源の発掘・発信や活性化事業の企画立案・発掘・調整業務に携わっていた経験から、加えて倉敷において住民主体のNPO活動に参画して日本の伝統的な住まいを再評価し受け継いでいくための事業に携わってきた経験や日本の伝統的な住まいのあり方を継承した建築設計プロジェクトに参画してきた経験を活かして、住まいづくりやまちづくりに関わる様々な要素を評価する視点を多角的に取り上げ、これからの住環境のあり方について学生に主体的に考え判断することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１．快適な住まいづくり・まちづくりに関するガイダンス
２．住まいづくりと庭
３．住まいづくりと地域
４．住環境と観光
５．住環境とまちづくり
６．住環境と自然災害
７．住環境と都市環境
８．住環境と間取りの歴史
９．住環境とライフスタイル
10. 住環境と高齢社会
11. 高齢社会対応の住環境づくり
12. 住まいの室内環境①
13. 住まいの室内環境②
14. 住まいづくりと法制度
15. 住環境と都市政策

定期試験

レポート課題

試験のフィードバックの方法

最終回授業やオフィスアワーにおいて、レポート課題に係る解説やコメントに応じる。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・毎回の授業予定を事前に確認した上で、講義における重点事項、並びに講義時に配布された資料等を十分復習し、自学すること（30分以上）。
・住環境問題・都市環境問題に関連する情報・文献等に気を配り、関心を持つように努めること。

必携書（教科書販売）

使用しない。

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
　配布する講義資料等
＜参考書等＞
　参考文献等は随時紹介する。また、図書館を活用して各自の関心に従った参考書を探すことを推奨する。

オフィスアワー

・オフィスアワー　月曜日3限（13：00～14：30）
・質問等は、電子メールでも受け付けます。

連絡先

narikiyo@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・生活環境学研究室に所属する人は、2年次に履修すること。
・本科目は社会教育主事の任用資格を得るために開講される科目である。

食生活論					単位数	2単位
授業コード	52301	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	安原　美帆					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、日本人の食生活の変遷と伝統的な食文化を理解することを目的とする。授業では、課題発表（プレゼンテーション）を行い、食事の楽しさを把握する機会を持つ。これらを総合し生活分野における人文・社会学的課題を考察する。授業時間外でもmanaba folioで課題を提示し自主学習を行う。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	食生活の歴史をふまえて、食の多様性を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	日本人の伝統的な食文化を説明することができる。	知識・技能
3	食生活に興味をもち、食事の楽しさを記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	関連分野の研究事例を引用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小テスト（35%）	1／2／3
2	課題発表（25%）	1／3／4
3	レポート（40%）	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　食生活の概念・食べることの意義
2　日本の食生活の変遷（1）古代から現代
3　日本の食生活の変遷（2）食物選択の影響
4　世界の食生活（1）世界の主食類型
5　世界の食生活（2）世界の食事文化
6　日本の食の多様性（1）小麦の利用と応用
7　日本の食の多様性（2）和食（Washoku）
8　日本の食の多様性（3）菓子からスイーツへの展開
9　日本の食の多様性（4）飲み物の多様性
10　食生活の道具（食具と食器）
11　食生活と伝統文化（1）年中行事と食
12　食生活と伝統文化（2）人生儀礼と食
13　食生活と伝統文化（3）地方食のブランド化
14　食生活と伝統文化（4）東日本の郷土料理
15　食生活と伝統文化（5）西日本の郷土料理

定期試験
最終授業時にレポートを提出する。

試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を配布またはmanaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業前に manaba folio で指示した事前課題を完成させてから授業に臨むこと（約30分）。
毎回の授業で新しく学んだ用語や名称は整理してまとめておくこと（約30分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞
食品成分表
『秘められた和食史』, 2016年, ISBN978-4-7877-1601-1, カタジーナ・チフィエルトカ＆安原美帆, 新泉社
『Branding Japanese Food: From Meibutsu to Washoku (Food in Asia and the Pacific)』, 2020年, ISBN978-0824881221, Katarzyna J.Cwiertka with Yasuhara Miho, University of Hawaii Press

オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

連絡先
s4054@m.ndsu.ac.jp

留意事項
講義での説明等に疑問がある場合は必ず確認すること。

食経営論					単位数	2単位
授業コード	52311	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	清水　純一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　食料には、生産されてから消費するまでの間に、様々な経済主体が関与している。こうした食料の生産から消費までの流れを総合的に捉えるのが「フードシステム」という概念である。この授業では、フードシステムの概念を用いて、消費者の食生活を出発点に、流通・生産にかかわる主体、仕組み、制度について、系統的に学んでいく。
　各回の授業は、各種統計を利用して分析した講義、必要に応じて関連する参考動画の鑑賞する、授業終了後のレポート課題の３本立てで行う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	食料の生産から消費までの流れを示す「フードシステム」の概念を説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	自分の食生活がフードシステムの中でどのように位置づけられ、影響を受けているのかを説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回のレポート課題（30%）	1／2
2	定期試験（70%）	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

農林水産省傘下の国立研究所である農林水産政策研究所で日本の食品産業を研究する領域を統括していた経験から、抽象概念ではなく、データに即した日本のフードシステムの現状と将来性について伝える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　フードシステムの概念
２　フードシステムの経済規模
３　食品の所得弾力性とエンゲル係数
４　食生活の成熟
５　食料消費パターンの変化
６　家族の変化と食生活（１）人口構成の変化と食生活
７　家族の変化と食生活（２）単身者の食生活と女性の社会進出
８　食品小売業（１）専門小売店とスーパーマーケット
９　食品小売業（２）流通革命と消費者
10　外食と外食産業
11　中食と中食産業
12　コンビニエンスストアの現状
13　食品工業の構造（１）現状と市場構造
14　食品工業の構造（２）市場行動と原料調達
15　フードシステムと食品廃棄物

定期試験

16週目に定期試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）事前にmanaba folio に掲載した講義資料を熟読し、不明な点を参考文献を参照しておく（約90分）。
（復習）講義後に、manaba folio で出題される復習問題に解答し、提出する（約60分）。
（次回の予習）講義後にmanaba folio で出題される予習問題に取り組む（約30分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
・毎回授業の教材（PDF）をmanaba folioにアップロードする。
・必要な文献は随時紹介する。
・『フードシステム入門 -基礎からの食料経済学-』, 2019年, 薬師寺哲郎・中川隆 編, 建帛社
（「食政策論」でも参考書として使用する。）

オフィスアワー

・オフィスアワー：火曜日　4時限（14:45-16:15）。
・上記の時間以外でも予定が入っていなければ随時訪問を受け付ける。その場合、連絡先に記載されているアドレスにメールを送り、面会の予約をすること。

連絡先

sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・経営経済学概論で説明した経済学の概念が使用される場合があるので必要に応じて復習すること。
・毎回、課題が提出されるので、他の授業の課題も含め、計画的に取り組み、締め切りに遅れることが無いように注意する。
・通信環境の不具合などで締め切り前に課題が提出できなかったような場合は、すみやかにメールで担当教員に連絡すること。
・メールには自分の学籍番号・氏名・どの授業を受講しているかを明記すること。

食政策論					単位数	2単位
授業コード	52321	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	清水　純一					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

　食料の生産から消費にいたる各段階で、多くの国で様々な政策的介入が行われている。この授業ではこれらの介入が何故生まれたのか、どういう意味を持っているのかを主として社会・経済学の視点から明らかにしていく。コースの前半では世界的視野でみた食料問題、後半では日本における食料問題を扱う。
　各回の授業は、各種統計を利用して分析した講義、関連する参考動画の鑑賞、授業後に出題されるレポート課題の３本立てで行う。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	食料に関する政府関係の公表資料を自分で入手し、読みこなすことができる。	知識・技能／主体性
2	FTAやTPPなどの国際的な貿易交渉に関するマスメディアの報道を理解し、交渉の結果が自分の生活に及ぼす影響のメリット、デメリットを判断できる。	思考・判断・表現力／主体性
3	日本の食料・農業がおかれている状況を理解し、自分なりの問題解決案を提示できる。	思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回のレポート課題（30%）	2／3
2	定期試験（70%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

　農林水産省傘下の国立研究所である農林水産政策研究所において、行政部局の依頼により、農業政策の経済効果を30年間以上研究していた経験を生かし、食料政策の形成過程、政策批判の基礎的知識を伝える。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

１　世界の人口と食料問題（マルサスの命題）
２　世界における飢餓の現状（飢餓と飽食の併存）
３　食料の需要と供給（価格弾力性）
４　先進国における農業保護の背景（ペティ=クラークの法則）
５　先進国の農業保護政策（国内農業保護の理論）
６　農業の近代化（緑の革命とは）
７　遺伝子組換え（ＧＭ）作物をめぐる問題
８　食料をめぐる貿易問題（１）GATTからWTOまで
９　食料をめぐる貿易問題（２）FTA・EPA締結への動き
10　世界の食料貿易（３大穀物と大豆）
11　日本農業の現状（１）日本経済と農業、食料自給率をめぐる議論
12　日本農業の現状（２）二つの農業-集約型と土地利用型-
13　農業協同組合（ＪＡ）の役割と課題
14　日本の農産物流通
15　日本の農業政策（まとめ）

定期試験

16週目に定期試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）事前にmanaba folio に掲載した講義資料を熟読し、不明な点を参考文献を参照して調べておくこと（約90分）。
（復習）講義後に、manaba folio で出題される復習問題に解答し、提出する（約60分）。
（次回の予習）講義後にmanaba folio で出題される予習問題に取り組む（約30分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
・毎回授業の前に講義資料をmanaba folio にアップロードする。
・必要な文献は随時紹介する。
・『フードシステム入門 -基礎からの食料経済学-』,2019年, 薬師寺哲郎・中川隆 編, 建帛社
・『食料・農業・農村白書』各年版, 農林水産省編、（農林水産省のHPからダウンロード可能）

オフィスアワー

・オフィスアワー：火曜日　4時限（14:45-16:15）。
・上記の時間以外でも予定が入っていなければ随時訪問を受け付ける。その場合、連絡先に記載されているアドレスにメールを送り、面会の予約をすること。

連絡先

sr.shimizu@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・一部中学高程度の数学の知識が必要となる回があるので、復習をしておくこと。
・毎回、課題が提出されるので、他の授業の課題も含め、計画的に取り組み、締め切りに遅れることが無いように注意する。
・通信環境の不具合などで締め切り前に課題が提出できなかったような場合は、すみやかにメールで担当教員に連絡すること。
・メールには自分の学籍番号・氏名・どの授業を受講しているかを明記すること。

比較食文化論					単位数	2単位
授業コード	52331	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	安原　美帆					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業は、日本人の食を文化の観点から比較して、固有な食文化の特徴と形成の深層を理解し、比較研究の基本的な方法を修得することを目的とする。授業では、課題発表（プレゼンテーション）を行い、比較的な思考法のおもしろさを把握する機会を持つ。これらを総合し生活分野における人文・社会学的課題を考察する。授業時間がでもmanaba folioで課題を提示し自主学習を行う。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	食文化の多様性を説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	日本人の食文化の成り立ちを説明することができる。	知識・技能
3	固有な食文化を多面的に考察し、特徴を記述することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	関連分野の研究事例を引用できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	小テスト（40%）	1／2／3
2	課題発表（20%）	1／3／4
3	レポート（40%）	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　比較食文化の意味
2　世界の主要食物と食文化
3　日本の食文化の地理的・歴史的基盤
4　地域からみた食文化
5　季節からみた食文化
6　日本と欧米の料理文化(1)和食の発見
7　日本と欧米の料理文化(2)西洋料理の受容
8　日本と欧米の料理文化(3)折衷料理の発明
9　食事様式からみた日本と欧米(1)膳とテーブル
10　食事様式からみた日本と欧米(2)作法とマナー
11　日常と非日常の食文化(1)ハレとケの食
12　日常と非日常の食文化(2)非常時の食
13　日常と非日常の食文化(3)旅の食
14　フードシステムからみた食文化
15　ライフサイクルからみた食文化

定期試験
最終授業時にレポートを提出する。

試験のフィードバックの方法
試験終了後に模範解答を配布またはmanaba folio に模範解答を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業前にmanaba folioで指示をした事前課題を完成させてから授業に臨むこと（約30分）。
毎回の授業で新しく学んだ用語や名称は整理してまとめておくこと（約30分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞
『秘められた和食史』, 2016年, ISBN978-4-7877-1601-1, カタジーナ・チフィエルトカ＆安原美帆, 新泉社
『Branding Japanese Food: From Meibutsu to Washoku (Food in Asia and the Pacific)』, 2020年, ISBN978-0824881221, Katarzyna J.Cwiertka with Yasuhara Miho, University of Hawaii Press

オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。

連絡先
s4054@m.ndsu.ac.jp

留意事項
講義での説明等に疑問がある場合は必ず確認すること。

保育学					単位数	2単位
授業コード	52400	科目ナンバリング	310B0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	片平　朋世					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習／３実験・実習・実技					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

・乳幼児の育ちの道すじや，心身の成長発達を促す保育の基本について学び、生まれてから最初の６年間の大切さを知る。
・演習を通して、乳幼児に対する関わり方を知る。
・保育見学実習を通して実際の保育について理解を深め，乳幼児の保育のあり方や保育環境について考える。
・現代社会の保育事情を学ぶことにより，保育に対する視野を広げる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	①保育の理論及び乳幼児の特性について理解を深め，保育において大切にすべきことを記述できる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	②現代社会における保育の諸問題について考え,説明できる。	思考・判断・表現力／主体性
3	③演習を通して乳幼児に対する関わり方がわかり，実行できる。	知識・技能／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・授業への取り組み度(感想・課題発表及び発表に向けた準備ノート提出等）50%	1／2／3
2	・課題レポート(中間レポート・期末レポート）50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

保育園での保育経験を元に,乳幼児の発達の道筋や保育現場の実際、環境を通して保育を行うということ等を解説し、演習を通して保育への理解が深まるようにする。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．保育とは何か
2．胎児期の発達
3．乳児期の心身の発育・発達（0歳児）
4．乳児期の心身の発育・発達（沐浴）
5．乳児期の心身の発育・発達（1歳児～2歳児）
6．幼児期の心身の発育・発達（3歳児～5歳児）
7．子どもの生活と遊び①（わらべうた）
8．子どもの生活と遊び②（絵本）
9.　子どもの生活と遊び③（運動遊び等）
10. 家庭保育と集団保育
11. 保育見学実習
12. 現代社会の保育事情①（グループ別課題発表①）
13. 現代社会の保育事情②（グループ別課題発表②）
14. 子どもの病気と事故の予防
15. 子どもの福祉とこれからの課題

定期試験

・講義・演習後に感想シートを提出
・課題発表に向けた準備ノート（保育に関する記事等の切り抜き）を発表後に提出
・見学実習後にレポートを提出
・期末レポートを提出

試験のフィードバックの方法

感想シート、準備ノート、中間レポートについては、授業内にフィードバックを行う。
期末レポートについては、manabaにてフィードバックを行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・課題発表に向けて,子ども・子育てに関する新聞記事や統計データ，関連文献の引用箇所等を整理したり，自分の考えをノートにまとめたりしておくこと（１時間程度）。
・演習・実習の下準備（テキストの該当箇所や配布資料を読みまとめる，練習が必要なものはしておく等）（１時間程度）

必携書（教科書販売）

＜必携書＞
『０歳児から５歳児　行動の意味とその対応』今井和子著　小学館

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜参考書等＞
・幼稚園教育要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
・保育所保育指針（平成２９年３月告示、厚生労働省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省）
・子どもの育ちを支える絵本（脇明子編著，岩波書店）
・子どもはみんな問題児。（中川李枝子，新潮社）
その他随時、授業中に紹介する。

オフィスアワー

・オフィスアワーは月曜日2限、3限

連絡先

katahira@m.ndsu.ac.jp

留意事項

・身近にいる子どもを観察したり、ふれあう機会をつくったりして、積極的に子ども理解に努めてほしい。
・授業形態は,保育現場の見学実習（状況により学内演習にかわる可能性もある）と演習（沐浴・絵本の読み聞かせ・わらべうた等）を含む。

家庭機械及び家庭電気				単位数	2単位
授業コード	52410	科目ナンバリング	310B0-3400-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	笠井　俊信				
時間割備考	9/11～15のうち、4日間（確認中）				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業は，身の回りの機械や製品の仕組みや構造を知り，これらを実現するために様々な技術が適用されていることを理解することを目的とする。授業では，情報活用力を重視した課題解決演習を複数回行い，自ら課題意識を持ち，主体的な情報収集・情報処理・情報表現・情報発信を行うことを通して，生きた知識として獲得する。

アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	身の回りの機械や製品の仕組みや構造について理解し，説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	主体的に課題意識を持ち，解決するための方法を探求しまとめることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	課題を解決するために，情報手段を適切に活用し，目的に応じた情報の収集・加工・表現を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・提出物（20%）	2
2	課題演習（50%）	1／2／3
3	レポート課題（30%）	1／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．現代の家庭機械・電気・情報
2．生活の基盤としての情報技術
3．情報通信技術とIoT
4．生きる力と情報活用力
5．生活情報の課題演習
6．機械要素とその働き
7．家庭機械の種類と原理
8．家庭機械の仕組みと構造
9．家庭機械の課題演習
10．電気エネルギーの変換
11．家電製品の種類と原理
12．家電製品の仕組みと構造
13．家庭電気の課題演習
14．我が国のエネルギー事情
15．エネルギーの課題と対策

定期試験
最終授業時に課題レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
課題レポートはmanaba folioで提出する。フィードバックもmanaba folioから提供する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業前後で興味を持った内容について，インターネットなどを活用して自身で調べて学びを深める習慣を身につけてほしい。（約1時間）
必携書（教科書販売）
教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて資料等を配布する。
オフィスアワー
質問等は随時電子メールで受け付ける。
連絡先
kasai@okayama-u.ac.jp
留意事項

生活情報処理［a］					単位数	2単位
授業コード	52416	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	大東　正虎					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

様々な人に対して自分の考えを伝える時、情報・メディアがよく活用される。本講義において、学生は、より適した方法でプレゼンテーションができるように、情報・メディアの利用技術を習得する。具体的には、画像処理および関数の演算、図表とグラフ、ウェブページの作成、PowerPointの操作をおこなう。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	情報機器やネットワークの基礎的なことを理解し、説明できる。	知識・技能
2	プレゼンテーションの素材（表,グラフ,画像,図など）を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	ウェブページを作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	PowerPointを利用してわかり易い発表ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・課題：50%（到達目標1, 2, 3, 4）	1／2／3／4
2	定期試験：50%（到達目標1, 2, 3, 4）	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　コンピュータの仕組みを知る
2　画像を編集する①：画像編集ソフトを使う
3　画像を編集する②：その応用
4　インターネットを利用する
5　プレゼンテーションソフトを使う①：PowerPointを使う
6　プレゼンテーションソフトを使う②：その応用
7　ウェブページを作る①：HTMLタグの記述
8　ウェブページを作る②：その応用
9　表計算ソフトを使う①：グラフ
10　表計算ソフトを使う②：有用な関数およびツール
11　表計算ソフトを使う③：文字列操作
12　表計算ソフトを使う④：データを整理・分析
13　課題発表①：個人毎にプレゼンテーションを行う
14　課題発表②：個人毎にプレゼンテーションを行う
15　課題発表③：個人毎にプレゼンテーションを行う

授業では実際にパソコンを操作し、入力も多量にしてもらうので、マウス操作、キーボード操作に慣れておくこと。

定期試験

16週目に筆記試験および実技試験を行う。

試験のフィードバックの方法

manaba folioなどで解説を掲載する。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

予習として、配布されたプリントの内容を事前に読み、講義時に操作ができるように準備しておくこと（約30分）。
復習として、内容や手順などを整理し、身近な事柄と関連づけて応用方法を考えること（約30分）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

なし。講義の際にプリントを配布する。

オフィスアワー

月曜日 4限。またはメールで受け付ける。

連絡先

daito@m.ndsu.ac.jp

留意事項

各回USBフラッシュメモリを必ず持参すること。
コンピュータの稼働台数によって履修者数が制限される。Web履修登録とは別に，学科オリエンテーションで配付する「履修希望票」を期日までに提出すること。
定員を超えた場合は、教職課程履修希望者を優先する。

生活情報処理［b］					単位数	2単位
授業コード	52418	科目ナンバリング	310B0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	大東　正虎					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

様々な人に対して自分の考えを伝える時、情報・メディアがよく活用される。本講義において、学生は、より適した方法でプレゼンテーションができるように、情報・メディアの利用技術を習得する。具体的には、画像処理および関数の演算、図表とグラフ、ウェブページの作成、PowerPointの操作をおこなう。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	情報機器やネットワークの基礎的なことを理解し、説明できる。	知識・技能
2	プレゼンテーションの素材（表,グラフ,画像,図など）を作ることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	ウェブページを作成できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	PowerPointを利用してわかり易い発表ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・課題：50%（到達目標1, 2, 3, 4）	1／2／3／4
2	定期試験：50%（到達目標1, 2, 3, 4）	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1　コンピュータの仕組みを知る
2　画像を編集する①：画像編集ソフトを使う
3　画像を編集する②：その応用
4　インターネットを利用する
5　プレゼンテーションソフトを使う①：PowerPointを使う
6　プレゼンテーションソフトを使う②：その応用
7　ウェブページを作る①：HTMLタグの記述
8　ウェブページを作る②：その応用
9　表計算ソフトを使う①：グラフ
10　表計算ソフトを使う②：有用な関数およびツール
11　表計算ソフトを使う③：文字列操作
12　表計算ソフトを使う④：データを整理・分析
13　課題発表①：個人毎にプレゼンテーションを行う
14　課題発表②：個人毎にプレゼンテーションを行う
15　課題発表③：個人毎にプレゼンテーションを行う

授業では実際にパソコンを操作し、入力も多量にしてもらうので、マウス操作、キーボード操作に慣れておくこと。

定期試験
16週目に筆記試験および実技試験を行う。
試験のフィードバックの方法
manaba folioなどで解説を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習として、配布されたプリントの内容を事前に読み、講義時に操作ができるように準備しておくこと（約30分）。 復習として、内容や手順などを整理し、身近な事柄と関連づけて応用方法を考えること（約30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし。講義の際にプリントを配布する。
オフィスアワー
月曜日 4限。またはメールで受け付ける。
連絡先
daito@m.ndsu.ac.jp
留意事項
各回USBフラッシュメモリを必ず持参すること。 コンピュータの稼働台数によって履修者数が制限される。Web履修登録とは別に，学科オリエンテーションで配付する「履修希望票」を期日までに提出すること。 定員を超えた場合は、教職課程履修希望者を優先する。

家庭科教育法Ⅰ					単位数	2単位
授業コード	52430	科目ナンバリング	310B0-2000-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

学習指導要領に示された家庭科の目標や学習内容及び関連した学習評価の方法や指導上の留意点を学び、教材研究の方法を体得していく。

アクティブラーニングの実施内容	発見学習

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	家庭科の目標や内容を理解するとともに、学習内容に対応した指導上の留意点や学習評価の考え方を理解して教材研究に活用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　２０％	1
2	課題レポート　２０％	1
3	筆記試験　６０％	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：中学校技術･家庭（家庭分野）及び高等学校家庭科の目標
第２回：中学校技術･家庭（家庭分野）の主な学習内容と全体構造
第３回：高等学校家庭科の主な学習内容と全体構造
第４回：家族・家庭に関する学習内容と家庭経営学との関係
第５回：衣生活に関する学習内容と被服学との関係
第６回：食生活に関する学習内容と食物学との関係
第７回：住生活に関する学習内容と住居学との関係
第８回：乳幼児や高齢者に関する学習内容と保育学や家庭看護学との関係
第９回：消費生活に関する学習内容と家庭経済学との関係
第10回：学習内容の特性に応じたICTを含む指導上の留意点
第11回：学習内容及び学習方法に応じた家庭科の学習評価
第12回：実践的・体験的な学習指導とその評価
第13回：発展的な学習内容の事例と学習指導上の位置付け
第14回：中学校技術･家庭（家庭分野）の内容に関する課題と実践の指導
第15回：高等学校の内容に関する課題と実践の指導

定期試験
小テスト、課題レポート、リアクションペーパーの提出

試験のフィードバックの方法
授業時やmanabaを活用して解説やコメントをする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・次回授業予定のテーマに関して、テキストの該当部分を読み、疑問点を整理しておく（約３０分）。
・学習指導要領の内容が中学・高校の教科書や指導にどのように反映されているか関連付けて考える（約１時間）。

必携書（教科書販売）
＜必携書＞
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　技術・家庭編 』、2018年、ISBN 978-4-304-02154-1、文部科学省, 開隆堂
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　家庭編』、2019年、ISBN 978-4-87730-419-5、文部科学省、教育図書
『新版　授業力up　家庭科の授業』、2018年、ISBN 978-4-8208-0646-2、伊藤葉子編著、日本標準

必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　技術･家庭』, 国立教育政策研究所教育課程研究センター
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　高等学校　家庭』, 国立教育政策研究所教育課程研究センター

＜参考書等＞
授業中に指示する。

オフィスアワー
木曜日の昼休み（12：20～12：50）。
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先
s4041@m.ndsu.ac.jp

留意事項
教員免許（家庭）必修

家庭科教育法ＩＩ					単位数	2単位
授業コード	52440	科目ナンバリング	310B0-3000-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	立石　麻美子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

個別の学習内容について具体的な指導上の留意点を検討するとともに、発展的な学習内容の学習指導への位置付けについても検討していく。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	個別の学習内容について指導上の留意点を考察することができるとともに、発展的な学習内容を探究し学習指導への位置付けを考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み度　２０％	1
2	課題レポート　５０％	1
3	筆記試験　３０％	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

教員として教育実践に携わっていた経験に基づき、教育実践に関する基礎的な能力と態度及び教育者としての自覚を育成する。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

第１回：家庭科の学習内容とICTの活用及び学習評価
第２回：家族・家庭生活に関する指導上の留意点
第３回：子どもの発達と保育に関する指導上の留意点
第４回：高齢期の生活や共生社会に関する指導上の留意点
第５回：食事と健康に関する指導上の留意点
第６回：調理と食文化に関する指導上の留意点
第７回：被服管理と着装に関する指導上の留意点
第８回：住居と安全な住まい方に関する指導上の留意点
第９回：消費者の権利と責任に関する指導上の留意点
第10回：消費生活と経済計画に関する指導上の留意点
第11回：ライフスタイルと環境に関する指導上の留意点
第12回：発展的な学習内容の探究と学習指導上の位置付け
第13回：衣生活・食生活に関する課題と実践の指導
第14回：家族や家庭生活に関する課題と実践の指導
第15回：消費生活に関する課題と実践の指導

定期試験

小テスト、課題レポート、リアクションペーパーの提出

試験のフィードバックの方法

授業時やmanabaを活用して解説やコメントをする。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

・家庭科の教材として活用できる素材の収集を積極的に進め、教材化を検討する（約１時間）。
・ＩＣＴの活用や主体的な学びの指導事例等をもとに、具体的な指導方法を検討する（約１時間）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

＜必携書＞
『中学校学習指導要領（平成29年告示）』、文部科学省
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』、文部科学省
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　技術・家庭編』、文部科学省
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　家庭編』、文部科学省
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　技術・家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　高等学校　家庭』、国立教育政策研究所教育課程研究センター
『新版　授業力up　家庭科の授業』、2018年、ISBN 978-4-8208-0646-2、伊藤葉子編著、日本標準

＜参考書等＞
授業中に指示する。

オフィスアワー

木曜日の昼休み（12：20～12：50）。
質問は随時、電子メールで受け付ける。

連絡先

tateishi@m.ndsu.ac.jp

留意事項

教員免許（家庭）必修

家庭看護学				単位数	2単位
授業コード	52500	科目ナンバリング	310B0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	中新　美保子、二宮　千春				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業は、家庭において必要と考えられる健康課題について、理解を深めることを目的としている。基本的な家庭看護の知識や技術を習得していく中で、現代社会における家庭看護の課題を考察していく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	身体的・精神的症状に関する家庭での看護を理解できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	家庭看護の基本的な看護技術について説明でき、実行できる。 1. 体温・呼吸・脈拍・血圧測定 2. 身体の清潔・排泄 3. 栄養管理 4. 救急処置	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	家庭で起こりやすい事故について発達段階をふまえ理解し、それに対しての安全教育を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	家庭看護学の視点から現代社会の様々な健康課題について考察ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度（15%）	1／2／3／4
2	課題発表（40%）	3／4
3	期末レポート（授業総括レポート）（45%）	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

看護師として、小児、救命救急、成人領域に携わってきた経験から、対象者だけでなくその周囲の人々までへの看護を、看護の実態を踏まえて提起していく。そうすることで、学生が自分自身だけでなく家族やその周囲の人々までの生活実態から実践的に家庭看護を捉えていくことができる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1）二宮：オリエンテーション・家庭看護の意義
2）二宮：子どもに起こりやすい症状と家庭看護
3）二宮：子どもに起こりやすい症状と家庭看護
4）二宮：子どもに起こりやすい疾病と家庭看護
5）二宮：家庭で起こりやすい事故（事故の特徴と要因）
6）二宮：家庭で起こりやすい事故（安全教育に関する発表・ディスカッション）
7）中新：現代社会における家庭看護の課題（個人ワーク）
8）二宮：家庭看護に必要な基本技術（バイタル測定・清潔ケア）
9）二宮：家庭看護に必要な基本技術（救命処置）
10）二宮：現代社会における家庭看護の課題(グループワーク）
11）二宮：現代社会における家庭看護の課題（発表・ディスカッション）
12）二宮：家庭での栄養管理
13）中新：感染に関する基本的知識（感染症の種類）
14）中新：感染に関する基本的知識（予防接種）
15）二宮：まとめ（全体のふりかえり総括）

定期試験
15回目の授業で授業総括レポートを作成し提出してもらう。授業総括レポートには、この授業を通して習得したことと、今後どのように活かしていきたいかを記述してもらう。
試験のフィードバックの方法
16週目に授業総括レポートの結果をもとにフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
予習として、翌週に予定されているテーマに関して、新聞や図書などを用いて調べてくること（約１時間）。 復習として、授業で配布したレジュメを用いてふりかえり、学びを深め、自分の言葉で説明できるようにしておく（約1時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
資料を配付する。参考資料に関して適宜、授業の中で紹介する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
初回の授業で配布する授業計画に記載する。
留意事項
授業内容で疑問がある場合は、遠慮せずに尋ねてください。

卒業論文［20］					単位数	6単位
授業コード	53000	科目ナンバリング	310B0-3400-o6	開講年度学期	2022年度第２期、2023年度第１期、2023年度第２期	
担当者氏名	崎川　修、清水　純一、杉山　博昭、大東　正虎、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、中川　敦子、成清　仁士、葉口　英子、濱崎　絵梨					
時間割備考	2020年度入学生対象 2022年度第2期～2023年度第2期まで					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						

本授業の概要

本授業は、学習の総まとめとしての「卒業論文」作成に向けた指導を行う。
今まで培った知識・技能・思考力・分析力を活用し、課題の設定、事実認識(関連情報の収集・分析)、既存研究のレビュー、理論に基づいた考察(仮説設定、検証など)、結論に至る「論」を構築する。場合によってはその知見を実践課題に応用・適用し、課題解決の施策提案、実践準備、実践、結果の考察を行う。
その成果を卒業論文という形でまとめ、卒業論文報告会等の場で他者に分かりやすく伝える。
これらすべてを一定の水準以上に実行できなければならない。

到達目標		対応するディプロマポリシー （１知能・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 一定の水準を満たした論文を作成することができる。 （補足）具体的には以下のことがあげられる。 文献を適切に読解することができる。データを解析し求める結論を導き出せる。リサーチ・クエスチョンに対し論理的思考でアプローチし適切な分析を行うことができる。得られた結論を他者が理解できる表現・構成で文章化し、学術論文あるいは実践内容を分析した論文を書き上げることができる。 また実践活動を伴う研究テーマにおいては、外部と協働して課題に取り組み、それを分析考察することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2. 人間生活学科の卒業論文としてふさわしい研究課題を設定することができる。それに対し、適切な情報収集を行うことができる。得られた情報の本質を理解し、研究課題に適切に活用することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	3. 指導教員の助言に従い、卒業論文を期限までに適切な形式で取りまとめ、卒業論文報告会で高い水準のプレゼンテーションを行える。また、それを自ら適切にスケジュール管理することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	1. 提出された論文の内容（文献読解力，データの解析力，論理的思考・構成力，文章執筆力など）を総合的に評価する。(70%)	1／2／3
2	2. 研究態度（ゼミへの参加や取り組みの姿勢、報告会での発表内容）に基づいた評価。（30%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

企業、行政、NPOなどで勤務経験のある教員が全体の半数以上おり、学外機関（企業、行政、NPO、地域など）との連携を積極的に推進するさいにネットワークを活用できる(ゼミによって異なる)。
また論文や実践活動のテーマ設定においても、実務経験を生かした学際的な内容に取り組んだり、より多角的な観点からの助言を行うことができる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

人間生活学科掲示板に公示される内容に注意する他，指導教員の指導・指示を受けること。□
各週の授業内容は指導教員によって異なる。□
(一例)□
【2022年度　第2期】□
1～5　　卒業論文の基本構成決定□
6～10　 卒業論文作成に必要な各種情報収集、既存研究のレビュー実施□
11～12　理論構築、仮説設定、仮説検証など、研究の深化□

【2023年度　第1期】□
1～5　　リサーチクエッション、ファクトファインディングに関する章の完成□
6～10　 既存研究のレビューを通じた考察、理論に基づいた分析に関する章の完成　□
11～15　仮説設定、仮説検証、結果の考察に関する章の完成
□
【2023年度　第2期】□
1～5　　卒業論文の初校完成□
6～10　卒業論文を副査に提出□
　　卒論講座での発表□
11～15　卒業論文報告会で発表□
　　主査、副査の指導に基づき卒業論文完成

定期試験

10月：卒論講座□
11月：卒業論文の提出(主査・副査)□
12月：卒業論文報告会□
　　卒業論文の提出(最終)

試験のフィードバックの方法

主査、副査による評価、学科教員全員での卒業認定審査

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

指導教員に対し主体的に相談を持ちかけ、各自の研究テーマに即した文献・資料等をできるだけ多く見つけ出し、研究レベルを高めるように努力・研鑽のこと。
自分自身でスケジュールを決め、取り組むこと。本格的な執筆時期に入る前でもゼミ活動の前後に予習（準備）、復習を各１時間程度行うこと。

必携書（教科書販売）

共通のものは使用しない。□
各指導教員の指示に従うこと。

必携書（教科書販売以外）

「大学生のための研究ハンドブック」大学教育出版 2011□
「アカデミック・スキルズ（第３班）」慶応義塾大学出版会□
人間生活学科「卒業論文報告（要約）」

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当教員が授業中に伝える。

連絡先

各担当教員が授業中に伝える。

留意事項

研究指導においては、SNSではなく、eメールあるいはmanabaを利用する。
特に、教員からの連絡に対し、遅滞なく返答をすることについて気を付けてもらいたい。

卒業論文［21］					単位数	6単位
授業コード	54000	科目ナンバリング	310B0-3400-o6	開講年度学期	2023年度第２期、2024年度第１期、2024年度第２期	
担当者氏名	崎川　修、杉山　博昭、大東　正虎、豊田　尚吾、深谷　信介、中井　俊雄、中川　敦子、成清　仁士、葉口　英子、濱崎　絵梨、立石　麻美子					
時間割備考	2021年度以降入学生対象 2023年度第2期～2024年度第2期まで					
授業形態（主）	２演習					
授業形態（副）						
担当形態	複数					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

本授業においては、大学における学びの集大成としての「卒業論文」作成に向けた指導を行う。それぞれが自らの設定した課題について、情報・資料の収集と分析、理論に基づいた考察（仮説設定と検証など）、さらには実践課題への応用と課題解決の提案などの方法により研究し、その研究成果を論文として執筆する。研究の過程においては、各ゼミにおいてそれぞれの研究内容についてのプレゼンテーションとディスカッションを重ね、最終的には卒業論文発表・審査会において報告を行う。
研究方法や研究指導の進め方は、それぞれのコース、ゼミによって異なるため、論文の作成は各ゼミの担当教員の指導、助言に従って進められる。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 人間生活学科の卒業論文としてふさわしい研究課題（リサーチ・クエスチョン）を設定することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2.研究に必要な文献・資料の的確な収集と分析（テーマによっては実践活動による研究データの収集）を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	3.論理的・批判的思考を用いて課題について適切に考察し、結論を導き出すことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	4.研究内容を学術論文の形式で構成し表現することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5	5.研究成果について、定められたスケジュールに従って提出、発表することができる。	思考・判断・表現力／主体性

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	1.提出された論文の内容（課題設定・論文構成の適切性、資料・データの分析力，考察の論理性，文章力など）の総合的評価。(70%)	1／2／3
2	2.研究態度（ゼミへの参加や卒論作成への取り組みの姿勢、卒業論文発表・審査会での発表内容）の評価。（30%）	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

企業、行政、NPOなどで勤務経験のある教員が全体の半数以上おり、学外機関（企業、行政、NPO、地域など）との連携を積極的に推進する際にネットワークを活用できる(ゼミによって異なる)。
また論文や実践活動のテーマ設定においても、実務経験に基づいて、より学際的、多角的な観点からの研究に向けた助言を行うことができる。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

＊卒論指導の進め方は、各ゼミの研究方法等に従って異なる。以下は一例である。
□
【2023年度　第2期】□
1　　オリエンテーション（各ゼミごと）
2～5　研究計画についての発表・討議・実践活動等
6～10　研究情報収集、先行研究のレビューの実施と報告
11～15　論文完成に向けた研究計画書の作成と目次の決定、報告□

【2024年度　第1期】□
1～5　　題目提出（5月10日前後）および研究資料の分析□
6～10　卒論講座（中間発表）に向けた論述の整理　□
11～15　ゼミでのピアレビューを踏まえた論述内容の再検討
□
【2024年度　第2期】□
1～5　　卒業論文原稿の完成□
6～10　論文を指導教員に仮提出（11月20日前後）
　　主査・副査教員による査読□
11～15　卒業論文発表・審査会での報告と質疑□
□　卒業論文の本提出（12月20日前後）
　　卒業論文要約の提出
　　論文データの提出

定期試験

定められた期日までに、以下の提出・発表等が課せられる

5月：卒業論文題目の提出
7月：卒論講座への出席（中間報告：ゼミ代表者が行う）□
11月：卒業論文の仮提出□
12月：卒業論文発表・審査会における発表□
　　卒業論文の本提出
　　要約の提出
1月：卒業論文データの提出

試験のフィードバックの方法

卒業論文発表・審査会においては、主査、副査教員が直接コメントする。
卒業論文判定会議での評価については、各指導教員を通じて伝えられる。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

卒論執筆においては、各自が研究に主体的に取り組み、指導時間外の自主学習において、積極的に研究を進めることが求められる。
本格的な執筆時期に入る前であっても、ゼミ活動の前後には自己の研究テーマについての資料分析や課題の整理などを行うこと。

予習：資料の確認と指導教員への質問事項の整理（60分）
復習：教員からの指摘に基づく考察内容の検討（60分）

必携書（教科書販売）

共通のものは使用しない。□
各指導教員の指示に従うこと。

必携書・参考書（教科書販売以外）

『大学生のための研究ハンドブック』大学教育出版,2011□
『アカデミック・スキルズ（第３版）』慶応義塾大学出版会,2020□
『卒業論文報告（要約）』ノートルダム清心女子大学人間生活学科（各年ごとに配布しているもの）

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当教員が授業中に伝える。

連絡先

各担当教員が授業中に伝える。

留意事項

・研究指導においては、SNSではなく、eメールあるいはmanabaを利用して連絡を行う。
・教員からの連絡に対しては、遅滞なく返答をするように留意すること。また不明点等があればすみやかに指導教員に確認、相談すること。
・必要な提出期限や提出に関する様式等は厳守することが求められる。詳しくは学科から配布される「卒業論文作成マニュアル」を参照すること。